

施工マニュアル

第1版

プラスチック系床材・カーペットの施工と監理

施工方法・メンテナンス編

TOLI

INDEX

第1章 床材の施工方法	1
施工の共通事項	2
(1) ビニル床タイルの施工	
ビニル床タイルの施工	4
ビニル床タイルの施工 / 階段施工	6
目地棒を利用した施工	7
ビニル床タイルの施工 / 異形サイズ	8
タフテックタイルの施工	12
二重床土へのルースレイタイルの施工	14
LAYフローリングの施工	15
ゴム床タイル (プラート・プラートF) の施工	18
(2) ビニル床シートの施工	
ビニル床シートの施工	19
継目処理 (溶接棒)	22
継目処理 (東リ ジョイントシールド)	23
継目処理 (シーム液など)	26
継目処理 (東リ スーパーシーム液)	27
継目処理 (NSシールなど)	28
ビニル床シートの施工 / 階段 (ひな段式) の施工	29
アンダーレイシート・NSアンダーレイシート上への施工	30
巻上げ施工	32
ビニル床シートの施工 / 耐水工法 (簡易防水工法)	34
NSシートの施工	36
東リNSステップ800	37
NSセパレーン	41
NSパス	42
NSパス蓋付	43
浴室用ビニル床シート『バスナシリーズ』の施工 (バスナリアルデザイン・バスナフローレ・バスナアルティ)	44
導電性ビニル床シート『アースリウム』の施工 (アース工法)	48
舞台用ビニル床シート『TMフロア』の施工	49

(3) タイルカーペット・ロールカーペットの施工	
タイルカーペットの施工	50
タイルカーペット用アンダーレイシートの施工	52
ファブテックタイルの施工	53
ロールカーペット / フェルトグリッパー工法	54
ロールカーペット / フェルトグリッパー工法 / 廊下	58
ロールカーペット / フェルトグリッパー工法 / 階段	59
ロールカーペット / 全面接着工法	60
ロールカーペット / 置敷き工法	62
ロールカーペット / ボーダー回し (島)	64
半屋外対応カーペット『ハノークカーペット』の施工	65
(4) 巾木・立面材の施工	
巾木の施工	66
ソフト巾木・ロング巾木・デザイン巾木の施工	67
ササラ巾木の施工	68
防汚抗菌ワイド巾木の施工	69
ウェーブ巾木の施工	70
スタイル巾木の施工	71
腰壁シートの施工	72
(東リ 防汚消臭腰壁シート・東リ 不燃腰壁シート・ ファブテック腰壁)	
(5) その他の施工	
床暖房システムの構造と床材施工	76
視覚障がい者用床材の施工 (SGタイル・SGカーペット)	80
東リ 段差調整材の施工	82
重ね貼り工法	83

第2章 メンテナンス	84
高分子系床材のメンテナンス	84
NWシリーズ / NW-EXシリーズのメンテナンス	86
カーペットのメンテナンス	88
ファブテックタイルのメンテナンス	89

施工の流れ

下地の検査と確認

- 下地の種類
- 下地湿気
- 下地の吸水性
- 平滑性
- 汚れ
- 下地表面強度
- たわみ
- 段差
- 亀裂 など

施工の準備

- 施工環境 (温度・湿度など) の調整
※温度は10℃以上が望ましい
- 材料の搬入
- 納入材料の品番・数量確認
- 下地調整
- 清掃
- 基準線の墨出し

施 工

- | | |
|---|--|
| A) ビニル床タイルの施工
接着剤塗布 → 貼付け → 圧着 | C) タイルカーペットの施工
接着剤塗布 → 貼付け |
| B) ビニル床シートの施工
粗切り → 仮敷 → 接着剤塗布 →
貼付け → 圧着 → 継目処理 | D) ロールカーペットの施工
(接着工法)
仮敷・粗切り → 接合部のカット →
接着剤塗布 → 貼付け →
壁際のトリミング |

残材処理・清掃

施工後の点検

養生期間をとる (接着剤が完全に硬化するまで)

ビニル床タイル・ビニル床シートは養生作業+ワックス塗布

ただし、NW シリーズ・NW-EX シリーズは養生作業 (クリーナーによるポリッシャー洗浄)
カーペットは養生作業

第1章

床材の施工方法

P. 2 施工の共通事項

〔1〕ビニル床タイルの施工

- P. 4 ビニル床タイルの施工
- P. 6 ビニル床タイルの施工 / 階段施工
- P. 7 目地棒を利用した施工
- P. 8 ビニル床タイルの施工 / 異形サイズ
- P.12 タフテックタイルの施工
- P.14 二重床上へのルースレイタイルの施工
- P.15 LAYフローリングの施工
- P.18 ゴム床タイル(ブラート・ブラートF)の施工

〔2〕ビニル床シートの施工

- P.19 ビニル床シートの施工
- P.22 継目処理(溶接棒)
- P.23 継目処理(東リ ジョイントシールド)
- P.26 継目処理(シーム液など)
- P.27 継目処理(東リ スーパーシーム液)
- P.28 継目処理(NSシールなど)
- P.29 ビニル床シートの施工 / 階段(ひな段式)の施工
- P.30 アンダーレイシート・NSアンダーレイシート上への施工
- P.32 巻上げ施工
- P.34 ビニル床シートの施工 / 耐水工法(簡易防水工法)
- P.36 NSシートの施工
- P.37 東リ NSステップ800
- P.41 NSセパレーン
- P.42 NSバス
- P.43 NSバス蓋付
- P.44 浴室用ビニル床シート『バスナシリーズ』の施工
(バスナリアルデザイン・バスナフローレ・
バスナアルティ)
- P.48 導電性ビニル床シート『アースリウム』の施工(アース工法)
- P.49 舞台用ビニル床シート『TMフロア』の施工

〔3〕タイルカーペット・ロールカーペットの施工

- P.50 タイルカーペットの施工
- P.52 タイルカーペット用アンダーレイシートの施工
- P.53 ファブテックタイルの施工
- P.54 ロールカーペット / フェルトグリッパー工法
- P.58 ロールカーペット / フェルトグリッパー工法 / 廊下
- P.59 ロールカーペット / フェルトグリッパー工法 / 階段
- P.60 ロールカーペット / 全面接着工法
- P.62 ロールカーペット / 置敷き工法
- P.64 ロールカーペット / ボーダー回し(島)
- P.65 半屋外対応カーペット『ハノーク カーペット』の施工

〔4〕巾木・立面材の施工

- P.66 巾木の施工
- P.67 ソフト巾木・ロング巾木・デザイン巾木の施工
- P.68 ササラ巾木の施工
- P.69 防汚抗菌ワイド巾木の施工
- P.70 ウェーブ巾木の施工
- P.71 スタイル巾木の施工
- P.72 腰壁シートの施工
(東リ 防汚消臭腰壁シート・東リ 不燃腰壁シート・
ファブテック腰壁)

〔5〕その他の施工

- P.76 床暖房システムの構造と床材施工
- P.80 視覚障がい者用床材の施工
(SGタイル・SGカーペット)
- P.82 東リ 段差調整材の施工
- P.83 重ね貼り工法

施工の共通事項

1. ビニル床タイル・タイルカーペットの割付け

割付け

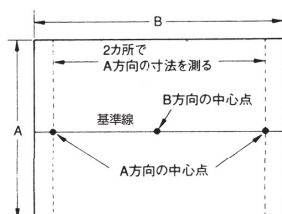
- 原則として、左右対称に割付けます。(デザイン指示がある場合はそれに従い割付けます。)
- 壁際には、1/3以下の寸法のもが入らないようにします。

基準線

タイルは、まっすぐ貼ることが難しい。部屋の長手方向に基準線を墨打ちします。基準線に沿って、タイルを丁寧に敷き並べていきます。

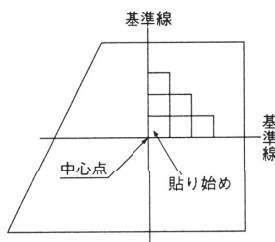


長方形の部屋



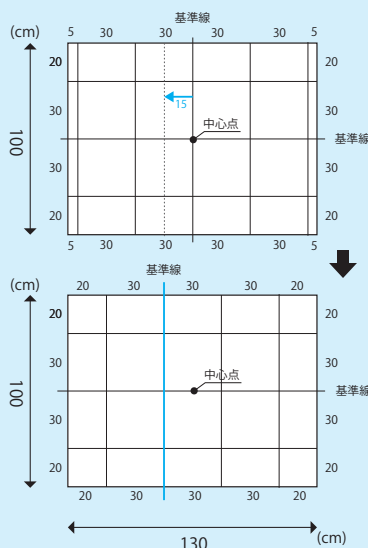
1. 部屋のA方向の寸法を2ヶ所で測り、それぞれの中心点を求め、その2点を結び墨打ちします。
2. 墨打ちした基準線上にB方向の中心点を求め、その中心点上にA方向の基準線を設けます。
3. 中心点から各辺に必要な枚数を算出します。

台形の部屋



メモ

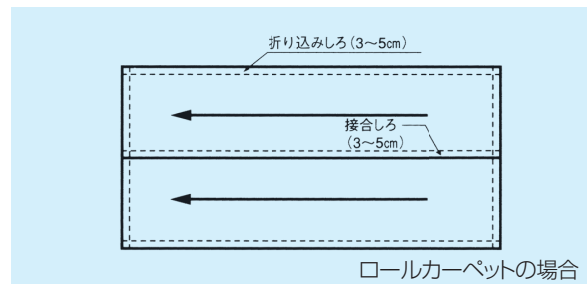
- 130cm×100cm角スペースにおける割付け例 (30cm角のビニル床タイルを使用)



中心から貼り始めた際、左右に端物が入る場合は、基準線を1/2枚分ずらして貼付け基準線とします。

2. ビニル床シート・ロールカーペットの割付け

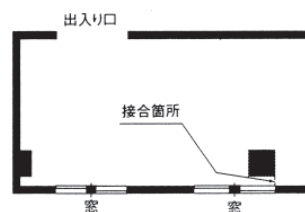
- ジョイントは少なくします。
- 出入口部にジョイントが入らないようにします。
- ジョイントは部屋の長手方向に合わせます。



接合 (ジョイント) 作業の時、ビニル床シートの両耳 (端) のひずみを切り落としてまっすぐに揃えてから接合します。ビニル床シートもロールカーペットの折り込みしろ同様に割付けサイズそのままでは施工できません。ビニル床シートの両端に、必ず1辺について3~5cm余分に必要です。これを接合しろ (または整理切りしろ) と言います。

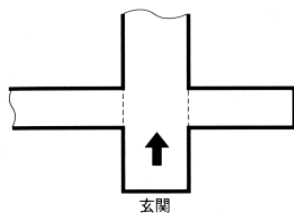
1) 室内

- 出入口付近や窓・家具・什物の配置上よく通るところに接合がかかることは、できるだけ避けるように割付けます。
- 室内に柱がある場合は、歩行が少なく出入口から見えにくいところで接合するように割付けます。(下図)

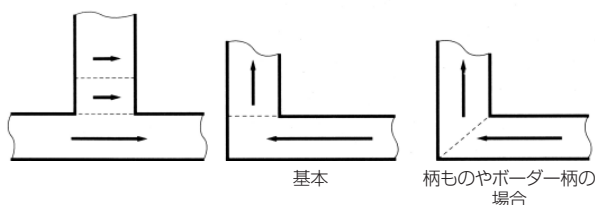


2) 廊下

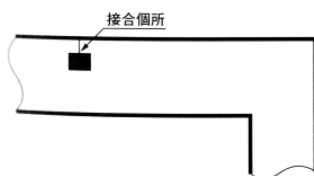
- 廊下では、接合位置は玄関など、主とする出入口から見えにくいところに割付けていきます。



- 曲がり角のパイル方向は進行方向に揃えます (矢印)。



- 柱がある場合は、歩行量が少なく見えにくいところで接合するように割付けます。



メモ

基準線

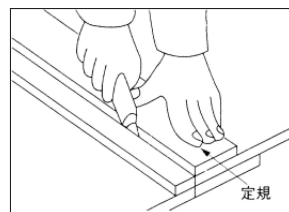
壁際から貼り始めるため、原則として基準線は必要ありません。ただし、壁が複雑でビニル床シートやロールカーペットをまっすぐに施工できない場合は、最初に貼り始める位置に基準線を決め、墨打ちします。

3. 施工の前に（確認事項）

- 同一空間は同ロットの製品で施工します。施工前に、色番・ロット番号・数量を確認してください。
- タイル・タイルカーペットは市松貼りの場合と、流れ貼り（流れ方向を合わせる）場合があります。デザイン指示書もしくは裏面の矢印方向などで確認してください。
- ビニル床シート・ロールカーペットは流れ方向を合わせます。裏面の矢印方向などで確認してください。
- ビニル床シートの施工では、耳部どうしてジョイントしてください。耳部と中央部とのジョイントでは色違いが生じることがあります。

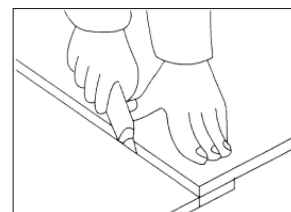
4. 裁断方法（例）

重ね切り



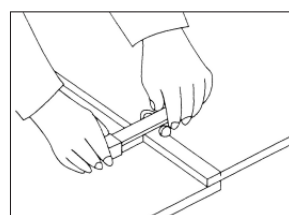
2枚の材料を重ねて2枚同時に裁断します。

合わせ切り（片落とし方式）



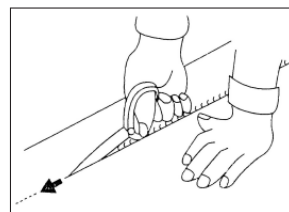
上にくる材料を基準に、上の材料に沿わせて下の材料を裁断します。

落とし込み



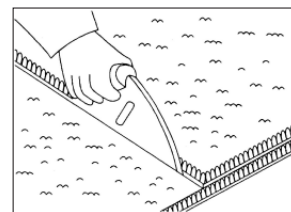
落とし込みであらかじめけがいてから、カッターで裁断します。

目通し



裁断鋸の刃先などを使って、カーペットの裁断箇所のパイルをさばいて裁断線をつけ、これに沿ってループパイルカッターやはさみなどで裁断します。

片目通し



あらかじめ目通した材料を上置き、これに沿わせて下の材料を裁断します。

1. ビニル床タイルの施工

施工上の特性

◎タイルは四角形で1枚の面積が小さく目地が多いため、以下の点に注意してください。

- 接着不良による剥がれ、突上げ、目地隙きなど施工後の形状変化が発生しやすい。
- まっすぐ施工しにくい。
- 品番・色番・ロットによって寸法に若干のバラツキがあるので、柄貼り時には特に寸法調整が必要。
- 大面積では目地のずれが生じやすい。
- 接着剤が目地から染みやすい。

◎コンポジションビニル床タイルは材質的に硬いため、下地の凹凸になじみにくく割れやすくなります。

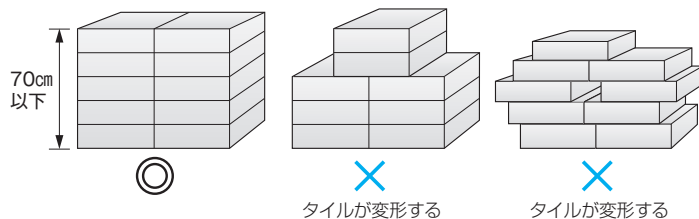
◎複層ビニル床タイルは温度変化によって寸法変化しやすいのでご注意ください。

◎ビニル素材のため高温に弱く、変形や凹み跡が出るおそれがあります。

トーチランプを使用する場合は加熱しすぎると焦げたり溶けて変形することがあるのでご注意ください。

運搬・保管上のご注意

- 製品は梱包をとかずに、平坦な場所に保管し、積載は70cmまでを限度とします。積み過ぎ、長時間にわたる直射日光や高温状態での暴露、雨水などによる水濡れは避けてください。変形・変退色・変質の原因となります。



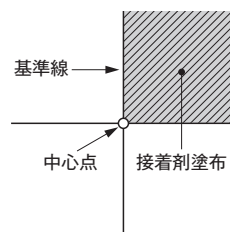
施工手順

1 下地が強固で、平滑なことを確認し、ワックスや汚れは除去します。隙間や段差等は補修します。

2 貼付け方向、取り合わせを検討し割付けます。

- 部屋の縦・横寸法の最大値、出柱などの位置を実測して、これに応じた割付けを行います。
- 壁際は小さなサイズの端物が入らないよう割付けは配慮してください。サイズが小さいと美観を損ねるだけでなく、壁際は接着剤が乾き気味で施工することが多いため、接着が不完全になりやすく、十分な接着強度が得られないおそれがあります。
- 壁際に小さなタイルが入る時は、1枚手前の真物と同時に接着剤を塗布することで接着不良を抑えることができます。

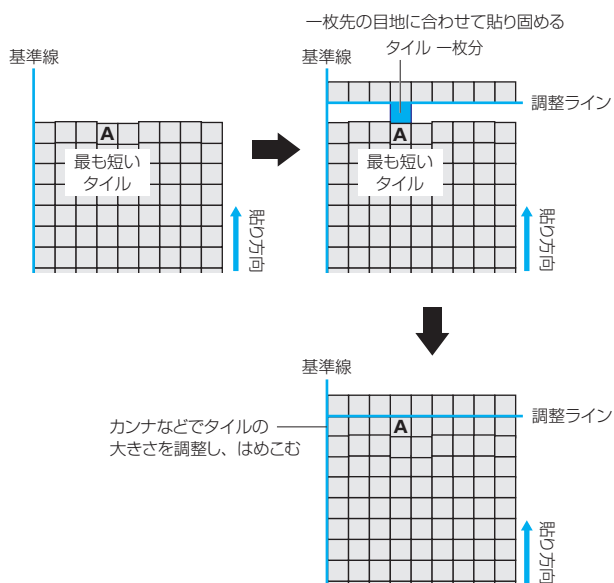
3 基準線で仕切られた1/4面に、接着剤を塗布していきます。



接着剤の貼付け可能時間や作業スピード、および作業環境を考慮にいれ、必要な面積だけ指定接着剤を塗布してください。

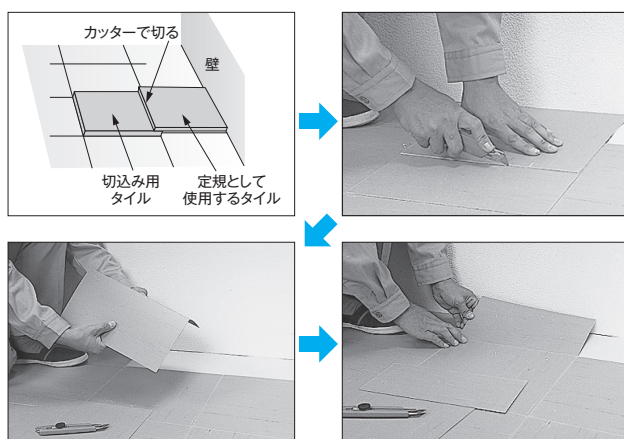
4 所定の待ち時間を取り、目地ズレのないように、圧着しながら中心より壁に向けて貼り広げていきます。

- 市松貼りや方向性のあるタイルは、裏の矢印を見て間違えないように施工してください。
- 広い部屋では、目地ズレが発生することがあります。そのときは、ズレが大きくなるうちに、1枚先の最も短いタイルの目地に合わせて貼り固めてから、カンナなどでタイルの大きさを調整し、はめこみます。



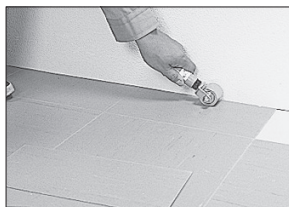
5 壁際や柱回り、パイプ周囲などに貼るタイルは、隙間や浮きがないように切込み、ローラーで圧着します。

【切込みタイルのカット方法】

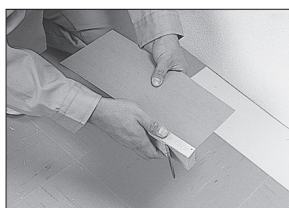


〈合わせ切り〉

切込みを行うタイルを一枚手前のタイルの上に正確にのせます。定規として使用する別のタイル一枚を壁に沿わせて、切込みするタイルの上に重ね、その端をカットします。



ハンドローラーを使い、床材全体を十分に圧着してください。



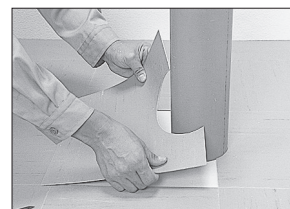
切り口が粗い時やタイル寸法がきつい時はカンナで修正してください。

切込み枚数が多い時は、接着剤が乾燥することがあるので、切込み後に接着剤を塗布するなどの配慮が必要です。

【パイプがある場合の施工方法】



切込みを行うタイルを一枚手前のタイルの上に正確にのせ、印を付けます。パイプの手前、奥、左右などを採寸して、同様に一枚手前のタイルに正確にのせ印を付けます。印をつないでカッターで切ります。



ヘアードライヤーなどで温めながらタイルを貼付け、ハンドローラーで十分に圧着してください。

6 貼付け後30分以内にTローラー（タイルローラー）や3本ローラー（45kgローラー）などで十分に圧着します。

7 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで養生期間をとります。（溶剤形および反応形接着剤:48時間、ラテックス形・エマルション形:7日以上）

施工直後に養生シートをした場合、床タイルと養生シートの間に結露水や水蒸気・溶剤蒸気がこもり、床タイルの反り・突上げなどが生じる可能性があります。養生シートは接着剤が充分硬化してから使用してください（基礎知識編P.25参照）。

メモ

温度が低く、圧着やなじみがうまくいかない時



適切な室内温度に加温してください。特に冬期は、施工中は10℃以上を保つようにします。低温時には運搬中に床材が冷えていることが多いので、事前に床材を室内に保管し室温になじませてから施工します。

ビニル床タイルの施工 / 階段施工

施工手順

階段施工の順序



※ノンスリップの形状により踏み面の施工とノンスリップの取付けの順序は逆になることがあります。

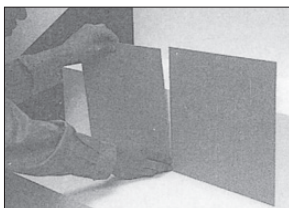
1 蹴上げの割付け・基準線を設定します。



- 直階段の場合、階段幅の左右対称に貼付けます。左右それぞれの壁際の残り幅が床タイルの1/3以下の場合、どちらかに床タイルを半分ずらした位置を基準線とします。
- 踊り場のある階段は、踊り場を基本に割付けます。

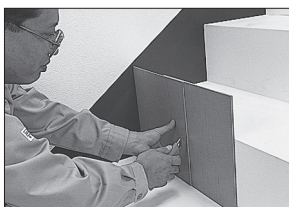
2 蹴上げの施工。基準線から順々に貼り広げていきます。

- 基準線に合わせて、踏み面に沿うようにけがき、このタイルを基準に次の床タイルの下辺を合わせてけがきます。



- 接着剤は巾木糊・エコLX巾木糊を使用してください。

3 端物のタイルは、合わせ切りします。



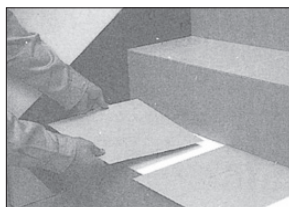
！ 注意

タイルは事前に貼付ける順番通り重ねておきます。

4 上端は、ノンスリップ金物にのみ込まれるように直定規で裁断します。裁断後、ハンドローラーで入念に圧着してください。

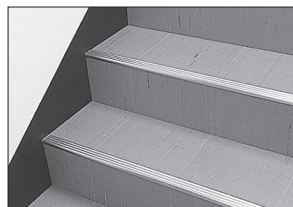


5 踏み面にタイルを貼付けます。



6 ノンスリップ金具を取付けます。

7 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認します。必要に応じて養生してください。

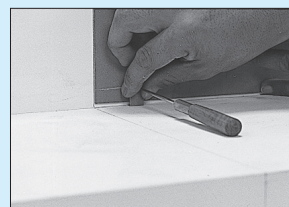


メモ

蹴上げ部のタイルが踏み面となじまない場合



踏み面に沿うように下辺をけがいて施工します。小さな巾定規状のものを利用するとよいでしょう。



目地棒を利用した施工

目地棒は通常、ビニル床タイルの目地部のアクセントとして使用します。

300mm角や450mm角のタイルを1枚、2枚、4枚、9枚などを1ブロックとして、その周りに目地棒を入れて施工します。

施工上の特性

◎非常に細く、タイルの厚みより薄いことから、貼った際にタイルの目地棒が低く圧着がききにくい
ため、接着不良になりやすいのでご注意ください。

※規格2mm厚の目地棒の実寸は1.8mm厚で2mm厚タイル用、規格3mm厚の目地棒の実寸は2.8mm厚で3mm厚タイル用
です。

◎目地棒は樹脂の配合量が多く、材質的に寸法変化しやすいため、以下の点に注意してください。

- 急激な温度変化の影響で寸法変化しやすく、特に高温時は伸びやすい。
- 下地湿気がある場合、接着剤が無効化して寸法変化を抑えられず、また、目地棒部分の面積が小さいことも手伝って、突上げによる目地棒の剥がれが生じやすい。

施工手順

1 目地棒の材料計算をして、およその使用
本数を算出します。

- 1㎡あたりに必要な目地棒の大まかな使用本数の算出方法
a：目地棒で囲むタイルの1区画分の縦の長さ(m)
b：目地棒で囲むタイルの1区画分の横の長さ(m)
0.92m＝目地棒の長さ

$$1\text{㎡あたりの使用本数} = \frac{(a+b)}{(a \times b) \times 0.92\text{m}}$$

2 床材の施工手順に準じて割付け基準線を
設けます。

(ビニル床タイル・タイルカーペットの割付け P.2 参照)

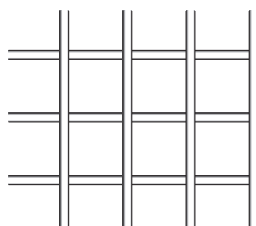
3 基準線に従って、同時施工のタイルと同じ
指定接着剤を塗布します。

！ 注意

目地棒を使用した施工でゴム系ラテックス形接着剤（エコロ
イアルセメント）は使用できません。一般工法（乾燥したモ
ルタル・コンクリート下地）の場合でも、アクリル樹脂系エ
マルジョン形接着剤「エコ AR600」を使用してください。
※ウレタン・エポキシ樹脂系接着剤はそのまま使用可能です。

4 所定の待ち時間を取り、目地ズレのないよう
に、タイル・目地棒と交互にはさんで圧着し
ながら貼り広げます。目地棒部分も、目地棒
幅のローラーで念入りに圧着します。目地棒
は線の入っている方を下にして施工します。

！ 注意



目地棒の縦方向は目地棒
をそのままつないでいきま
すが、横方向はタイルの一
組の長さに切ってはめこん
だ方が、ロスは大きいもの
の、小さな目地棒が入らな
いので、仕上がりの美観や
接着力からも好ましいと言
えます。

メモ

床材より目地棒
が低く、圧着し
にくい。



目地棒の上にもう一本目地棒を
のせ、その上からハンドローラー
で押さええます。

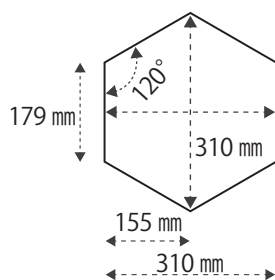
5 接着剤などによる汚れや不備な点がないか
を確認し、接着強度が出るまで48時間以
上養生期間をとります。必要に応じて養生
シートで養生してください。(P.5 参照)

ビニル床タイルの施工 / 異形サイズ

施工上の特性

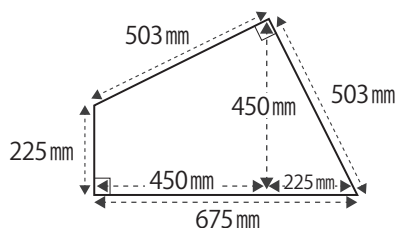
◎異形サイズのビニル床タイルは、正方形や長方形のタイルと比較して施工方法が異なります。タイル形状が“六角形”（ヘキサ）と“不等辺四角形”（テトラ）の2タイプについて施工方法を解説します。

①六角形（ヘキサ：正六角形）



1枚当たり面積
約0.0832㎡

②不等辺四角形（テトラ）



1枚当たり面積
約0.2025㎡



注意

- ・鋭角部分は欠けやすく鋭利なため、取扱いには充分注意してください。
- ・梱包時でも取扱い方によっては鋭角部分がつぶれることがあります。箱を壁にぶつける、落とすなどしないでください。

施工手順

1

タイルの必要枚数確認。

- 施工部位の面積を異形タイル1枚当たりの面積で割って算出。
- 貼付けパターンに応じて下記方法で算出。

※いずれも施工時のロス率を見込んだ数量で材料を手配してください。

ただし、多色の貼付けではパターンにより各色タイルの必要数量に差が出ることを考慮してください。

※壁周り等では、切込み寸法の小さいタイル（5～6cm以下）が規則的に発生します。壁周り等は手前で異形タイルを裁断して直線状におさめ、その周りを正方形や長方形のタイルでボーダー状に囲うことにより、施工手間や材料ロスを減らすことができます。

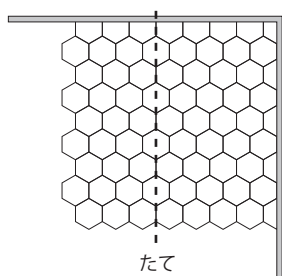


六角形（ヘキサ）

割付基準線に対して、タイルの辺のたて線が見える方向を“たて”、直交する方向を“よこ”とします。

“たて”×“よこ”の2倍が最低必要数量となります。

<貼付けイメージ図>

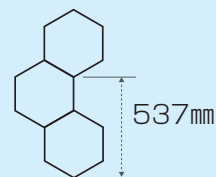


必要枚数（端数切上げ）

たて枚数＝長さ÷537mm

よこ枚数＝長さ÷310mm

最低必要枚数＝たて×2×よこ



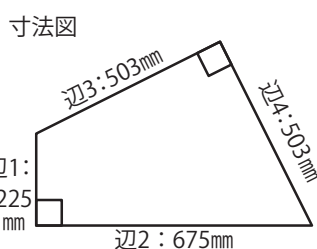
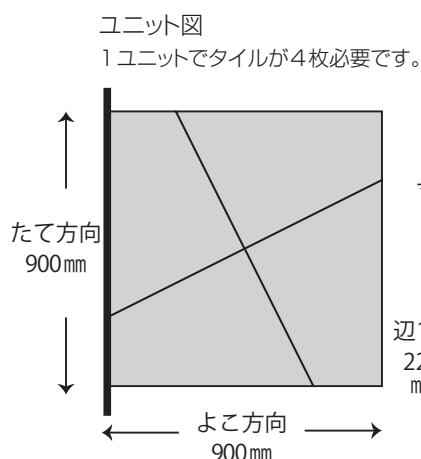
“たて”は、537mmがユニット単位になり、1ユニットでタイルが2枚必要です。

不等辺四角形（テトラ）

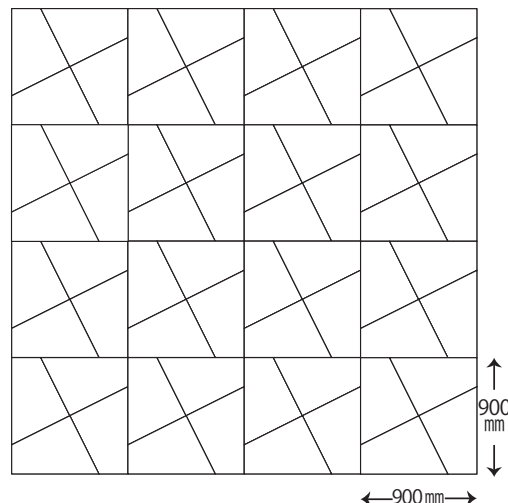
●基本パターン「グリッド」 4枚 1組900mm角ズラシなしについて

割付基準線に対して、「下記（ユニット図）の太線部分」が平行な方向を“たて”、直交する方向を“よこ”として、施工部位の寸法を“たて”：900mm、“よこ”：900mmで割って各々の必要枚数（端数切上げ）を算出してください。

※施工部位の一边の長さを900mmで割った端尺により、必要枚数が異なります。

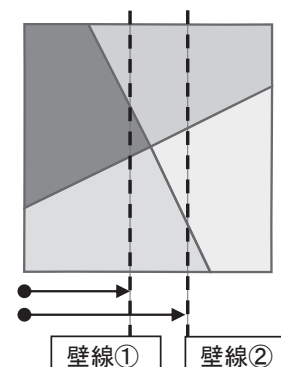


貼り付けイメージ図
「グリッド」 4枚 1組900mm角のズラシなし



右図のように端尺が、壁線①の場合と壁線②の場合では、必要枚数が異なります。タイルから壁線が①までの場合、余剰タイルが3枚必要で、壁線が②の場合は、4枚必要となります。

端尺が450mm以上と450mm以下の割り付けで枚数が異なるので注意が必要です。
多色のタイルでの貼り付けは、色ごとに必要枚数を計算してください。

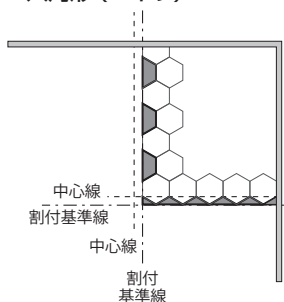


2 割付け

異形タイルの施工では基準線の設け方が難しくなります。特に、壁回り等では切込み寸法の小さいタイル（5～6cm以下）が規則的に発生します。この対策としては、壁周り等の少し手前で異形タイルを裁断して直線状に納め、その周りを正方形や長方形のタイルでボーダー状に囲う方法をおすすめします。

3 接着剤塗布および貼付け

・六角形（ヘキサ）



①割付基準線に合わせて、タイルを貼付けパターンで2～3列仮敷きし、その形状に合わせて下地に線を引きます。

②仮敷きしたタイルを取外し、形状に合わせて引いた線からはみ出さないように接着剤を塗布します。

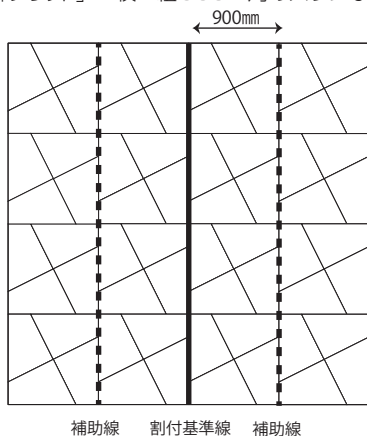
③待ち時間を取りタイルを貼付けます。目地ズレが発生した場合はズレが大きくならないうちに、カンナなどでタイルの大きさを調整し納めてください。調整が難しい部分には目地補修剤を充填して目地部を仕上げます。

ビニル床タイルの施工 / 異形サイズ

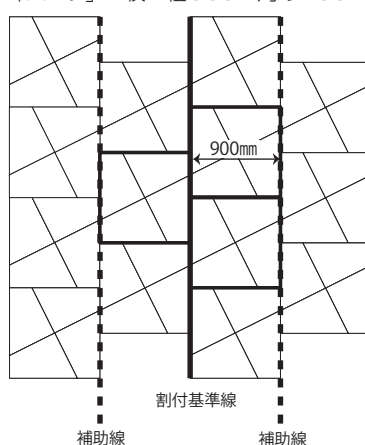
■ 不等辺四角形（テトラ）

① 施工場所の寸法を測り、割付基準線を設けてください。基準線からはみ出さないように接着剤を塗布します。パターンによって、基準線に対して225mm、450mm、900mmズラした箇所に補助線を設けると、タイルの貼り付けの調整がしやすくなります。

「グリッド」4枚1組900mm角のズラしなし

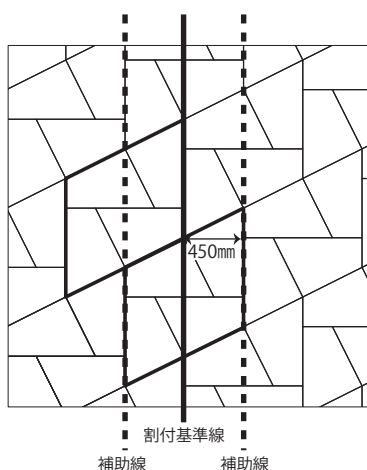


「ハーフ」4枚1組900mm角の450mmズラシ

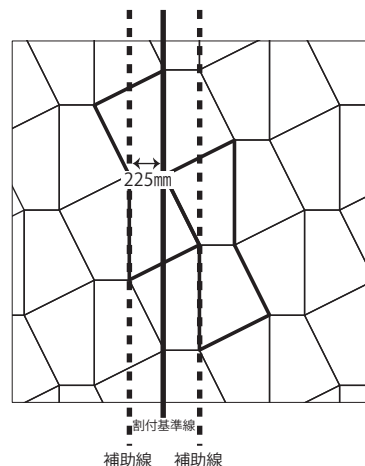


※ 「ダイヤモンド」と「リボン」は基準線内に収まらないタイルが発生します。施工後、該当タイルをめくり、接着剤を塗布してください。

「ダイヤモンド」4枚1組平行四辺形



「リボン」2枚1組



② 適切な待ち時間を取り、タイルを貼り付けてください。目地ズレが発生した場合はズレが大きくないうちに、カンナなどでタイルの大きさを調整し収めてください。調整が難しい部分には目地補修剤を充填して目地部を仕上げてください。目地部から接着剤がはみ出した場合はすぐに拭き取ってください。

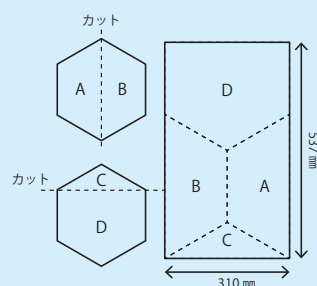
4

壁際の切込み

壁回り等の仕上げは、切込むタイルを一枚手前のタイルに乗せ“寸法取り用定規”を使用して納めます。

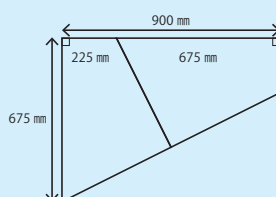
壁際の切込みはユニット単位を基にした“寸法取り用定規”を使用すると便利です。
厚さ3mm程度の平滑なボードや施工タイルを使用してください。

■ 六角形（ヘキサ）寸法取り用定規

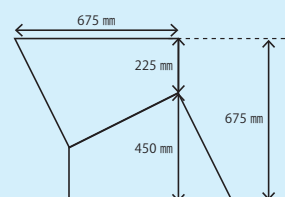


■ 不等辺四角形（テトラ）寸法取り用定規（基本施工用）

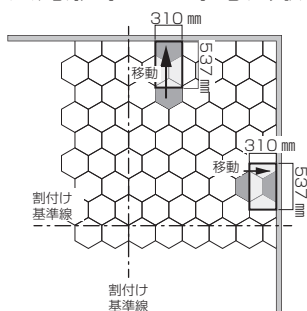
A) 900mm幅定規
(675mm×900mm)



B) 675mm幅定規
(675mm×675mm)



●六角形（ヘキサ）寸法取り用定規（310mm×537mm）を使用した端部処理

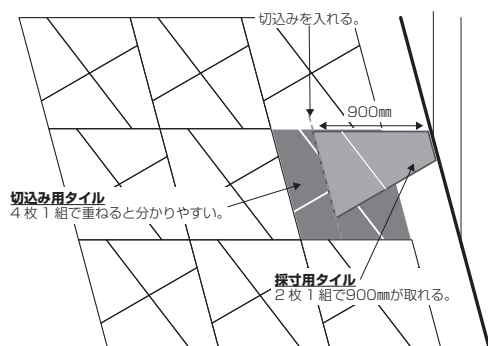


●不等辺四角形（テトラ）寸法取り用定規

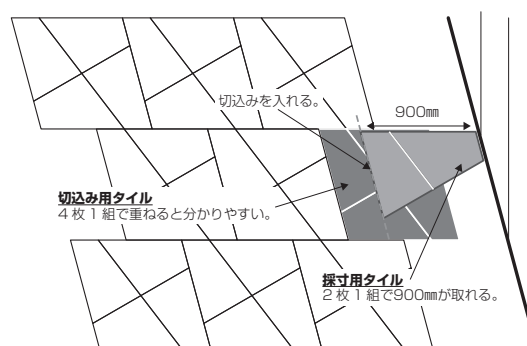
A) 900mm幅定規（675mm×900mm）、B) 675mm幅定規（675mm×675mm）を使用した端部処理

「グリッド」「ハーフ」「ダイヤモンド」は、A)900mm幅（675mm×900mm）の定規を使用します。

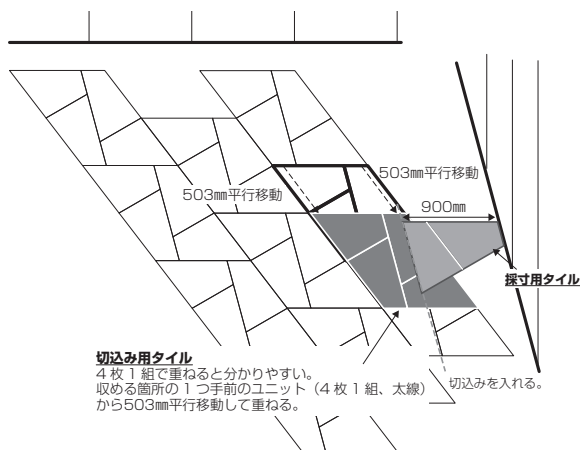
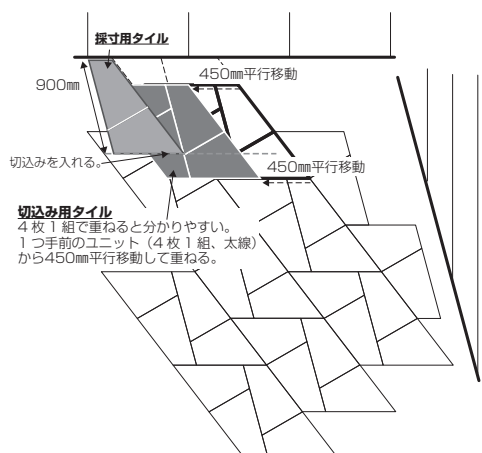
「グリッド」4枚1組900mm角のブラシなし



「ハーフ」4枚1組900mm角の450mmブラシ

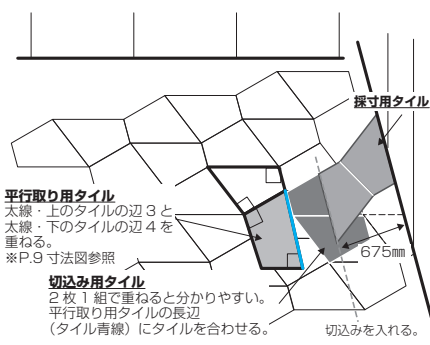
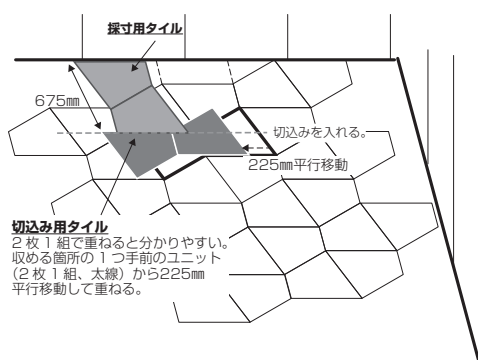


「ダイヤモンド」4枚1組平行四辺形



「リボン」は、B)675mm幅（675mm×675mm）の定規を使用します。

「リボン」2枚1組

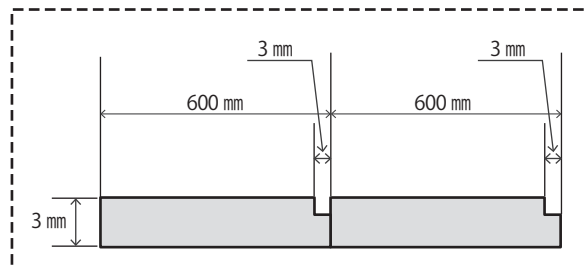
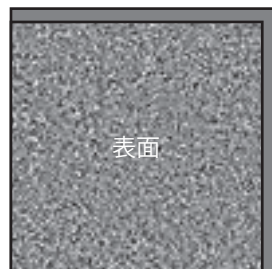


タフテックタイルの施工

施工上の特性・注意事項

- ◎タイルの2辺に特殊な目地加工を施しているため、目地部分の段差で引っかかりを生じることがあります。使用方法によってはけがをするおそれがありますので素足や衣類（靴下等）での使用の際はご注意ください。
- ◎硬質ビニル床タイルのため、カット作業に時間が掛かります。切り込み作業には、一般の軟質ビニル床タイル(コンポジションビニル床タイル等)施工の約2倍の時間が掛かります。ご注意ください。
- ◎下地不陸があると下地に馴染まず浮いてしまう場合があります。事前に下地不陸が無いことを充分にご確認ください。不陸がある場合は平滑に補修してから施工してください。
- ◎施工時は保護手袋を着用してください。素手で取り扱くと端部で手を切るおそれがあります。カットしたタイルの端面も硬く鋭利になっています。
- ◎冬期は、ジェットヒーター等を使い室温を上げ、室温10℃以上の環境で施工してください。低温では、タイルが硬くなり、目違いや収まり不良などを発生させることがあります。
- ◎切込み筋に沿ってタイルを割る際は、保護メガネやマスク等を付けてください。破片が飛び散ることがあります。
- ◎過度な衝撃を加えるとタイルにヒビが入ったり、割れが発生することがあります。
- ◎タイル2辺の目地が特殊面取り加工されている為、タイルを貼る方向を揃える必要があります。タイル裏面の矢印を揃えて同方向に貼り付けてください。・・・下図参照

・ 600mm×600mmの場合



施工手順

- 1 貼り方向、取り合わせを検討の上、割付けし基準線を設けます。（P.2参照）

！ 注意

- 墨壺の墨やインク等は、赤（朱）や青を使わないでください。タイルを汚染させることがあります。
- カラスプレーやマーカーを使って、下地に文字や記号を書くことも避けてください。

- 2 基準線を入れた後、接着剤の貼り付け可能時間を考慮し、貼り付け可能時間内に貼れる面積に指定接着剤を塗布します。

- 3 カッターナイフで数回切込みを入れ、タイルを割るような施工を行い貼り付けます。

細かな切込みは、トーチランプやヒートガンでタイルを加温して、カットしてください。

メモ

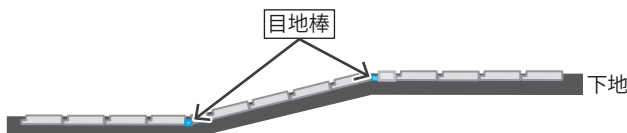
カット道具の紹介

小さな切込み、くり抜き、曲線、長い直線等をカットする場合、カッターナイフでは、作業性が悪く、カットに時間が掛かります。電動工具や加熱式のナイフを上手く併用して施工を行ってください。

！ 注意

- カット作業に時間がかかるため、細かな切込みがある場合は、壁際用のタイルをカットしてから接着剤を塗布する等、貼り付け可能時間オーバーとならない様にご注意ください。
- タフテックタイルを貼り付ける際は、少し緩めに貼り付けてください。
きつめに施工すると、急激な温度変化が加わった際に突き上げを起すことがあります。
- 壁際のカットも緩めにカットして収めてください。隙間が大きい場合は、タイルに近い色のオートンリペアカラーQィック（サンプル帳の品番対応表参照）を充填し隙間を埋めてください。
- 切込みに沿ってタイルを割り、カッターやカンナを使って断面のバリ処理を行ってください。切り取り巾が狭い場合は、ペンチやプライヤーを使い、切込みに沿って順に割ってください。
- スロープがある場合は、タイルを曲げて貼らず、切り替え部でタイルをカットしスロープ部と平面部を切り離し、継ぎ目には、目地色に近い目地棒（全厚2mm×幅3mm 色番 No3）を入れて仕上げてください。タイル目地が使える場合は、タイル目地をそのまま使っても問題ありません。

推奨目地棒：NMEJI3-23

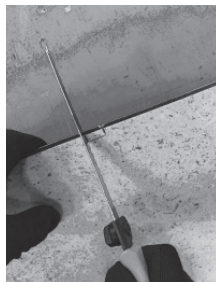


！ 切込み時の注意

- 丸柱等円形にカットする際は、カットする形状を鉛筆等でタイルにけがき、トーチランプやヒートガンで出来るだけ裏面からタイルを加温してカッターナイフでけがき線に沿ってカットしてください。
- 細かな切込みがある時は、タイルの裏面からトーチランプやヒートガンで温めてカットしてください。パイプソーや鋸等を併用すると便利です。



裏面から加温



鋸で切り込み

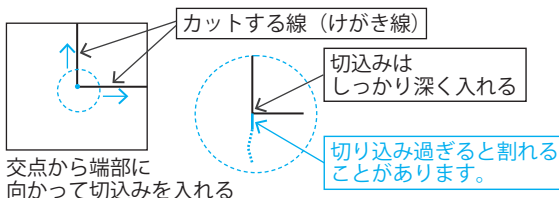
※トーチランプやヒートガンで加温する際は、温め過ぎに注意してください。温めすぎると癖が付くおそれがあります。カットした端材を使い事前に加温の度合いをご確認の上、作業をしてください。

メモ

- 超音波カッターを使うと、ゆっくりですが、細かな切込みが容易にできます。
- ※ホームセンター等で販売されています。



- 切り込みが浅い場合は、タイルを割る際に切込み以外のところで割れることがあります。切込みはしっかりと深く入れてください。
- 切込みが交差するところは、交差する点を越えないように注意して切り込んでください。交差する点から端部に向かって切込みを入れてください。交差する点を越えて切り込み過ぎると、けがき線を越えて割れることがあります。・・・下図参照



4 タイル施工後にタイルローラーを使い、全体を圧着してください。

部分的に浮いているところがあれば、タイルローラーで再度圧着してください。

おさまりにくい場合は、トーチランプ等を使い、少し加温して、ハンドローラーでしっかり圧着してください。

5 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで養生期間をとります。必要に応じて養生シートで養生してください。

！ 注意

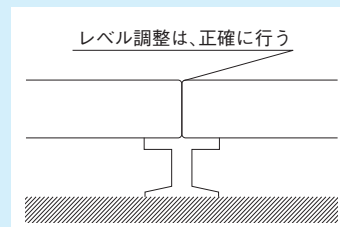
- 圧着が不十分な場合、タイルの端部に段差を生じることがあります。圧着は充分に行ってください。
- 下地に不陸があり、タイルが浮いてしまう場合は、
1) ヒートガンで加温しながらハンドローラーによる圧着を急に行う。
2) 接着剤が硬化するまで、不陸に追従する重り（土嚢など）で圧着する。
3) 瞬間接着剤（ゼリー状）を使用する（施工時から施工直後まで）。
※施工後時間が経つとタイルを捲ることが出来なくなるので、その場合は、目地より、液状の瞬間接着剤を注入し、圧着してください。ただし、これらはあくまでも次善の策であり、必ずしも恒久かつきれいにおさまることを保証するものではありません。
※原則は下地を平滑にしてくださいをお薦めします。
- タイルローラーで圧着しても収まらない時は、トーチランプやヒートガンを使い軽く温めて、ハンドローラーで十分に圧着してください。
- 施工後2～4日間程度は直射日光、冷暖房による急激な温度変化は避けてください。タイル伸縮による目地スキや突き上げを起すおそれがあります。
- 接着剤のはみ出しは、接着剤が固まる前にアルコール等を使いまやかに除去してください。スクレーパーや鋭利な刃物ですることは、表面に傷を付けるおそれがあるので避けてください。
- 施工後、1週間程度は多量の水を使った洗浄は避けてください。接着に影響を及ぼすことがあります。また、ワックスメンテナンスは避けてください。ワックスを弾き、塗布ムラが発生します。

二重床上へのルースレイタイルの施工

施工上の特性

- ◎ピールアップ性が求められるため、「エコGAセメント」で施工してください。
- ◎パネル間に隙間（クリアランス）があり、この隙間に床材がなじむことにより段差などが発生しやすいので注意が必要です。

- 施工前に下地パネルは全て施工を完了しておきます。下地に段差・隙間・凹凸のある場合、その程度によってタイル表面に目立って現れる場合があります。
- 接着剤やメンテナンスの際の洗剤などが流れ込まないように、パネルと床材を目地をずらして貼ります（またぎ貼り）。
- 開口率の高いパネルや凹凸のはげしいパネルはルースレイタイルのズレ、破損、突上げが発生するおそれがあるため施工できません。
- 下地追随タイプのフリーアクセスフロアに施工する場合は、パネルの傾きにより目地段差が生じる場合があります。施工前にフリーアクセスフロアの（下地）が平滑であることをご確認ください。

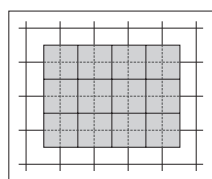


施工手順

- 1 パネル目地とタイル目地を半分程度ずらして割付けます。これによりパネルの段差の影響を抑えることができます。（1/2スライド工法・1/3スライド工法）

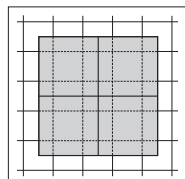
パネルとルースレイタイルの目地を合わせると目地スキ、段差などが発生することがあります。

●500mm×500mm



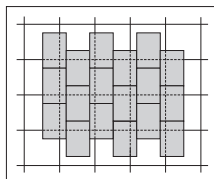
1/2スライド工法

●1000mm×1000mm



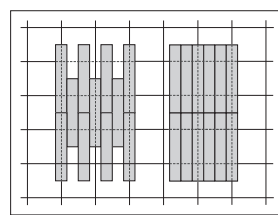
1/2スライド工法

●333.3mm×500mm



1/3スライド工法

●166.7mm×1000mm



○ 推奨しない
1/2スライド工法

・プランクタイプ（形状が長方形のもの）は左側のようにタイル同士をずらして貼るようにしてください。端を揃えて貼ると目地が不揃いになりきれいに納まりません。

- 2 フリーアクセスフロアに施工する際は、スポンジローラーで接着剤（エコGAセメント）を全面塗布してください。

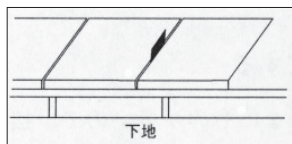
※エコGAセメントの標準使用量

非吸水性下地 （スチール・プラスチック・ビニル床タイル等）	40～60g/㎡
吸水性下地 （乾燥したモルタル・合板等）	60～100g/㎡

！ 注意

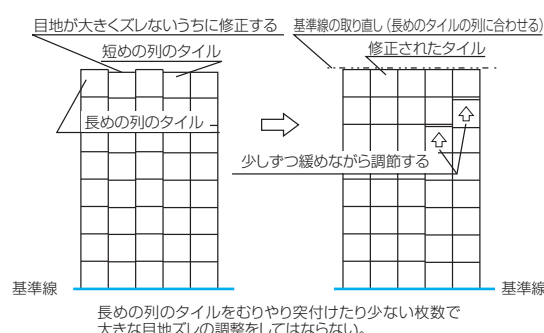
- パネルの目地・支持脚の固定ネジなどへ接着剤が流れないように注意してください。
- OAフロアの凹部に接着剤が溜まらないよう注意してください。
- ピールアップ効果をもたせるため、接着剤が半透明になってから施工します。

- 3 室温15℃以下ではタイル間に名刺一枚（0.2mm程度）分の隙間を空けてゆるめに施工してください。



◆詰めすぎて施工すると、後日、突上げが発生することがあります。

パネルの段差や目地スキの不陸が大きいと、施工中に目地ズレが生じる場合があります。5～10枚程度施工してから、再度基準線の取り直しを行い、2本の基準線の間でタイルの目地が等間隔になるように調整します。この時も、詰めすぎないように注意します。タイルカーペットと突き合わせて施工する場合は、目地ズレが生じやすいため、必ず基準線を取り直してください。



- 4 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、必要に応じて養生シートで養生してください。

LAY フローリングの施工

施工上の特性

◎LAYフローリングは、既設床に「重ねて貼れる」増し貼り用床材です。そのため、他のビニル床タイルと施工方法が異なります。

ピールアップ型接着剤「LAYセメント」を使用します。詰めすぎた施工は突上げるおそれがありますので、同梱のLAY治具を使用しゆるめに施工することがポイントです。

◎施工前に既存床の状態をご確認ください。

●クッションフロア下地

厚み3mm以上のクッションフロア上の施工はできません。(下地のクッションフロアが厚く、柔らかい場合、タイルの端部付近に荷重が掛かると、浮きおよび目地段差が発生するおそれがあります。)

施工手順

1 下地が固定されており、平滑なことを確認し、ワックスや汚れは除去します。隙間や段差等は補修します。

2 貼り方向、取り合わせを検討し割付けます。

長さ20cm×幅5cm以下にカットしたLAYフローリングが出ないように割付けてください。

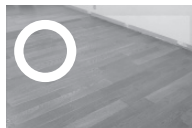
※小さくカットして貼られたところに重量物等を乗せるとLAYフローリングが浮き上がる場合があります。やむを得ず、上記サイズ以下のLAYフローリングを貼付ける場合は、LAYフローリング裏面に瞬間接着剤(アロンアルファ)を点付けして施工してください。

3 接着剤の塗布

接着剤が最適な塗布量になるように、LAYセメントに同梱の専用はけをご使用ください。



接着剤が半透明になってから貼始めてください。接着剤が白く残っている状態で貼始めないでください。



先付け巾木など、LAYセメントの付着するおそれのある場合は必ず養生してください。



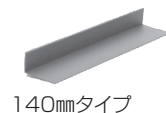
※専用はけを繰り返して使用する場合

使用直後にLAYセメントが付着した先端部分を水洗いしてください。そのまま放置すると先端部が固まり使用できなくなります。また水洗いした後は、布などで水を拭取ってください。使用後、先端部分のへたり・磨耗が激しい場合は、繰り返して使用しないでください。

4 LAYフローリングの貼り方は、目地を揃えず適当にずらした乱貼りをおすすめします。(十字目地貼りは避けてください。)

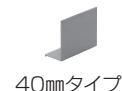
LAYフローリングの施工はゆるめ施工がポイントです。施工時はLAYセメントに同梱されているLAY治具をご使用ください。

品名：LAY治具(特許取得済)
規格：幅140mmタイプ(壁際以外の施工時)
幅40mmタイプ(壁際施工時)



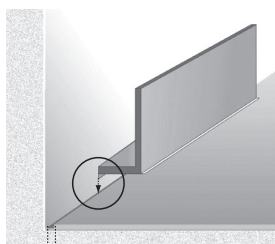
※LAY治具の単品販売はしていません。

LAYセメントの梱包箱に、幅140mmタイプ×1、幅40mmタイプ×1のセットが同梱されております。



壁際施工時

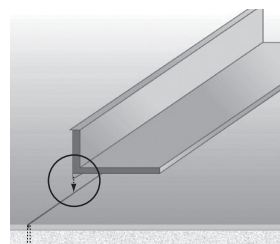
LAY治具の0.3mm側(端部)を壁に当ててください。



▶ 間隔 0.3mm

壁際以外の施工時

LAY治具の0.1mm側(中央部)をタイルとタイルの間に入れてください。

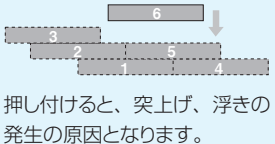
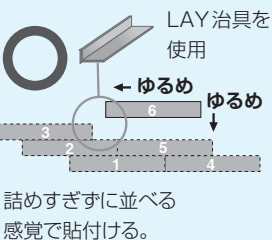
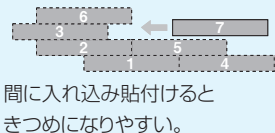
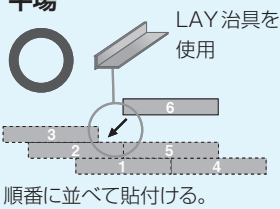


▶ 間隔 0.1mm

チェックポイント

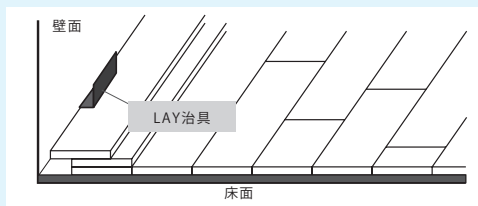
施工上のポイント

平場



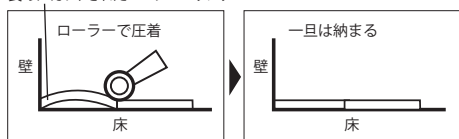
端部

壁際に合わせ切りする場合は下記のようにLAY治具を使用します。

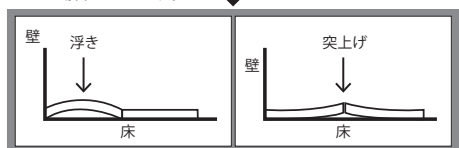


- 5 ハンドローラー等で十分に圧着してください。圧着の際、無理に押し込まれている箇所は、後で突上げ・浮きが発生する場合があります。そのような場合は、いったん外して切込み、ゆるめに施工し直してください。

長めにカットされたLAYフローリング



時間の経過で以下の不具合が生じる場合があります。



LAY 見切りの施工

- LAY見切りは、掃き出し窓部のサッシ見切り材として開発された副資材です。頻繁に踏まれる箇所へ施工されると、割れやへこみ等が発生する場合があります。
- LAY見切りの施工は、LAYフローリングの施工に先立って行ってください。

取付位置の確認

LAY 見切りの施工

LAY フローリングの施工

- 1 LAY 見切りを水平な箇所に取付けてください。段差がある箇所での施工は避けてください。



- 2 割付け・裁断



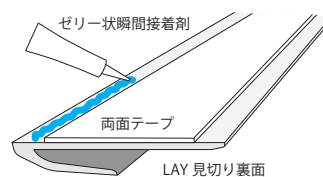
貼付ける箇所に基準線を引いてください。

サッシに沿って施工する場合は、サッシを基準としてください。

施工箇所の長さを採寸し、両端合わせて2.0mm程度 (片側1.0mm) 透くようにカットしてください。

- 3 LAY 見切りに接着剤を塗布します。

先端部と両面テープの境界部にゼリー状瞬間接着剤 (東リアロンアルファⅢ等) をまんべんなく塗布してください。(点付けで止めると、温度変化等による浮きや剥がれ等が発生するおそれがあります。)



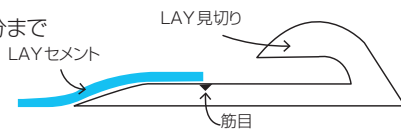
- 4 両面テープの剥離紙を剥がし、基準線に沿って貼付け、ハンドローラー等で圧着してください。



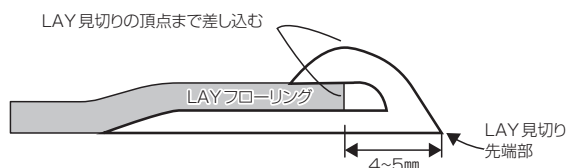
※強く圧着しすぎるとLAY見切りが割れてしまうことがあるので、強く押し付けすぎないでください。

5 LAYフローリングの施工

LAY見切りの筋目の部分までLAYセメントを塗布してください。

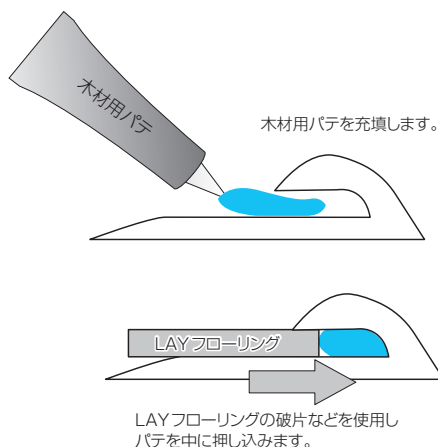


LAYフローリングは、下図のようにLAY見切りの頂点を目安に深めに差込んでください（LAY見切り先端部から4～5mm）。差込みが浅いとへこみや割れの原因となります。また無理やり差入ると、見切りの剥がれや浮き、あるいはタイルの浮きなどが発生します。



※歩行の多い場所に使用される場合の施工方法

LAY見切りは、歩行量の多い場所での施工には適していませんが、やむを得ず部屋間の見切り材等に使用する場合は、LAY見切りの飲み込み部分手前に木材用パテを充填し、LAYフローリングの破片等で中まで押し込んでください。



！ 注意

木材用パテはLAYフローリングを施工した際に、はみ出す程度に充分量充填してください。木材用パテとLAY見切りの間に隙間ができると効果がありません。はみ出した木材用パテは拭取って除去してください。

LAY 框の施工

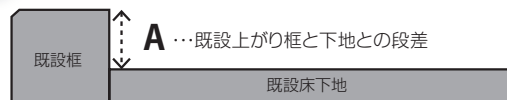
●LAY框は、LAYフローリングの上からかぶせて施工します。

既設上がり
框部の処理

LAY
フローリングの
施工

LAY框の施工

1 既設上がり框部の処理



Aが2mm以上の場合

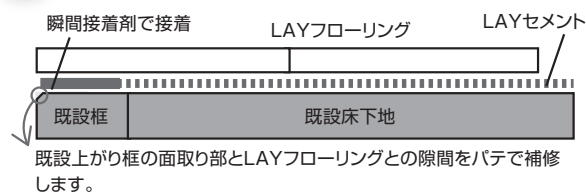
LAY框なしでLAYフローリングの施工が可能です。LAY框を使用する場合は、既設上がり框を削り下地となる床材とのレベルを合わせてください。

Aが2mm未満の場合

LAY框をご使用ください。LAY框と下地となる床材との段差は、既設上がり框を削りレベルと合わせるか、木材用パテで段差を緩やかなスロープ状（15cm以上）に補修してください。

※LAY框と下地に隙間があると、衝撃による割れが発生する場合があります。

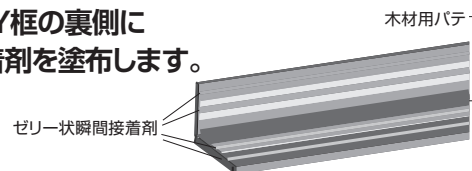
2 LAYフローリングの施工



既設上がり框の面取り部とLAYフローリングとの隙間をパテで補修します。

3 LAY框の取付け部を採寸し、壁ぎわ両端に合わせて2.0mm程度（片側1.0mm）透かすように割付けてください。

4 LAY框の裏側に接着剤を塗布します。



中央入隅部…木材用パテの塗布（4～5mm径）

周囲4箇所…ゼリー状瞬間接着剤（アロンアルファⅢ等）を塗布

（注）両面テープの剥離紙を剥がしてから塗布してください。

5 LAY框を既設上がり框との間に隙間ができないように押さえつけながら貼付け、ハンドローラー等で十分に圧着してください。

ゴム床タイル（プラート・プラートF）の施工

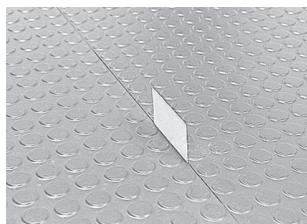
施工上の特性

- ◎ゴムに弾力性があるため、詰め加減が分かりにくく、きつめ施工になりやすいのでご注意ください。
- ◎材質がゴムのため、以下の点に注意してください。
 - 粘力があり切りにくい。
最後まで切るには、厚さの半分までカッターを入れた後に折り曲げて再度カッターで切る方が良い。
 - 熱を加えてもやわらかくなりにくいので、下地になじみにくい。
 - 接着剤の溶剤や下地湿気を吸収しにくい。
- ◎温度変化による寸法変化が大きいためご注意ください。

施工手順

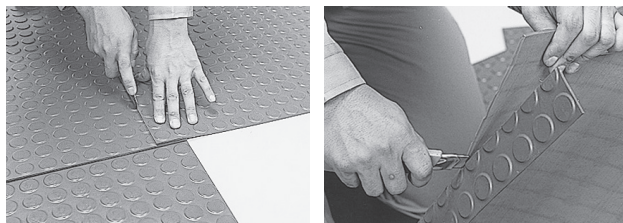
- 1 貼り方向、取り合わせを検討の上、割付けし基準線を設けます。（P.2 参照）
- 2 基準線で仕切られた1/4面に、中心から接着剤を塗布します。
- 3 所定の待ち時間を取り、目地ズレのないように圧着しながら貼り広げていきます。

材質的に寸法変化が生じやすいので荷重を加えながら貼付けます。



少しゆるめにタイルを貼付けます。
タイル間は名刺一枚程度あけるようにします。

- 4 壁際や柱回り、パイプ周囲などに貼るタイルは、合わせ切りで納めます。
スキ、浮きのないよう納まりよく切込み、ローラーまたはゴムハンマー等で圧着します。



切込みを行うタイルを一枚手前のタイルの上に正確にのせて合わせ切りします。

！ 注意

- 切り口が汚れている時やきつめの時はカッターなどで修正します。
- 壁際の切込みは、きつめに押込まないでください。
- 床材を接着剤で汚すことがあるので、壁際部分は周囲全体の切込みを行い、ゴムタイルが貼れる状態になってから下地に接着剤を塗布してください。

- 5 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで48時間以上養生期間をとります。必要に応じて養生シートで養生してください。（P.5 参照）

！ 注意

- 自重でなじみにくいので、反り気味のところは接着強度が出るまで砂袋などを置いてなじませてください。

2. ビニル床シートの施工

施工上の特性

◎ビニル床シートはビニル素材のため、以下の注意が必要です。

- 急激な温度変化があると寸法変化しやすくなります。特に高温時に伸びやすいためご注意ください。
- 低温時はシートが硬くなり、巻き癖が取れにくくなりなじみが悪くなります。
トーチランプで温めながら施工するとなじみやすくなります。ただし、表面にUV樹脂加工を施しているシート(NWシリーズ等)は不具合(反り、変色、UVの変質等)を起こす危険性があります。表面温度が30～40℃程になるように加熱してください。

◎巻きの状態で施工現場に搬入されますので、巻き癖が残りやすくなります。

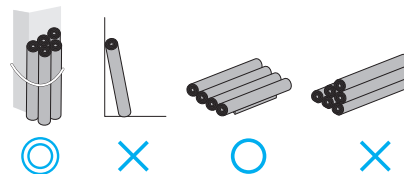
◎シート状で目地が少ないので、下地を密封することになります。

下地の湿気が逃げにくく、接着剤の溶剤も揮発しにくいいため、膨れが現れやすくなります。

◎下地水分率が『グレードⅡa(8～10%)』の場合は耐湿工法をとります。使用接着剤はウレタン・エポキシ樹脂系接着剤を使用します。また水がかかる可能性がある場合は、端部処理も重要になります。詳細は『ビニル床シートの施工/耐湿工法(P.34～)』をご参照ください。

■ 運搬・保管上のご注意

- 製品は梱包をとかずに、平坦な場所にまっすぐに立てて保管します。ななめに立てかけると、角に集中荷重がかかり変形することがあります。ロープなどで倒れないようしっかりと固定してください。重量物なので、転倒は事故や器物破損の原因となります。立てて保管することができない場合は平らな場所に並べておき、歯止めをしてください。(長期間寝かせた状態で保管すると、床材が変形することがあります。) 俵積みは避けてください。
- 長時間にわたる直射日光や高温状態での暴露、雨水などによる水濡れは避けてください。変形・変退色・変質の原因となります。



施工手順

- 1 下地が強固で、平滑なことを確認し、ワックスや汚れは除去します。隙間や段差等は補修します。

- 2 貼付け方向・取合わせを検討の上、割付けし、割付けに基づいて若干長め(約10cm)に粗切りします。

- 取合わせ、継ぎ目の位置に注意します。
- 幅のりのままで貼ると、端部が傷んでいたり、直線が出ていない場合があります。必ずエッジトリマーで耳落としをしてください。
- 幅継ぎをする際は耳部どうしでジョイントしてください。



【柄もののシートの割付け】

部屋の大きさより一柄余分に粗切りします。丈継ぎのジョイントがある場合は更に一柄余分に計算し、柄の合う状態で裁断します。厳密な柄合わせには、サンブル帳記載の柄マッチを一柄とします。一柄分が16cmでも、印刷リピートはその整数倍、32cmや48cmとなる場合があります。

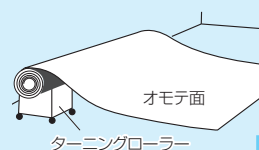
- 3 現場の環境になじませるために、材料を仮敷きします。

- 特に、冬場の寒冷地での巻き癖は取れにくい場合があるため、仮敷きをして巻き癖を取り除いてください。
- ただし、下地に湿気がある場合や、長時間の仮敷きは耳部の反りを招くおそれがあります。
- 仮敷きしてから丈方向の切込みを入れるとより正確な裁断が行えます。



メモ

ビニル床シートは端部の反りを防ぐため、表巻きにして出荷しております。施工時にはターニングローラーを使用すると便利です。



4 壁際は巾定規等によって部屋の出入りに合わせて切込みます。

[巾定規を用いた切込み法]

●幅方向

- ①壁と平行にシートを置き、巾定規をあてて平行性を確認します。壁とシートの隙間は、巾定規よりも狭くします。出柱など巾定規より長い障害物がある場合は右図 a のように切り筋を入れ、柱にかぶせるようにシートを奥へと差し込みます。(図1)
- ②巾定規は、後下がり引き、先端にカッターナイフをあて、壁方向に力を加えながら切込みます。この時巾定規は、先端を壁に押し付けるようにし、手前側の角は壁に軽く当てて切込んでください。(図2. 3)
- ③端末の余り部分は巾定規での切込みが困難なため、直定規等をあてて切り落とします。

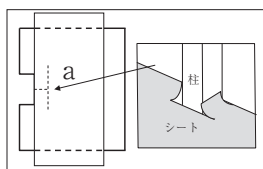


図1

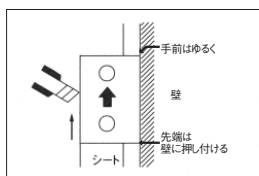


図2

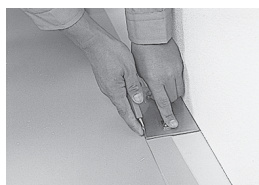


図3

●長さ方向

幅方向を切込んだシートがきちんと壁際に納まることを確認してから長さ方向の切込みを行います。

- ①シートのたるみを取り、適当な箇所を選び巾定規を使ってシートの両端部および下地に印を付けます。シート内側端部はシートを正確にずらすために、下地にシートの端に沿ってスライド線を記入します。(図4)
- ②スライド線に沿って、シートを引き下げ、壁や下地に付けた印にシートの印を合わせます。合わせる位置は図5を参考に注意して合わせてください。
- ③巾定規を壁に合わせて切込みます。(図6)

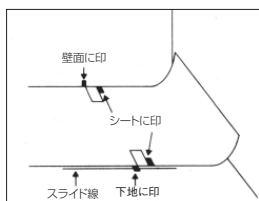


図4

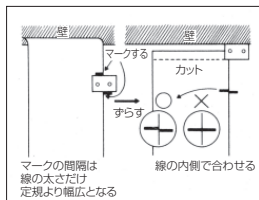


図5

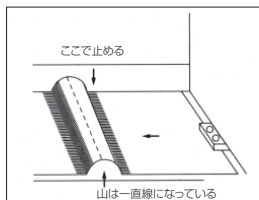


図6

！ 注意

ズラすことでシートに山ができますが、この山はたわみのないようにします。山を取る時には、壁近くで取ると蛇行するため、できる限り壁から遠いところで取るとよいでしょう。

- ④同様に反対側も行います。

[トリマーによる簡易的な方法]

やわらかいシートの場合は各種トリマーによる切込みが行えます。巾木を傷つけない微調整の可能な工具（パーキリなど）を使用し、きつめの施工にならないように注意してください。

パーキリの使用方法

- ①パーキリはスライディングベースをつけた状態で使用します。
- ②調節は本体と底板（スライディングベース取付け板）の間でできる隙間を目安として行い、シートの厚さと隙間が一致する箇所を基本位置とします。
- ③作業によって力の加わる位置、手首の角度が異なるので、残材で試し切りを行うことが不可欠です。また、自分に合わせた調節位置は、他の作業者に合わないことがあるので、その都度調節し直してください。



[コンパス（デバイダー）による切込み法（デバイダー法）]

巾定規が使用できない場所ではコンパス（デバイダー）を使用して切込みます。

- ①壁際に立ち上がっているシートを手前にめくり、コンパスの足の1本を下地と壁の突付け部分にあてます。(図7)
 - ②シートに2点印を付けます。(図8)
 - ③印を付けた2点を中心として交差する点に印を付けます。(図9)
 - ④同様の方法で一つの壁面について2～3点印を取り、切込みます。(図10)
- ただし、壁の曲がり方によっては点の数を増やす必要があります。

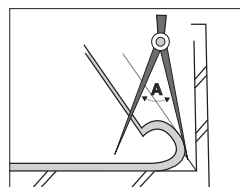


図7

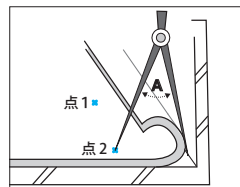


図8

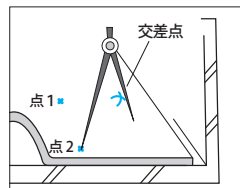


図9

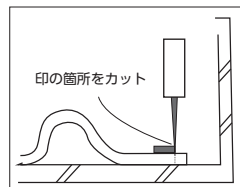


図10

[その他の切込み]

排水パイプや円柱の周囲などは、高い技術を要します。型紙を使用して施工すると効果的です。

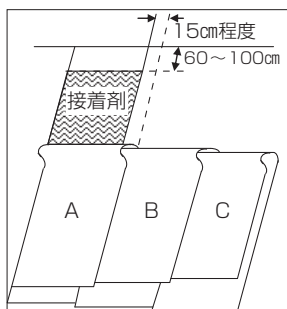
5 シートの種類に応じた方法で接着剤を塗布します。

- 幅折り返し（観音開き）
周囲を先に切込んでから、幅方向にシートを折り返し、半分ずつ接着剤を塗布します。



幅折り返し（観音開き）

- 長手折り返し
シートを長手方向に折り返し、シートの両端が納まる壁際から60～100cm及び次のシートと重なる耳部も15cm程あけて接着剤を塗布します。適正なオープンタイムを取り、空気の巻き込みに注意しながらシートを貼り付けます。シートの反対側及び2枚目以降も同様に壁際を残し接着剤を塗布し、施工します。

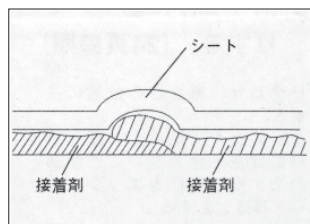


長手折り返し

※長手折返しを行うと、巻き縮みが発生し、けがき位置に誤差が生じることがあります。

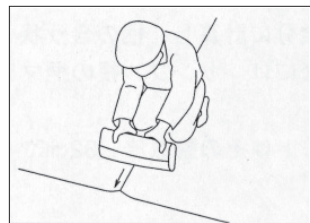
！ 注意

- やわらかいシートの場合、二重塗りした接着剤の重なる部分に盛り上がりができることがあります。ご注意ください。



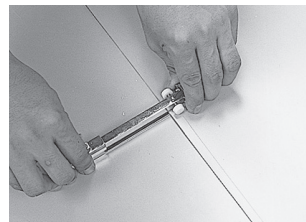
6 接着剤の貼付け可能時間内にシートを貼付け、圧着時間内にローラーをかけて圧着・エア抜きします。

- 貼付け可能時間内にシートを貼付け、しごき板でエア抜きをしてから、幅継ぎ部の裁ち納めをし、圧着時間内にローラーを掛けます。
- ローラー掛けが済んだら、空気だまりをしごき板で目地の方向に押し出します。



※空気だまりは下地湿気により、膨れの原因となりやすいので、どんなに小さくても、必ず空気だまりを追い出してください。

7 接合部は落し込みやリノカットなどを用い、けがいてからカットします。



！ 注意

- 継ぎ目できつめの施工をした時、ハンドローラーで圧着をすると一応納まった様に見える場合がありますが、後日その箇所は突上がるおそれがあります。きつめに施工し、ジョイントに反りが見られた場合は、砂袋等により荷重を掛け養生してください。ただし執拗な圧着は肝心なジョイント部の接着剤を押し退けてしまい接着不良となるおそれがありますので注意が必要です。

8 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで24時間以上養生期間をとります。

9 シートの種類や施工環境に応じて、継目処理を行います。

- 継目処理の種類と施工方法はP.22～をご参照ください。
- 製品ごとに継目処理の種類は決まっています。詳細は「東リ総合カタログ」もしくは当社サンプル帳をご覧ください。
- 完全な継目処理をすると後日の目地スキを防ぐことができます。また、薬品液類などが目地から下地に回るのも防ぎます。

10 汚れや不備な点がないかを確認し、継目処理剤が硬化するまで養生します。必要に応じて養生シートを使用してください。（P.5 参照）

メモ

こんな時どうする？

- ◎ローラー掛けを行った後、いくつかの膨れが残ってしまった。
くし目の方向から、空気が逃げる方向を確認し、シートの端に近い方向から、ローラー掛けを行います。
- ◎仮敷きできる広い場所がない。
粗切りをしてから、長い床シートを下にして短い床シートを順次重ねて敷き伸ばします。

継目処理 — 溶接棒 —

熱風溶接工法

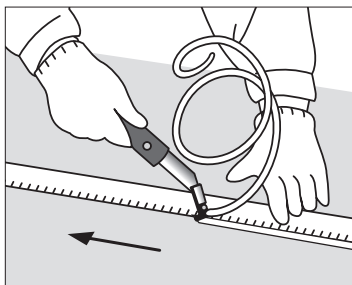
1) 前養生

接着剤が十分に乾燥するまで（24時間以上）養生してから継目処理を行います。

2) 溶接棒の用意

必ず床材ごとの専用溶接棒を使用してください。事前に使用分の長さに切っておきます。

3) 溝切り

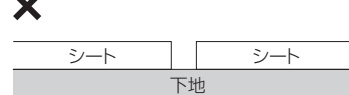
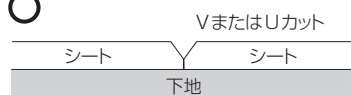


継ぎ目は、シートの厚みの1/2～2/3程度をVカットまたはUカットします。

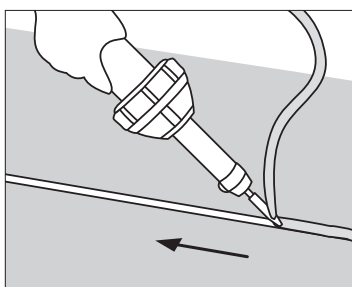


チェックポイント

継ぎ目を2～3mmあけて溶接すると十分な強度が得られないので、必ず溝切りを行います。



4) 熱風溶接

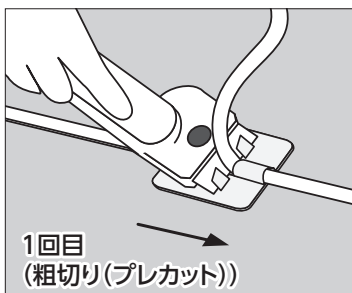


溶接機を使用し、専用溶接棒を熱風溶接します。

温度に注意し、ノズル先端に圧力をかけて溶接を行います。

スピードを控え目にして、双方のシートに確実に均等な熱と力が加わるようにしてください。

5) 余盛り部分のカット



1回目
(粗切り(プレカット))

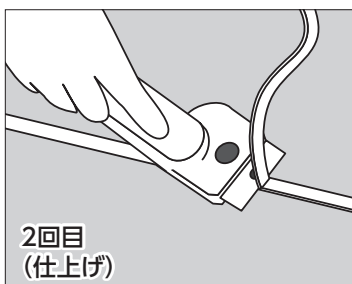
余盛り部分をスペーサーを使用してスパトラナイフなどでカットし、十分に冷えてから仕上げカットを行います。

一度にカットすると溶接棒のやせが生じ、きれいに仕上がらない。

NWシリーズ（CFシート-P NWを除く）の専用溶接棒は一般ビニル床シート用溶接棒に比べ硬めになっています。

熱風溶接後の溶接棒が温かいうちにカットを行ってください。

（ケアセーフNWはスパトラナイフが沈み込みやすいため、冷却後に仕上げカットを行ってください。）



2回目
(仕上げ)

仕上げカットします。

継目処理 — 東リ ジョイントシールド —

継目接着工法（ジョイントシールド工法）

※東リ ジョイントシールドの対応製品につきましては、「東リ総合カタログ」をご確認ください。

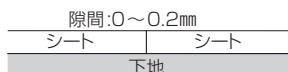
1) 前養生

接着剤が充分に乾燥するまで（24時間以上）養生してから作業を行います。

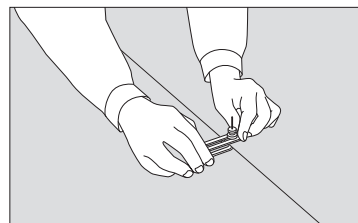
継ぎ目部が汚れているときはきれいに拭取ってください。

！ 注意

継ぎ目部は、東リ リノカットや落とし込みにより均一な隙間に仕上げてください（隙間：0～0.2mm）。
継ぎ目部の仕上げがテーパー・逆テーパーになっていた
り、0.2mm以上の隙間になっていると十分な強度がでない
ことがあります。



東リ リノカット



落とし込み

2) 事前準備

1. ハンドローラーの準備

一般的なハンドローラーでは、シート表面のエンボス（凹凸）により、専用テープ（オレンジ）を充分圧着することができません。

シートにしっかりと圧着できるように、付属の専用スポンジ（グレー）を使用します。

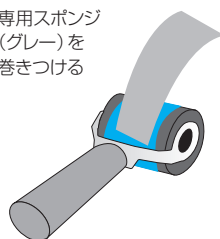
お手持ちのハンドローラーに、付属の専用テープ（オレンジ）を貼付けた後、付属の専用スポンジ（グレー）を上から巻き付けてください。

なお、専用スポンジは、適切な長さにカットしてご使用ください。

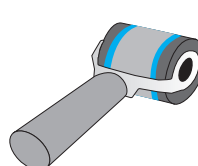
専用テープ
（オレンジ）を
巻きつける



専用スポンジ
（グレー）を
巻きつける



完成



！ 注意

専用スポンジをハン
ドローラーに直接貼
ると、ローラー表面
に粘着剤が残ること
があります。

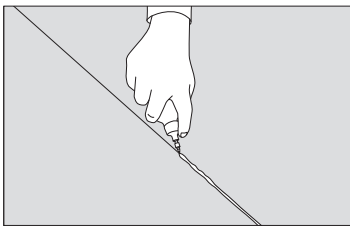
2. シールド液の準備

シールド液の入った缶をよく振り、液を充分に攪拌してから専用ボトルに移し替
え、付属のノズル付きキャップを装着してください。

針は、ノズル先端に収納されています。固定キャップを外し、中に入っている針
をひっくり返してノズルにセットした後、固定キャップをしっかり閉めてご使用くだ
さい。

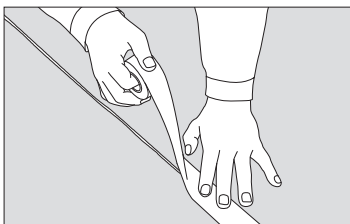


3) シールド液の充填



シートの継ぎ目に針を差込み、針先が下地と接するまでしっかり差込んでください。専用ボトルを軽く握り、ゆっくり（目安2m/分）引きながら継ぎ目にシールド液を充填します。この時、ノズルの土台部分に指を添えると充填しやすくなります。

4) 専用テープ（JSテープ）の貼り付け



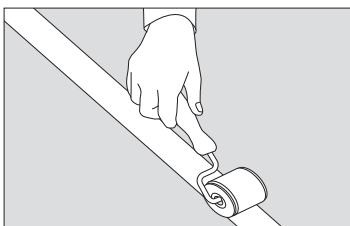
シールド液充填後、すぐに付属の専用テープ（オレンジ）を貼付けてください。専用テープの貼付けるタイミングは、シールド液を充填してから5分以内が目安です。その際、シールド液がなるべく中央に来よう専用テープを貼付けます。



注意

※同梱の専用テープ（JSテープ）以外のテープは使用しないでください。

5) ローラーで圧着



専用スポンジを取付けたハンドローラーで十分に圧着してください。

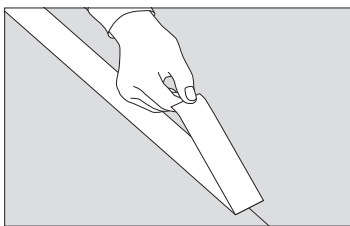
※専用テープからはみ出したシールド液はすぐに乾いたウエスで拭取るか、はみ出たシールド液上に専用テープを貼付けてください。放置すると、歩行により液が広範囲に付着する可能性があります。

専用テープを貼付けた後、所定の乾燥時間を取ってください。

乾燥時間（目安）： 夏期：40分以上 冬期：60分以上

※乾燥が不十分な場合、きれいに仕上げるできません。

6) 専用テープ（JSテープ）の剥がし



専用テープは、3時間以内に剥がしてください。

※養生時間が3時間を超えた場合、シールド液がシート上に残ることがあります。

シート上に残ったシールド液が硬化した場合は、もう一度付属の専用テープを貼付けて除去するか、市販の布テープなど粘着性の高いテープを使って取り除いてください。

市販のテープを使用した場合は、粘着成分がシートに残らないように注意してください。



メモ

専用テープを剥がす時は、ジョイントに沿ってまっすぐ後方に、床面に対して水平になるように剥がしてください。

7) 養生

継目処理作業完了後、硬化するまで養生します。

養生中は歩行程度は可能ですが、キャスター付きの什器の走行や、重量物を載せた台車の走行は避けてください。

巻上げ部の施工方法

巻上げ施工を行なった場合、巻上げ部の継ぎ目には、東リ ジョイントシールドは使用できません。
巻上げ施工の継目処理は、以下の商品をご使用ください。

商品名：オートンリペアカラーQィック

容 量：200g チューブ入り

内 容：水系1液ポリウレタン系コーキング材

<使用方法>

継ぎ目に約0.5mm程度の間隙をあけてオートンリペアカラーQィックを充填してください。

両横にマスキングテープを貼るときれいに仕上がります。

※対応品番は、「東リ 総合カタログ」または当社サンプル帳をご覧ください。

※ケアセーフNWは、巻上げ部分がシワになりやすいため、必ず東リ 面木をご使用ください。



メモ

シート目地隙間の部分補修方法（部分的に開いた隙間に対処する補修方法）

継ぎ目に小さな穴あきや隙間が発生した場合は、シールド液をもう一度充填して補修してください。

また、シートのジョイント切込み時に、切込み過ぎて継ぎ目の隙間が大きくなってしまった場合は、オートンリペアカラーQィックをご使用ください。

<補修手順>

1) 補修する継目部分の周囲をマスキングテープ（市販のマスキングテープでも可）で養生します。

2) 継ぎ目にオートンリペアカラーQィックを下地まで隙間なく充填し、すぐに仕上げ用のヘラで表面を平滑に仕上げます。

※ヘラはゴム製などの柔らかな素材を使用した方が、きれいに仕上がります。

※市販のマスキングテープをお使いになる場合は、厚みの薄いタイプのものをお勧めします。

3) 平滑に仕上げた後、速やかにマスキングテープを除去し十分に硬化させます。

オートンリペアカラーQィックが硬化するまで乾燥時間を確保してください。

<乾燥時間（目安）>夏場：4時間以上 冬場：翌日まで

4) 硬化したオートンリペアカラーQィック補修部の表面にジョイントシールド液を塗布します。その際、針先はオートンリペアカラーQィック補修部の表面に軽く当てる程度としてください（強く押し当てないようご注意ください）。

5) ジョイントシールド専用養生テープを貼り付け、ハンドローラーで圧着します。所定の乾燥時間を取ってから専用養生テープを剥がしてください（東リ ジョイントシールドの作業手順参照）。

継目処理 — シーム液など —

シーム液などによる方法

1) 前養生

接着剤が十分に乾燥するまで（24時間以上）養生してから作業を行います。
継ぎ目部に接着剤・油・ホコリなどの汚れがある場合は必ず除去してください。

！ 注意

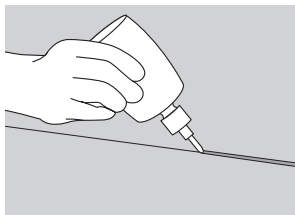
継ぎ目は隙間の生じないように突付けます。
きつめになりすぎないように注意してください。



2) シーム液の準備

シーム液をシームボトルに注入します。注入前にシーム液をよく振り、液を攪拌してください。
シーム液には、溶剤が含まれており、シートの表面にこぼすと変質することがあります。
また、シーム処理時にこぼれた時には直ちにウエスやティッシュで拭取ってください。

3) シーム液の充填

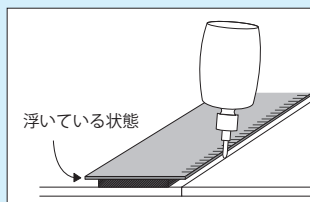


シーム液

シーム液をシートに充填します。

メモ

定規を当てて行くとズレが生じにくくなります。
（定規はシートから浮くように、下にゲタをかましてください。）



4) 養生

継目処理作業完了後、溶接液が完全に硬化するまで養生します。
養生中は触らないように注意してください。

継目処理 — 東リ スーパーシーム液 —

東リ スーパーシーム液による方法

※東リ スーパーシーム液の対応製品につきましては、「東リ総合カタログ」をご確認ください。

1) 前養生

接着剤が十分に乾燥するまで（24時間以上）養生してから作業を行います。

継ぎ目部に接着剤・油・ホコリなどの汚れがある場合は必ず除去してください。

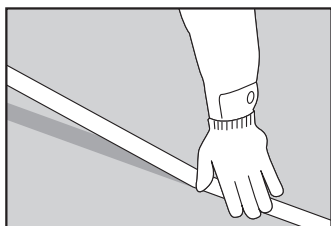
！ 注意

継ぎ目部は、落とし込みやリノカットにより均一な隙間に仕上げてください（隙間：0～0.2mm）。

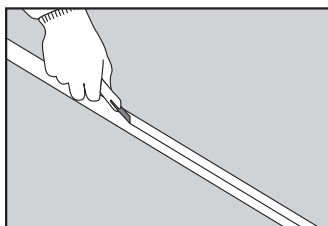
継ぎ目部の仕上げがテーパー・逆テーパーになっていたり、0.2mm以上の隙間になっていると十分な強度がでないことがあります。

隙間：0～0.2mm		
シート		シート
下地		

2) マスキングテープの使用



シートの継ぎ目部を落とし込み等を用いてカットした後、継ぎ目部分に専用マスキングテープを貼ります。



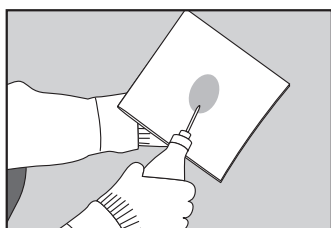
継ぎ目に沿って、カッターなどを用いて切り込みを入れます。

※マスキングテープは必ず専用マスキングテープを使用してください。他のマスキングテープを使うと継ぎ目部分の表面が汚れるおそれがあります。

3) スーパーシーム液の準備

スーパーシーム液をノズル容器に移します。液量を容器の3分の2程度にとどめると、作業性がよくなります。

液は、床材の上にこぼさないように注意してください。

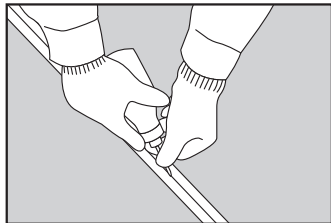


空気抜き

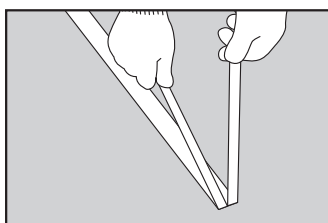
注入する前にノズルを上にしてノズル内の空気を出します。空気抜きをする場合にノズル内のシーム液が吹き出すおそれがありますので、ノズル先端部分を布等で押さえてください。

※この作業を怠ると多量の液がこぼれ出るおそれがあります。

4) スーパーシーム液の充填



ノズルを継ぎ目に差込み、ノズルの先端が下地に当たっていることを確認します。液が漏れないように注意しながら、継ぎ目部に液が充分行き渡るようにゆっくり注入してください。



スーパーシーム液注入後、約10分してから、専用マスキングテープを除去します。ハンドローラーで継ぎ目を圧着します。

継目処理 — NSシールなど —

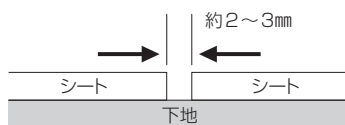
シール剤による方法

1) 前養生

接着剤が十分に乾燥するまで（24時間以上）養生してから作業を行います。

継ぎ目部が汚れている場合は必ず除去してください。

継ぎ目部は2～3mmあけます。



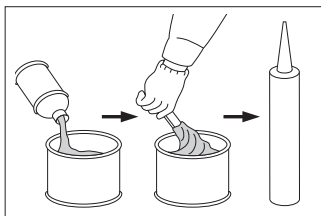
2) マスキングテープの使用



マスキングテープで継ぎ目部分の周囲を貼り養生します。

※継ぎ目部分ギリギリに貼ると、養生テープを剥がす際にパテやシール剤と一緒に持ち上げる可能性がある所以要注意。

3) シール剤の準備



NSシールを色が均一になるまで混合攪拌し、カートリッジに注入します。

※ NSシールを使用する時、夏場は「膨れ」が発生する場合があるので、B液の量を1/2～3/4に減量することをおすすめします。その場合は硬化時間が長くなるので、24時間は歩行しないでください。

カートリッジ内のエアーを抜きます。

カートリッジをコーキングガンに装着し、ノズルの先端を斜めにカットします。

4) シール剤の充填



コーキングガンで継ぎ目部に底までしっかり充填します。



充填後、すぐに仕上げ用のヘラで表面を平滑に仕上げます。

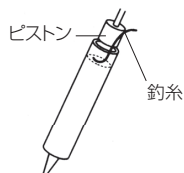


平滑に仕上げた後、速やかにマスキングテープを除去してください。

！ 注意

コーキングガンのカートリッジ内にエアーが残っている時

① 釣糸をはさんでピストンを押し込み、ピストンが液面についた時点で釣糸を抜きます。



② カッターであらかじめ液面付近を切っておきます。



5) 養生

継目処理作業完了後、シール剤が完全に硬化するまで（24時間）養生します。

養生中は触らないように注意してください。実際に使用できるのは2～3日後になります。

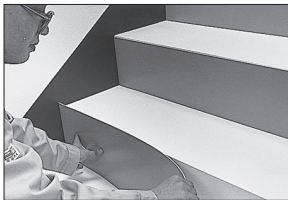
ビニル床シートの施工 / 階段(ひな段式)の施工

施工上の特性

階段の一般工法

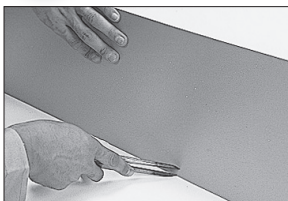


1 粗切り



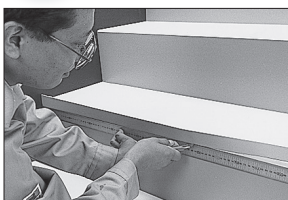
蹴上げの寸法を測り、実寸より若干大きめに粗切りします。カットした材料が混ざらないように、貼付ける順番に並べておくとい良いでしょう。

2 取合い部・蹴上げ



床シートの両サイドをけがきカットします。そのシートを蹴上げに仮止めし、取合い部をけがきカットします。シートが硬い場合は、ヒートガンなどで温めてください。

3 蹴上げ仕上げ



上部はノンスリップ金物にのみ込まれるように、直定規で裁断します。裁断後、接着剤を塗布してシートを貼付け、ハンドローラーで入念に圧着します。

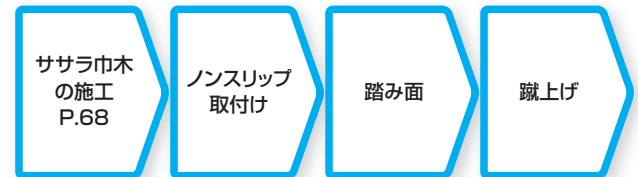
4 ノンスリップ取付け

5 踏み面



蹴込みに沿ってけがき、裁断し、両サイドは蹴込みと同様にけがき、裁断します。ノンスリップ部は、落とし込みで裁断します。裁断後、接着剤を塗布してシートを圧着します。

階段の巻上げ工法



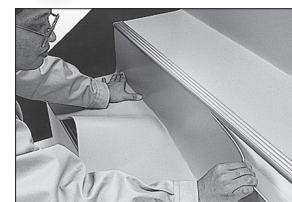
1 ノンスリップ取付け

ノンスリップと蹴込みの間に確実に床材の厚さ以上の隙間をあけて、ノンスリップを取付けます。

2 踏み面

踏み面に接着剤を塗布し、シートを階段の幅にカットしたものをノンスリップ金物に突付けます。

3 蹴上げ



取合い部を曲げて、シート上端部をノンスリップ金物にのみ込まれるようにけがいて裁断します。シートが硬い場合はヒートガンなどで温めてください。

4 仕上げ



接着剤の貼付け可能時間内にシートを貼付けて蹴上げ上端をノンスリップ金物にのみ込ませ、圧着時間内にローラーで圧着します。

アンダーレイシート・NS アンダーレイシート上への施工

アンダーレイシート、NS アンダーレイシート

(タイルカーペット用アンダーレイシート、FF 用アンダーレイシートは P.52 参照)

施工上の特性

- ◎アンダーレイシート、NS アンダーレイシートが使用できない製品があります。使用可否に關しましては東リ総合カタログをご覧ください。
- ◎アンダーレイシートの上材としてビニル床タイルを施工することはできません。
- ◎アンダーレイシートを用いることにより優れた衝撃吸収性が得られます。
- ◎アンダーレイシートに遮音性はありません。音の侵入や漏れを防ぐことはできません。
- ◎NS アンダーレイシートは階下への音の伝わりを低減します。
- ◎NS アンダーレイシートは凹み跡が回復しにくいいため、静荷重・動荷重が求められる部位への施工はできません。

■ アンダーレイシートとNS アンダーレイシートでは規格や指定接着剤、表裏の仕様が異なりますのでご注意ください。

アンダーレイシート 東リマークが印刷されている面を裏面として施工してください。

■規格

幅×長さ1820mm×18m
全厚4.5mm
梱包18m／巻 (出荷は巻単位となります。)

■工法

工法名	下地	接着剤
一般工法	乾燥したモルタル・コンクリート下地	US セメント・東リ低臭US セメント・US 200・US 300S
耐湿工法	湿気のおそれのあるモルタル・コンクリート下地	US セメント・東リ低臭US セメント・US 200・US 300S

NS アンダーレイシート 銀色面を表面（仕上げ材側）として施工してください。

■規格

幅×長さ950mm×20m
全厚2.3mm
梱包20m／巻 (出荷は巻単位となります。)

■工法

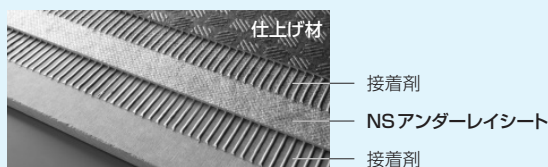
工法名	下地	接着剤
一般工法	乾燥したモルタル・コンクリート下地	US セメント・東リ低臭US セメント・US 200・US 300S
耐湿工法	水濡れの可能性のある場所及び湿気のおそれのあるモルタル・コンクリート下地	US セメント・US 300S
防水下地	ウレタン塗膜防水下地	US セメント・US 300S

※タイルカーペット用アンダーレイシート、FF 用アンダーレイシートは東リマークが印刷されている面が表面となります。
詳細は P.52 をご参照ください。

※UV 樹脂コーティングされているビニル床シートを施工する際は、US300S はご使用いただけません。

✓ チェックポイント

アンダーレイシート、NS アンダーレイシートは上下面とも同じ接着剤をご使用ください。



施工手順（アンダーレイシート・NS アンダーレイシート）

アンダーレイシートの施工

- ① シートを割付けに基づいて若干長め（約10cm）に粗切りします。接合部は重ね切りをするために2cm程度の重ねしろを取っておきます。

アンダーレイシート

東リマークが印刷されている面を裏面として施工してください。

NSアンダーレイシート

施工の際は、銀色面を表面（仕上げ材側）として施工してください。

メモ

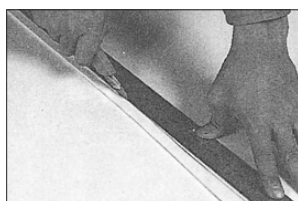
下地の平滑性が悪いと、アンダーレイシートを敷いてもその影響が施工後の床仕上げ材表面に現れることがあります。

- ② 敷込みはリバース施工を原則とします。周囲をパーキリ等で切込んでから、接着剤を塗布します。シート上下面とも同じ接着剤を使用し、溶剤による膨れに注意して施工します。（塗布量、待ち時間に注意してください。）

■リバース施工



- ③ 接合部を重ね切りします。



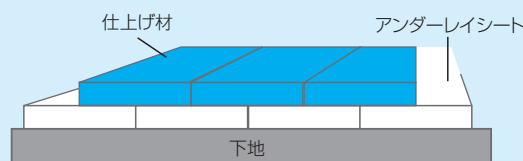
- ④ 重ね切り後すぐにローラー掛けを行い、目地から十分にエア抜きしてください。接着剤硬化のために約24時間の養生が必要です。

ビニル床シートの施工

- ① アンダーレイシートの施工後、24時間以上養生してからビニル床シートを施工します。

メモ

ビニル床シートのジョイントと、アンダーレイシートのジョイントが重ならないように割付けてください。
また、ビニル床シートとアンダーレイシートの流れ方向を合わせてください。



- ② ビニル床シートの施工には床下地に使用した接着剤と同じ接着剤を使用します。
アンダーレイシートは**吸水性のない下地**となります。塗布量・硬化時間には充分注意してください。他はビニル床シート施工方法に準じます。

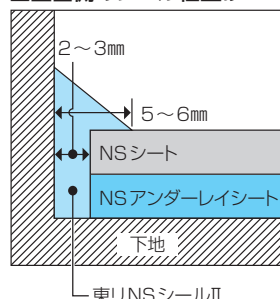
メモ

アンダーレイシート上に接着剤を塗布する際、両面くしばけの目が細かい側を使用することをおすすめします。

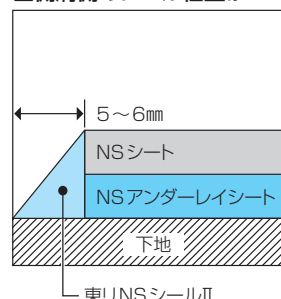
NSアンダーレイシートの端部処理

NSアンダーレイシートの端部処理は東リNSシールIIを以下のように充填してください。

■壁面側のシール仕上げ



■側溝側のシール仕上げ



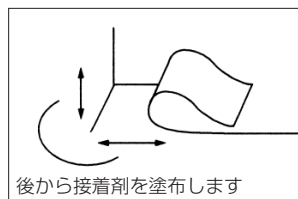
巻上げ施工

施工上の注意

- ◎下地表面は1m定規で検査し、誤差が±2mm以内であること。そして、壁と取合い部の床の平滑度が特に注意されて仕上げられていること。
- ◎接着剤で冒されるようなプラスター・ペンキ・張物下地でないこと。
- ◎床面に対して垂直に接続し、その垂直面は蛇行していないこと。
- ◎面を取って仕上げる場合は、東リ 面木を貼付けるか、面の形状、精度、および引通しよく下地が造られていること。
- ◎立上げ天端に見切りをとる場合は、水平に引通しよく調整してあること。

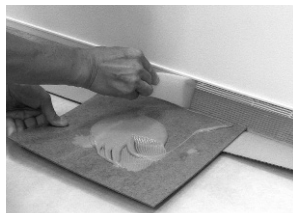
施工手順

- ① 巻上げに必要な長さを残して、ビニル床シートを施工します。



- ② 床面を全て納めてから巻上げ部分の壁に接着剤を塗布します。(大面積の場合)

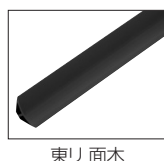
※小面積の施工では壁、床に接着剤を塗布し、床面から巻上げ面を一度に貼付けます。



- ③ 巻上げ部分のシートを巻上げて貼付けます。

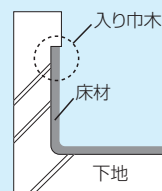


- シートが硬くて巻上がらない時には、ドライヤーなどで温めてやわらかくしながら巻上げます。コーナーから浮き上がらないようにコーナーローラーなどで入念に圧着してください。
- 必要に応じて東リ 面木を使用します。



メモ

入り巾木の場合は取合い部分まで突付けて納めます。入り巾木でない場合は、巻上げ上部にプチモール、プチモール W、または市販の見切り材を取付けるか、天端を東リ NS シール等でシールし仕上げます。

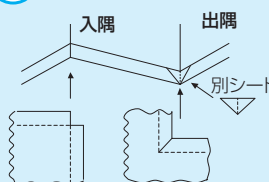


プチモールを使用した納まり

④ 出隅、入隅の巻上げ

巻上げ施工において、特に出隅部分の施工がむずかしく、十分に時間をかけて、慎重に施工しなければなりません。

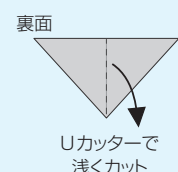
メモ



出隅・入隅部分に合わせてシートを切込みます。出隅部分は左記のように別シートを継ぎ足します。継ぎ目部分は東リ NS シール、オートンリペアカラー Q イックまたは専用溶接棒で処理します。

チェックポイント

出隅にシートを継ぎ足す際は、シート裏面を U カッター等で少し浅めにカットして折曲げやすくするときれいに仕上がります。折曲げは、シート裏面を加熱しながら行ってください。加熱せずに無理に曲げると折曲げ部の白化や割れが生じるおそれがあります。

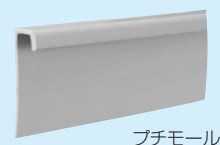


プチモール・プチモール W を用いたビニル床シートの巻上げ施工

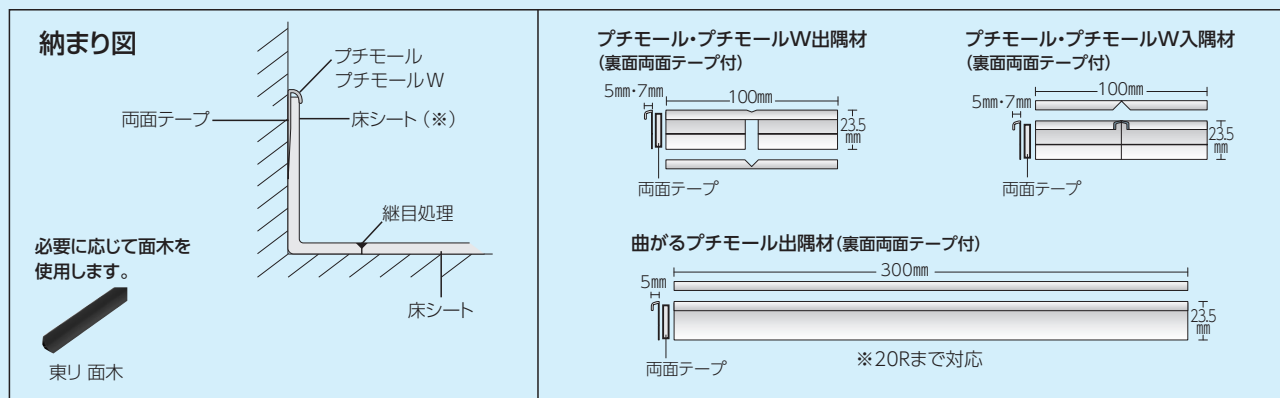
プチモール・プチモール W

ビニル床シート巻上げ施工用天端仕上げ材。
R 出隅も対応。巻上げ施工時にシート床材の
小口を美しく仕上げます。

下 地	接着剤
石膏ボード	両面テープ
珪酸カルシウム板・乾燥した モルタル・コンクリート・合板	両面テープとビス・釘の併用
継目処理	ゼリー状瞬間接着剤



プチモール



※プチモールは全厚2mm～2.8mm、プチモール W は全厚2.8mm～4.5mmのシートに施工可能です。

プチモール・プチモール W 施工手順

墨出し

巻上げ施工の仕上がり高さ位置に、水平の墨出しを行います。上部に
壁紙を施工する場合は、先に墨線部分まで貼付けを行います。

プチモール・プチモール W の貼付け

巻上げ高さ天端の墨出し線に従って、先
にプチモール出隅材・プチモール入隅材
を各出入隅に貼付け、次にプチモール
を貼付けていきます。接着は両面テー
プが基本になりますが、下地によって接
着不良が生じる場合や強固な接着を要す
る場合は、ビス・釘、接着剤 (CR セメント) 等を併用します。
継ぎ目部の目地スキや突上げを防止するため、プチモール端部
裏面にゼリー状瞬間接着剤を高さ方向に2列塗布してください。



巻上げたシートの施工

巻上げ部へシート貼付け後、プチモー
ルの上端に沿って、フックカッター等を
用い隙間が生じないように切込みます。
※落とし込みを用いると直線が出やすくなります。



圧着・継目処理

床と壁面の取合い部分は入隅用のコー
ナーローラー等を用い圧着します。



巻上げ部シート表面はハンドローラーやコ
ルク・繊維系の素材を巻いたソコギ板等
により、圧着と同時にエア抜きを行います。



養生

※シート立面部を溶接する際は、プチモールを熱から保護してください。破損のおそれがあります。

曲がるプチモール出隅材 施工手順

墨出し

巻上げ施工の仕上がり高さ位置に、水平の墨出しを行います。上部に
壁紙を施工する場合は、先に墨出し線部分まで貼付けを行います。

曲がるプチモールの貼付け

曲がるプチモール出隅材裏面の剥離紙を
剥がし、ゼリー状瞬間接着剤を両面テー
プの上部に沿って塗布してください。曲が
るプチモール出隅材の両端部にも、縦に
2列でゼリー状瞬間接着剤を入れてくださ
い。



巻上げ高さ天端の取付け線に沿って曲が
るプチモール出隅材を貼付けます。この
時、吞込み部に入っているつぶれ防止材
(丸棒)を外さないでください。

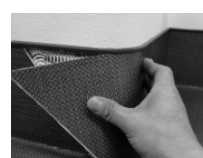


R 部のシート施工

シートを巻上げ施工し、R 出隅部にシー
トを貼付ける直前につぶれ防止材 (丸棒)
を外してください。



曲がるプチモールに差込むようにシートを
貼付けてください。最後にジョイント部を
溶接またはシールで仕上げます。



圧着・継目処理・養生

ビニル床シートの施工 / 耐水工法（簡易防水工法）

プールサイド・トイレ・厨房など、常時水のかかる可能性のある場所や、冷凍食品売り場など保冷機からの水漏れの予想される場所では、シート裏面に水がまわらないようにするために継ぎ目部や端部を接合し床を一体化する必要があります。
あくまでも簡易的なので、多量の水や長期間にわたっての防水効果を保証するものではありません。

施工上の特性

耐水工法は以下の方法で施工します。

ビニル床シート：耐湿工法

継 目 処 理：溶接工法 or シール処理…P.22、P.28 参照

端 部 処 理：A 東リ NS シールまたは東リ NS シールⅡによる耐水コーキング法

B 巻上げ施工…P.32 参照

C 床材・巾木施工後のパテ処理による工法

施工手順

A. 東リ NS シールまたは東リ NS シールⅡによる耐水コーキング法（簡易防水工法）

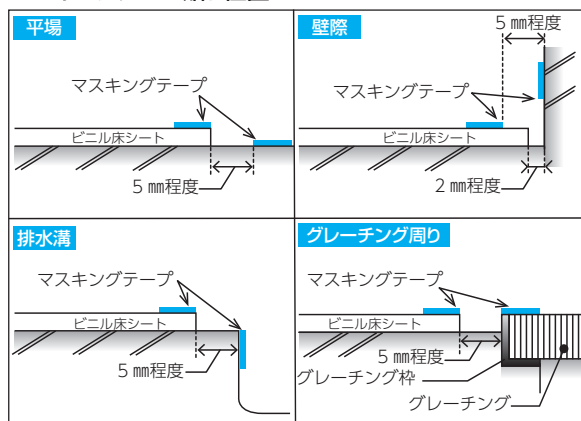
① 端部のカット

平場・側溝は 5mm 程度、壁際は 2mm 程度の間隙があくようにシートの余剰分をカットします。

② マスキングテープを貼る

塗布表面のゴミ、ホコリなどを除去し、水分のないことを確認し以下のようにマスキングテープを貼ります。

マスキングテープ貼り位置



③ シール剤の充填

端部にシール剤を充填します。充填後、すぐに仕上用のへらで表面を平滑に仕上げます。

※市販の金属製スプーンを用いてもよいです。

※ NS シールの使用方法是 P.28 をご参照ください。

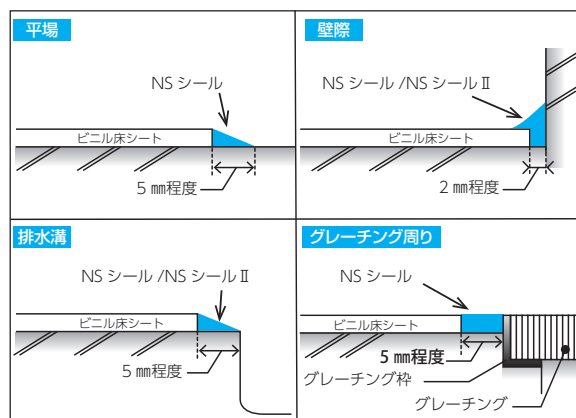
※ NS シールⅡなど、1 液型のシール剤は混合攪拌の必要はありません。

※ NS シールⅡ使用前には、銀紙を剥がしてから使用してください。

④ マスキングテープの除去および養生

表面仕上げ後、マスキングテープを取除きます。シール箇所には 24 時間以上触れないようにしてください。シールが硬化するまで 2 ～ 3 日の養生期間をとってください。

納まり図



メモ

パイプや電線取出口などとの取合い部もコーキングします。仕上り面が見苦しいので金ぶたをかぶせます。

B. ビニル床シート巻上げ耐水工法

巻上げ施工はP.32に掲載しておりますので、
ご参照ください。

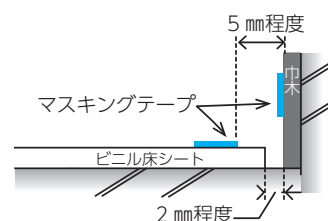
- 1 巻上げに必要な面積を残して、ビニル床シートを耐湿工法で施工します。
熱風溶接する場合、シートは突付けします。NSシールで処理する場合はあらかじめ継ぎ目部を3~5mm空けて施工します。
- 2 床面を全て納めてから巻上げ部分の床と壁に接着剤を塗布します。巻上げ部分は、後から接着剤を塗布しますので、必要な面積分だけ残しておきます。
- 3 巻上げ部分のシートを巻上げて貼付けます。
- 4 接着剤が硬化した後（約24時間後）熱風溶接またはNSシールなどで継目処理します。
- 5 出隅、入隅も熱風溶接またはNSシールなどで継目処理します。

C. 床材・巾木施工後のパテ処理による工法

- ◎床材・巾木を通常の耐湿工法で仕上げた後に、接触部をパテ埋めします。
- ◎防水性に優れ、後からの補修も簡易にできます。

- 1 Rナシ巾木を先付け施工します。
ビニル床シートおよび巾木を耐湿工法で施工します。
（シートは巾木から2mm程離して納めます。）

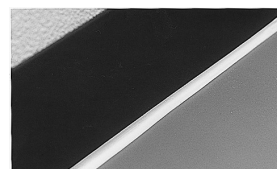
- 2 マスキングテープをシートと巾木に隙間約5mm残して貼付けます。



- 3 NSシール・NSシールⅡにて端部処理をします。
NSシールはA液とB液を混合し、色が均一になるまで攪拌し、カートリッジに注入します。



- 4 カートリッジの端部をカットし、充填します。



- 5 充填後、すぐに仕上げ用のヘラで表面を平滑に仕上げます。

- 6 マスキングテープを取除き、24時間以上養生します。

NSシートの施工

屋外（プールサイド等）

半屋外（マンション開放廊下やバルコニー等）

施工手順

！ 注意

- 集合住宅の開放廊下やバルコニー、プールサイドでは、雨水やプールの水などが床材の裏面に回ると、床材に膨れ、剥がれなどの不具合が発生する可能性がありますので継目処理、端部処理を適切に行ってください。
- マンション屋上やルーフトバルコニー等の下地で多く採用される「防水層+押えコンクリート」は構造上、常に多量の水分を含むおそれがあります。シートの膨れや剥がれの原因となるため、施工はおすすめできません。
- 水捌け用のV字溝、および段差等は、事前に下地補修材等で補修し、できるだけ表面を平滑にします。
- クラック防止の誘発目地やブロック状のコンクリートの目地に柔らかい目地材が詰められていることがありますが、セメント系の下地補修材での補修はできないので、同質の材料がウレタン系のコーキング剤でレベルを出してください。ただし、後日その部分に凹みや膨れが発生する可能性があります。現行の技術では凹みや膨れを解消する方法はありません。
- 集合住宅の屋上やプールサイドにおける高さの小さな段差は、下地補修材で緩やかなスロープをつけて調整します。
- プールサイドへの施工時には、プールあるいは下地より湿気が上がってくる場合があるので、下地湿気のないことを充分に確認の上施工を行なってください。また、プールの構造によっては、プールの水を抜いて施工する必要があります。
- 水勾配は2/100～3/100程度必要です。
- すり鉢状の排水口など、下地が平面で仕上がっていない下地には施工できません。
- NSシートは製法上の理由により、柄合わせはできません。ご了承ください。
- NSシートの目地はできるだけ少なくなるように、また端部に細かいカットが入らないように割付けてください。
- シートは耳部どうしでジョイントしてください。耳部と中央部とのジョイントでは色違いが生じる場合があります。
- 金属下地の場合は、耐湿工法で施工します。防錆処理下地が基準となります。
- 土間床、新築のデッキプレート下地には、耐湿工法を採用してください。

メモ

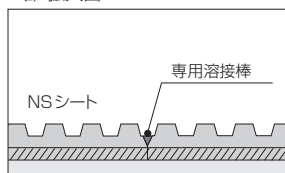
シートは耐水工法で施工します。
（詳細はP.19「ビニル床シートの施工」、
P.34「耐水工法」をご参照ください。）

- ・下地の調整
- ・敷き込み、圧着
- ・割付け、粗切り
- ・継目処理、端部処理
- ・仮敷き、裁断
- ・養生
- ・接着剤の塗布

継目処理

NSシートは専用溶接棒を使用します。

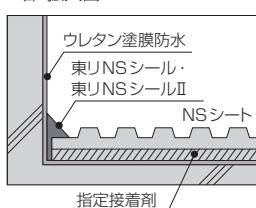
A部 拡大図



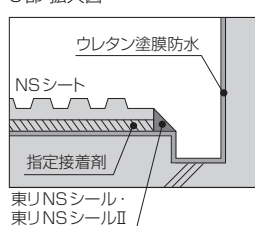
端部処理

東リNSシール・東リNSシールIIで端部を充填します。

B部 拡大図

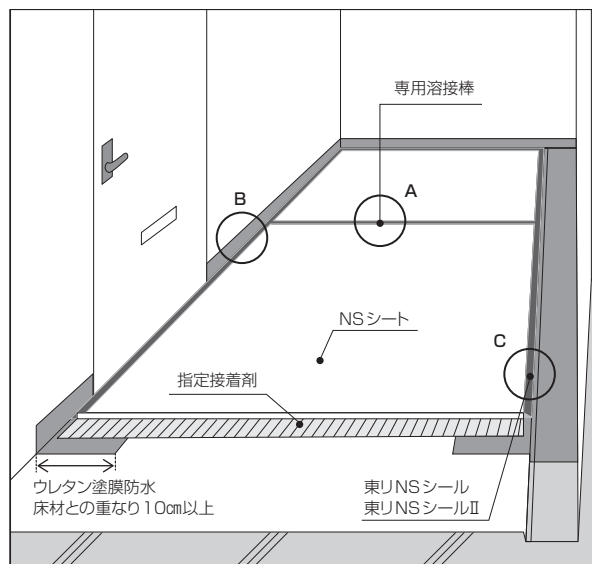


C部 拡大図



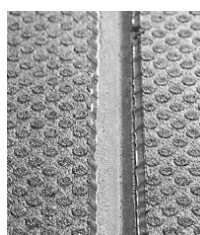
納まり図（集合住宅開放廊下）

ウレタン塗膜防水がある場合の一例



※上記納まり図はイメージです。実際の納まりと異なる場合があります。
※ウレタン塗膜防水のトップコートがフッ素系の場合、端部処理剤は東リNSシールをご使用下さい。

溝部分（仕上がり例）

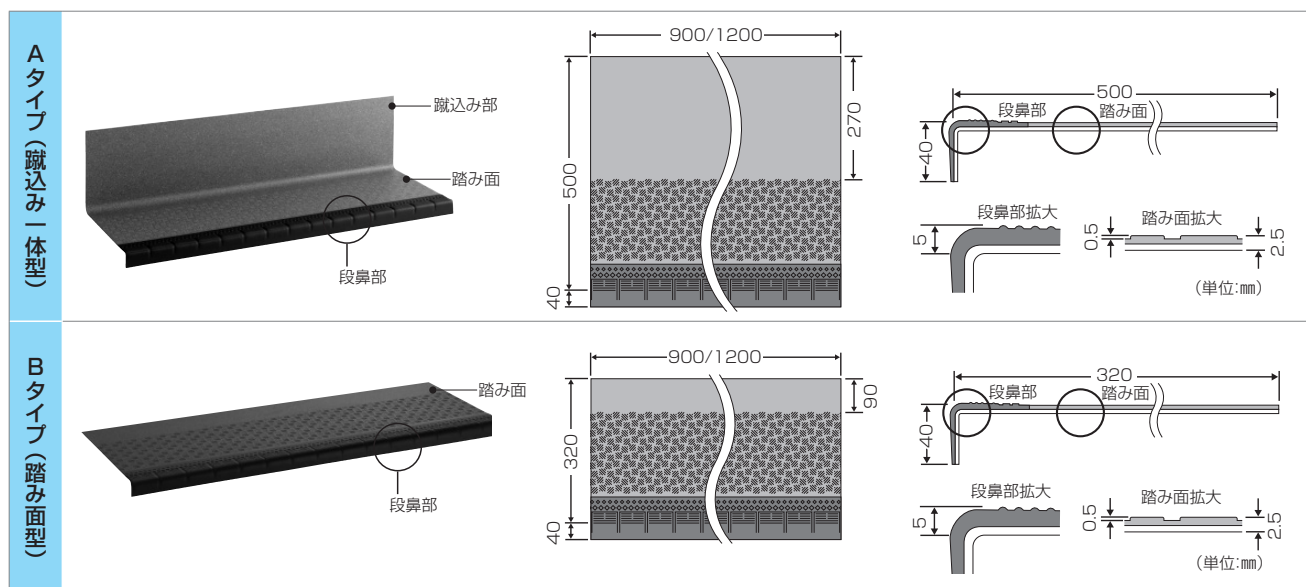


排水溝廻り（仕上がり例）



東リ NSステップ 800

寸法図



下地材	下地処理
モルタル・コンクリート下地	下地水分指標が10%以下になるよう充分に乾燥させてください。 粉ふきが見られる場合はサンダー等で削り取るか、プライマー処理を行ってください。
平鋼板下地	油汚れやサビを落とし下地をきれいにしてください。サビが酷い場合は、サビを落とした後に防サビ処理を行ってください。
塗床下地	塗料にはアクリル・ウレタン・エポキシ等、樹脂の品種が多種あり、接着剤との組み合わせで接着強度が出ないことがあります。施工前に支障のない部位で試験貼りし、塗料との接着性をご確認ください。また、塗料の剥がれがないこともご確認ください。
階段の蹴込み角度	階段の蹴込み角度は一般的には90°より小さくなっています。 対応角度は75°～90°です。
その他	下地の種類に合わせて、適切な下地処理を行ってください。

施工手順

① 下地の確認・清掃

砂やホコリなどを除去し、下地が平滑で乾燥していることを確認してください。

② 最下段の蹴込みシートの裁断

最下段の階段蹴込み面の幅・高さを測定し、蹴込みシートを裁断します。

Aタイプ

裁断したシートは最下段の蹴込みシートとして使用します。
残った材料は踊り場や最上段で使用します。

Bタイプ

蹴込み面にシートを貼付ける場合には、NSシート(NS800など)をご使用ください。

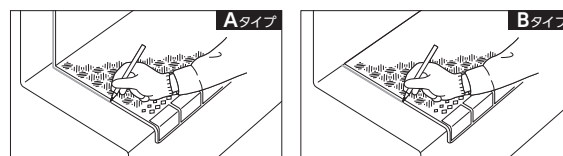
③ 墨出し

階段の幅寸法を測定します。この時、端部シール処理を行う為、仕上がり幅から5～6mm程度控え接着剤の塗布基準の線を入れます。

※先にステップ材をシールの仕上がり幅を考慮した寸法に裁断し、型紙替わりに使い接着剤の塗布基準線をけがく方法もあります。

④ 東リNSステップ800の裁断

階段の幅寸法を測定し、東リNSシール仕上げ代として5～6mm程度の隙間が空く寸法を仕上げ寸法とします。直定規などを用いて仕上げ寸法に裁断します。

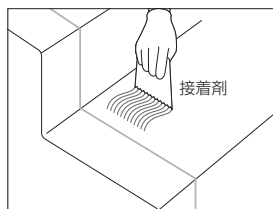


- ・ Aタイプは踏み面、蹴込み一体型のため、下地状態によっては、東リNSステップ800が納まりにくい場合があります。
- ・ 下地に防水層がある場合は、カッターナイフ等で傷付けないようにしてください。
- ・ 端部処理は全周行うことを標準工法としております。

5 接着剤の塗布

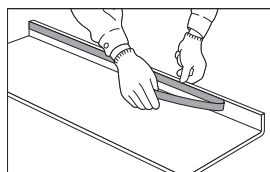
踏み面および、蹴込み面に指定接着剤を塗布し、所定の待ち時間（10～20分）を取ります。

※待ち時間が適切でない場合、段鼻部に浮きが生じます。



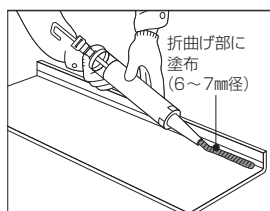
6 両面テープ剥離紙の剥がし

東リNSステップ800の段鼻裏面に貼付けてある両面テープの剥離紙を剥がします。（尚、両面テープの剥離紙は、東リNSステップ800貼付け後に剥がす手順もあるので任意で行ってください。）



7 段鼻裏面への接着剤 東リステップ用セメント（カートリッジ）の充填

右図のように東リNSステップ800裏面の折り曲げ部に東リステップ用セメント（カートリッジ）を、コーキングガンで6～7mm径の太さで充填します。



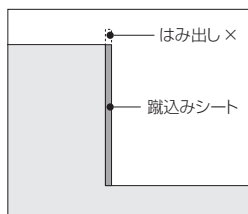
東リステップ用セメント（カートリッジ）標準充填量

900mm幅	7枚 / 本
1200mm幅	5枚 / 本

※東リステップ用セメント（カートリッジ）を塗布しない、もしくは塗布量が不十分な場合、段鼻部に亀裂や浮きがおこる場合がありますので必ず充填してください。

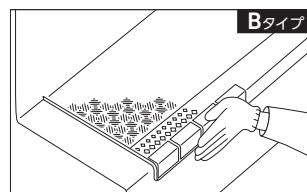
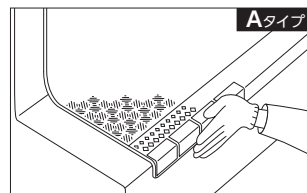
8 最下段の蹴込み面への接着剤の塗布 および、蹴込みシートの貼付け

最下段の蹴込み面に、予め裁断しておいた蹴込みシートを貼付け圧着します。その際、シートが蹴込み面上端部からはみ出さないように注意します。

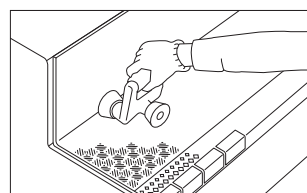


9 貼付け

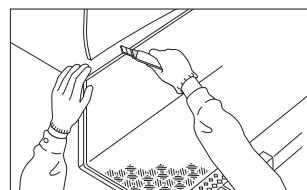
右図のように東リNSステップ800折曲げ部を階段の曲がり部分にあてがい、折曲げ部に空洞が生じないように注意して貼付けます。



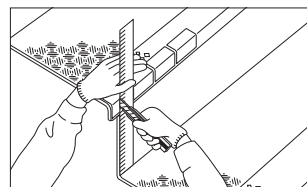
蹴込み面の貼付けは、コーナーローラーなどで折りグセを付けて納めます。



その際、シートが蹴込み面上端部からはみ出したものは、カットします。

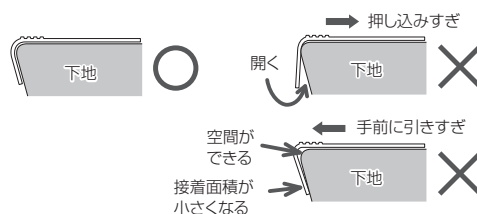


尚、蹴込み面両端部と段鼻両端部でズレがある場合は、直線にカットします。



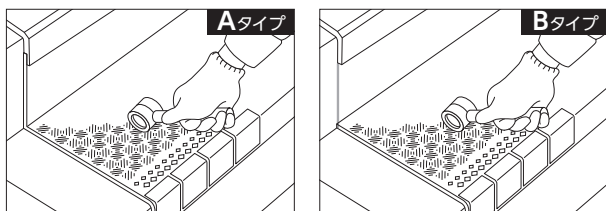
チェックポイント

施工のポイント（位置決め）



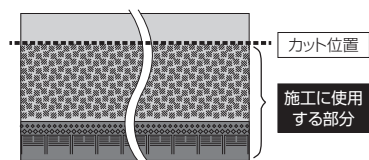
10 圧着

踏み面および、蹴込み面などをハンドローラーで圧着してください。東リステップ用セメント（カートリッジ）を塗布した折曲げ部は圧着しすぎないように注意してください。（接着剤の流れにより空洞が生じます。）



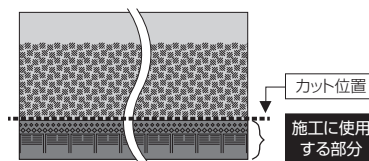
11 最上段部の納め

- ① 階段のエンボスを揃える場合
踏み面で溶接を行う施工方法（一般的な工法）



東リNSステップ800の踏み面部分の凹凸端部でカットして、階段踊り場や共用廊下のNSシートと溶接します。

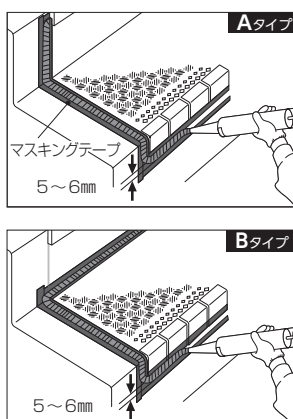
- ② 廊下と階段の意匠を揃える場合
段鼻部で溶接を行う施工方法



東リNSステップ800の段鼻の色の切り替わり部分でカットして、階段の踊り場や共用廊下のNSシートと溶接します。

12 端部仕上げ（東リNSシール／東リNSシールⅡ）

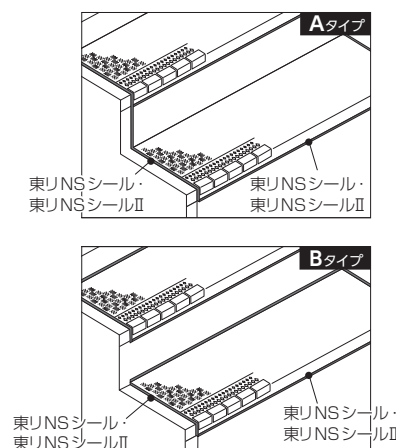
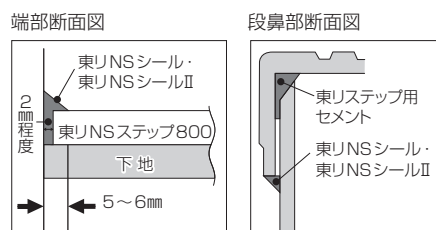
東リNSステップ800の全周を5～6mm幅に仕上げるようにマスキングテープで養生します。端部処理剤をコーキングガンにセットし、端部に充填します。充填後、仕上げヘラを用いて仕上げ、マスキングテープを除去します。



13 養生

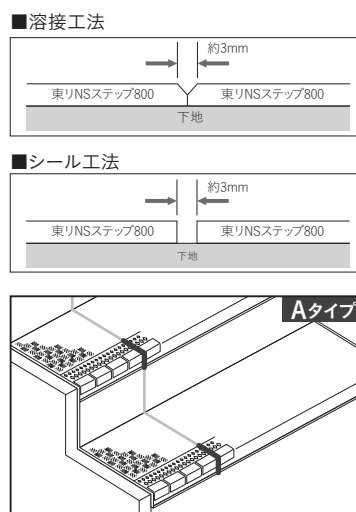
施工後、接着剤、端部処理剤が硬化するまで歩行を控えてください。（1～2日）

東リNSステップ800の踏み面周辺を端部まで仕上げる場合には、東リNSステップ800を壁より2mm程度短く裁断し、端部処理剤で下図のように仕上げます。



幅継ぎをする場合

東リNSステップ800を2枚以上並べて幅継ぎをする場合は、下図のように溝を設け、東リNSシール又は専用溶接棒による継目処理を行います。



※段鼻部（太線部）は東リNSシールで継目処理を行います。

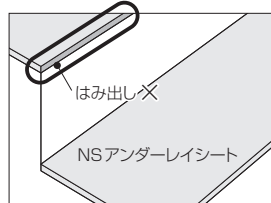
施工手順

(NS アンダーレイシートに東リ NS ステップ 800 を施工する場合の例)

① NS アンダーレイシートの割付け

NS アンダーレイシートを割付け、若干長めに粗切りします。
NS アンダーレイシートは発泡構造のため、巻取り時に伸びている場合があります。仮敷を行った後でカットしてください。

幅継ぎの必要がない場合は、斜め施工にならないように充分注意してください。また、蛇行等で余分な部分が出た場合は、押し込まずにカットを行ってください。



※**蹴上げ部分には NS アンダーレイシートを使用できません。**

② 切込み

巾定規・スクライバー等で採寸し、カッターナイフ、スパトラナイフ等で切り落としてください。壁際はスパトラナイフで当て切りしてください。また、壁際のカットはきつく押し込まないでください。

③ 接着剤塗布

指定接着剤 (US セメント・US300S) をくしばけで下地に塗布し、所定の待ち時間を取ってください。シート貼付け後すぐにローラー掛け、エア抜きします。

※**接着剤硬化の目安として気温 25℃ の場合、約 24 時間必要です。**

④ 仕上げ材 (東リ NS ステップ 800) の施工

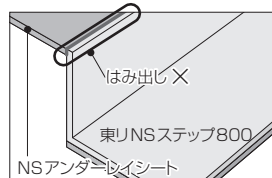
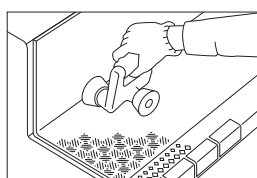
基本的には東リ NS ステップ 800 の施工方法に準じます。

以下の点に注意が必要です。

【A タイプ (蹴込み一体型) の場合】

蹴込みの入隅部分をコーナーローラーで浮きのない様に充分に圧着してください。

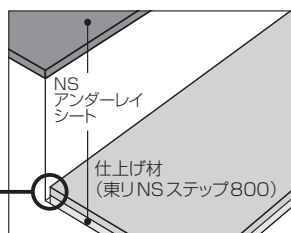
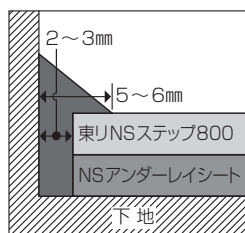
蹴上げ部分は上段の NS アンダーレイシートの高さより**はみ出さない**でください。はみ出した部分はカットしてください。



【B タイプ (踏み面型) の場合】

蹴込み側の貼付けは以下の図の様に浮きのない様に仕上げてください。

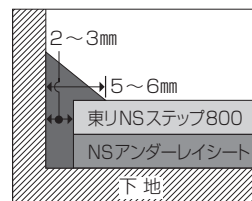
●蹴込み側のシール仕上げ



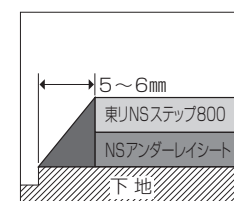
⑤ 端部処理

基本的には東リ NS ステップ 800 の施工方法に準じます。
端部処理は下部に空隙ができないように、下地まで充分に東リ NS シールⅡを充填してください。

●壁面側のシール仕上げ



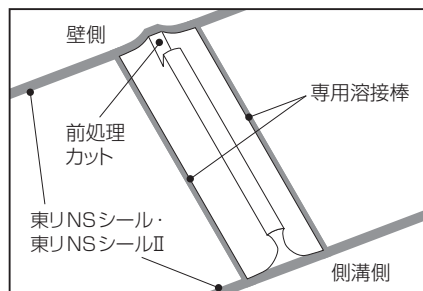
●側溝側のシール仕上げ



NS セパレーン

施工手順

施工イメージ



1 施工可否の確認

図1の様に隔て板と床の隙間を測定し、30mm以上の隙間があることを確認してください。隙間がなければ施工できません。

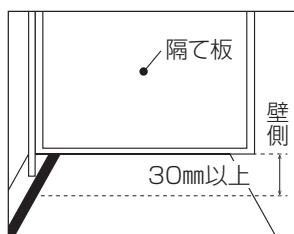


図1

2 下地の確認

湿気のない平滑な下地であることを確認してください。凹凸がある場合は、ケレンや補修材による補修を行ってください。

3 割付

図2の様に、下地に割付け線をつけてください。

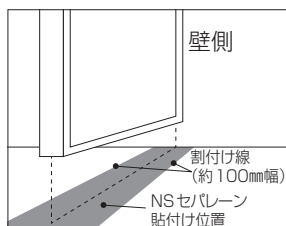


図2

4 前処理カット

図3の様に壁側に位置する立ち上がり部（凸部）を切り落としてください。

※壁側の端部処理（シール処理）作業が容易になります。

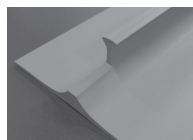


図3 カット後

【切り落とし方】

- ①図4のように、立ち上がり部の上からカッターナイフで垂直方向に10～15mm程度、真っ直ぐに切り込みを入れます。
- ②断面側から長手方向に20mm程度カッターナイフで切り込みを入れ、立ち上がり部を切り落とします。（図5）

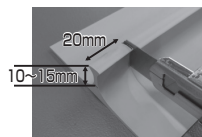


図4



図5

5 接着剤の塗布と貼付け

下地に指定接着剤を塗布し、待ち時間を取った後、図6、図7の様にNSセパレーンを貼付け、フラット部を十分に圧着してください。



図6

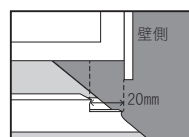
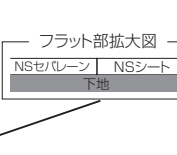


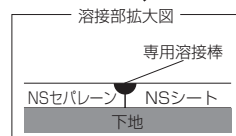
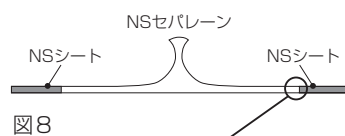
図7

【貼付け方向注意】

必ず、④で切り落とした方を壁側に向けて施工してください。

6 継目処理

接着剤が硬化した後、NSセパレーンとNSシートの継ぎ目をU字カットし、NSシート用の専用溶接棒で熱風溶接してください。（図8）



7 端部処理

接着剤が完全に硬化した後、施工するNSシートに対応する東リNSシールもしくは東リNSシールIIにて端部処理を行ってください。（図9、図10）

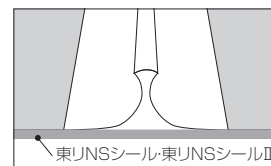


図9 側溝側

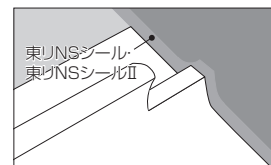


図10 壁側

NSパス

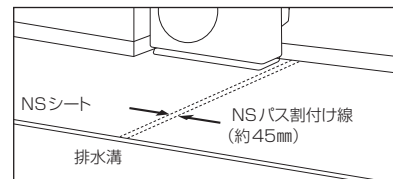
施工手順

① 下地の確認

湿気のない平滑な下地であることを確認してください。凹凸がある場合は、ケレンや補修材による補修を行ってください。

② 割付け

NSパスの取付け位置に、NSパスの幅寸法（約45mm）で、勾配に対して直角に排水溝いっぱいまで下地に割付け線をつけてください。

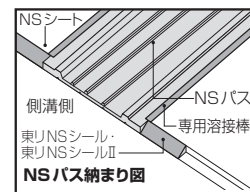


③ 接着剤の塗布、貼付け

下地に指定接着剤を塗布し、所定の待ち時間を取った後、NSパスおよびNSシートを貼付け、十分に圧着してください。

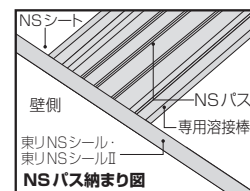
④ 継目処理

接着剤が完全に硬化した後、NSパスとNSシートの継ぎ目をU字カットし、NSシート用溶接棒で熱風溶接してください。



側溝側

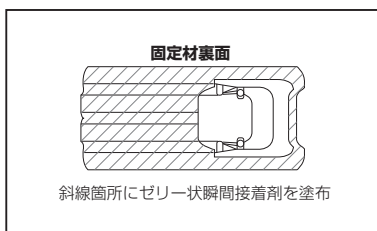
端部処理は、壁側はNSパス幅方向いっぱいに、側溝側は流水を妨げないようにNSパス以外の部分を東リNSシール/東リNSシールIIを施してください。



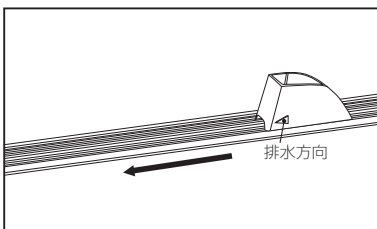
壁側

⑤ ホース固定材の取付け

- ① NSパス溝部上で、壁から5cm以上離れた場所且つ歩行の妨げとならない場所をNSパス用ホース固定材の取り付け位置とし、その場所の油、水分、埃等を除去してください。
- ② ホース固定材裏面外枠にゼリー状瞬間接着剤を均一に塗布してください。



- ③ 側面に表記している「<」が流水下部（排水溝の方向）を指すようにして、取り付け位置に押し込み、指圧で圧着してください。



- ④ 接着剤硬化後（1日以上放置）、排水ホースをホース固定材に通してください。

！ 注意

- 排水ホースは必ず、接着剤硬化後（固定材取り付けから1日以上放置）に設置してください。
- 固定材は必ず、固定材側面に表記している「<」が排水溝の方向を向くように取り付けてください。逆向きに取り付けると、排水できなくなります。

NSパス蓋付

施工手順

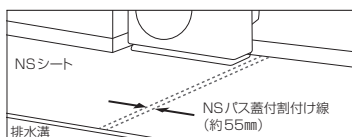
※冬季（10℃以下）施工の場合、貼付け前に必ず加温してください。癖が残ったまま床に貼付け、その後に上から加温すると、形状が戻らず蓋が閉まらなくなります。光沢の変化を防止するため、裏面からの加温をおすすめします。

① 下地の確認

湿気のない平滑な下地であることを確認してください。凹凸がある場合は、ケレンや補修材による補修を行ってください。

② 割付け

NSパス蓋付の取付け位置に、NSパス蓋付底部の幅寸法（約55mm）で、勾配に対して直角に排水溝いっぽいまで下地に割付け線をつけてください。



チェックポイント

NSパス蓋付の取出し方

NSパス蓋付はねじれると、蓋部分が外れやすくなります。ねじれないように取出してください。



（注）気温が低い時期はねじれないように取出しても巻き癖で蓋が外れる場合があります。

（注）巻き癖が取れない場合はドライヤーなどで温め、巻き癖を取除いてください。

③ 接着剤の塗布、NSシートおよび NSパス蓋付の貼付け

NSパス蓋付をカットします。蓋開閉部分は硬い素材のため、モールカッターを使用するか、カッターで切れ目を入れて折るようにしてください。

また、固定材を取付ける場合は取付けたい部分のみ「NSパス蓋付」の蓋を切抜いてください（6cm程度）。（図1）

この時、蓋に設けられている切込み線を目安に直角定規を位置合わせし、カットしてください。（図1・図2）

なお、ホース固定材は壁側から5cm以上離れた場所に取付けてください。

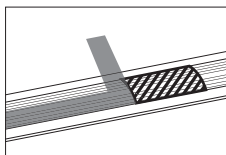


図1

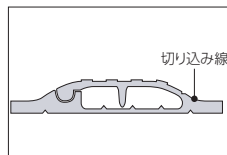
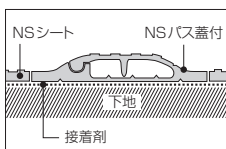


図2

下地に指定接着剤を塗布し、待ち時間を取った後、NSパス蓋付および2.5mm厚のNSシートを隙間ができないよう貼付けてください。

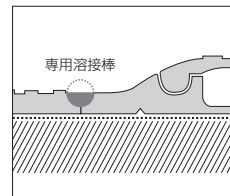
NSパス蓋付は指圧またはハンドローラーで、蓋の上部から底部にしっかりと接着剤が付着するように圧着してください。



（注）施工途中に蓋が開いた際は、指圧またはハンドローラーで蓋の上部から押込むと、簡単に蓋が閉まります。

④ 継目処理

接着剤が充分乾燥した後、NSシートとNSパス蓋付の継ぎ目（両側）を専用溶接棒にて熱風溶接してください。必ずUカットした上で溶接し、シート表面で余盛り部分をカットして仕上げてください。



⑤ 端部シール処理

接着剤が完全に硬化した後、東リNSシールまたは東リNSシールIIにて端部処理を行ってください。なおNSパス蓋付の排水溝側にはシール処理を施さないでください。（排水の妨げとなります）

⑥ ホース固定材の取付け

① NSパス蓋付上で、壁から5cm以上離れた場所かつ歩行の妨げとならない場所をNSパス用ホース固定材の取付け位置とし、その場所の油、水分、埃等を除去してください。（図3）

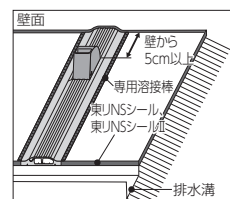


図3

② ホース固定材裏面外枠に瞬間接着剤を均一に塗布してください。（図4）

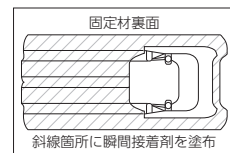


図4

③ 側面に表記している「◁」が流水下部（排水溝の方向）を指すようにして、取付け位置に押込み、指圧で圧着してください。（図5・図6）

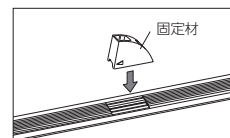


図5

④ 接着剤硬化後（1日以上放置）、排水ホースをホース固定材に通してください。

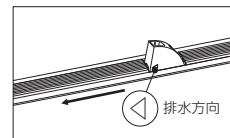


図6

〔ご注意〕

●排水ホースは必ず、接着剤硬化後（固定材取付けから1日以上放置）に設置してください。

●固定材は必ず、固定材側面に表記している「◁」が排水溝の方向を向くように取付けてください。逆向きに取付けると、排水できなくなります。

注意

詰まった場合のメンテナンス方法

NSパス蓋付の蓋部分を排水溝側からめくりあげ、内部をきれいに清掃してください。清掃後、蓋をNSパス蓋付本体に押し込み、元の状態に戻してください。

（注）低温時に蓋部分をめくり上げる際、蓋部分を強く曲げると、割れたり白化する可能性があるのご注意ください。

浴室用ビニル床シート『バスナシリーズ』の施工

(バスナリアルデザイン・バスナフローレ・バスナアルティ)

浴室のように頻繁に水を使用する場所では、床材の裏面や下地に水分が回り込むと、様々な悪い影響を及ぼす可能性があります。継目処理や端部処理を確実にを行い、裏面に水が回り込まない施工をする必要があります。

施工条件

- モルタル・コンクリート、磁器タイル、ユニットバス（樹脂）下地への施工が可能です。石材等は種類により判断の必要があります。東リ営業所までお問合わせください。
- バスナシリーズは躯体への漏水を防ぐことを目的とした防水シートではありません。漏水が無いことを確認してから施工してください。漏水がある場合は必ず補修を行ってください。補修有無の判断は防水専門の業者様にお願いしてください。
- 在来工法浴室では下地は排水溝に向かいなだらかな水勾配をモルタル、コンクリートで1/100～3/100に仕上げてください。FRP樹脂下地（システムバス）等で勾配が取れていない場合は浴室専用の工事業者様にご相談をお願いします。水はけ性能は水勾配により変わります。窪みなどがあると水溜りができ、「ぬめり」が発生し滑りの原因にもなりますのでご注意ください。
- 磁器タイル下地の場合は老朽化して剥がれている、目地部分に白い付着物（カルシウム等）があるなどの下地に問題があるケースでは下地処理が必要です。浴室専用の工事業者様にご相談をお願いします。
- 磁器タイル下地の場合、タイル目地などの下地の凹凸の深さが1mm以上もしくは、凹凸の間隔が10mm以上の場合はクイックレベラーを用いて下地補修を行ってください。なお、磁器タイル上についた補修剤は拭取るかケレン用具等で取除きます。
- ユニットバス（樹脂）下地の場合、タイル目地などの下地の凹凸の深さが1mm以上もしくは、凹凸の間隔が10mm以上の場合はバスナパテEPOを用いて下地補修を行ってください。
- 下地の凹凸が大きい等、下地補修が困難な場合は下地材を剥離し、モルタル・コンクリートを打ち直していただくか、グラインダー等で削り、平滑に仕上げていただく必要があります。
- 施工の際は専用接着剤（バスナセメントEPO）、専用両面テープ（バスナテープ）及び、専用端部処理剤（バスナシールSS）を使用しシート裏面に水が回らないよう仕上げてください。
- バスナリアルデザイン、バスナフローレ、バスナアルティは柄合わせができません。ご了承ください。

接着剤工法（バスナセメントEPO）の場合

1 下地の確認

下地勾配が排水溝に向かい1/100～3/100程度の**なだらかな勾配があることを確認してください**。勾配が充分でないと水はけ性能低下の原因になります。

モルタル・コンクリート下地

- 下地湿気は、「高周波水分計 HI-520-2 型 (D.MODE) 620 未満」を条件とします。
- 凹凸は、ケレン用具や下地補修材（クイックレベラー等）で補修します。

磁器タイル下地

- タイル目地などの下地の凹凸の深さが1mm以上もしくは、凹凸の間隔が10mm以上の場合はクイックレベラーを用いて下地補修を行ってください。なお、磁器タイル上についた補修剤は拭取るかケレン用具等で取除きます。

ユニットバス（樹脂）下地

- タイル目地などの下地の凹凸の深さが1mm以上もしくは、凹凸の間隔が10mm以上の場合はバスナパテEPOを用いて下地補修を行ってください。

2 材料納入・仮敷

仮敷をして、巻き癖等を取ります。

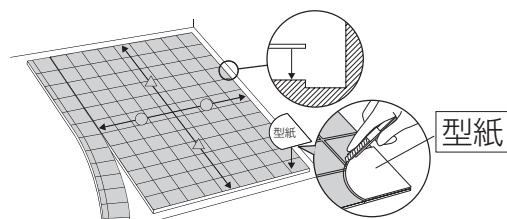
※巻き癖等を取りやすくする為にできるだけ10℃以上の場所で仮敷してください。

3 下地の清掃

下地のゴミ、ホコリ、皮脂汚れ、水アカ、石鹸カス等を除去します。除去が不完全な場合は接着不良の原因となりますのでご注意ください。

4 割付け・シートをカット

- ①シートを貼る範囲を決め、中心より割付けます。中心点より前後左右を均等な長さにします。
- ②シートの貼付位置にエンピツ等で基準線を入れておきます。
- ③メジャーで採寸し、定規で正確にカットします。
- ④排水口など曲線部分は型紙を取り、型紙を元にカットします。
※シートはあらかじめ仮敷きを行い、十分に巻き癖を取除いてください。



5 接着剤を塗布

- ①下地補修材が乾燥したことを確認し、ケレン用具やサンドペーパー等で下地補修材を平滑にします。
- ②ゴミ、ホコリ等を取除き、きれいに清掃します。
- ③使用方法にたがって「バスナセメントEPO」のA液・B液を等量混合します。
- ④くしばけを使用し速やかに塗布してください。

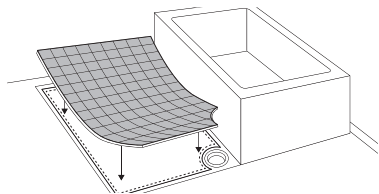


！ 注意

10℃以下の環境では硬化不良となりますので、空調等で室温を上げて施工してください。

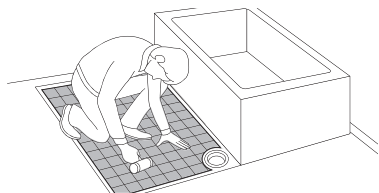
6 シートの貼付け

- ①適切な待ち時間（約20分）をとってください。
貼付可能時間は以下が目安です。
夏季 20～60分 冬季 20～120分
- ②シートに巻き癖が残っている場合は、裏巻きにする等して十分に巻き癖を取除いてください。
- ③基準線に合わせてシートを貼付けてください。



7 圧着

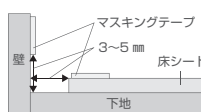
ハンドローラーでしっかり圧着します。
※巻き癖が取れなかった場合、部分的に浮きが発生することがあります。その場合はライスター、ドライヤー等の熱風でシートをやわらかくした上で再度圧着してください。



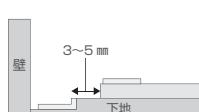
8 端部処理

- ①貼付けた床シートの周囲に3～5mm程度の隙間を空けてマスキングテープを貼ります。

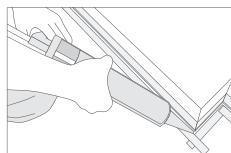
●シートを壁際まで施工する場合



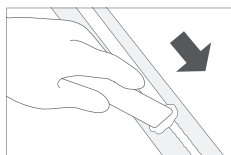
●壁際に排水溝がある場合



- ②コーキングガンを用いてバスナシールSSを充填します。

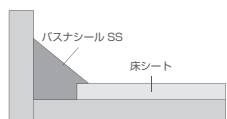


- ③バスナシールSS用ヘラを使いシールを掻き取った後、マスキングテープをすべて剥がします。



仕上がりのイメージ

●シートを壁際まで施工する場合

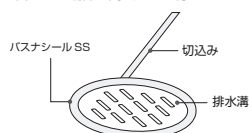


●壁際に排水溝がある場合

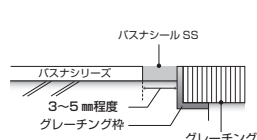


排水溝とグレーチングまわりの納まりについて

水勾配の大きな排水溝まわりは、切込みを入れるなどして処理してください。切込み部分は、継ぎ目または端部と同じ処理を行ってください。



グレーチングでは、金属部分の3～5mm手前で切込み、その隙間にシール剤を充填してください。



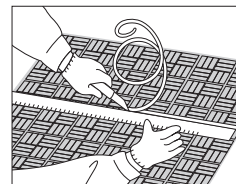
※ 継目処理が必要な場合

熱風溶接工法による継目処理

専用溶接棒を使用します。

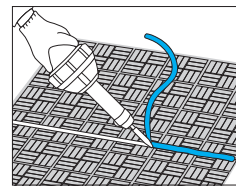
1 カット

接着剤が十分に硬化した後、目地部分を溝切り機か溝切りカッターでUまたはVカットします。



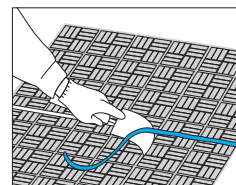
2 熱風溶接

バスナ専用溶接棒を熱風溶接します。



3 余剰部分カット

スパトラナイフ等を用いて余剰部分をカットします。



バスナシール SS による継目・端部処理

専用シール剤（バスナシールSS）を使用します。

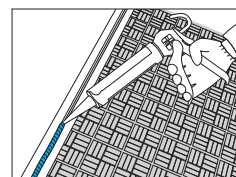
1 マスキング

シールする周辺を汚さないように、マスキングテープを貼ります。塗布表面のゴミ、ホコリ等を除去し、水分のないことを確認します。



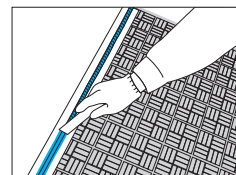
2 充填

カートリッジの先端部をカットし、防湿膜に穴をあけてからコーキングガンにセットし、シート継目・端部に充填します。



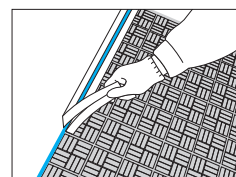
3 平滑にする

充填後、すぐに仕上げ用のヘラで表面を平滑に仕上げます。



4 マスキングテープの除去、養生

表面を仕上げた後、すぐにマスキングテープを取除き、一晚養生します。その後入浴は可能ですが、シール剤が完全に硬化するまでには2～3日かかります。



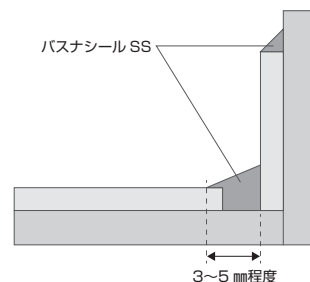
！ 注意

※シール剤が完全に硬化するまでは、キャストの使用やブラシ等での清掃は避けください。

立上げ施工

浴室の床面は水捌け性の為に勾配が設けられています。大きな勾配がある浴室は、立上げ部がきれいに収まらない場合がありますのでご注意ください。また、勾配により立上げ面の模様は斜めに仕上がります。

シートを帯状にカットし、床と壁を別々に施工する方法もあります。この場合は右図のように床面と壁面の間に3～5mm程度の隙間を空けて、バスナシールSSで処理してください。



テープ工法（バスナテープ）の場合

① 下地の確認

下地勾配が排水溝に向かい1/100～3/100程度の**なだらかな勾配があることを確認してください**。勾配が充分でないとは水はけ性低下の原因になります。

磁器タイル下地・ユニットバス（樹脂）下地

●タイル目地などの下地の凹凸の深さが1mm以上もしくは、凹凸の間隔が10mm以上の場合は、必ずバスナパテEPOを用いて下地補修を行ってください。石膏系やセメント系の下地補修材は使えません。

モルタル・コンクリート下地

●バスナテープによる施工は、モルタル・コンクリート下地では行えません。

② 材料納入・仮敷

仮敷をして、巻き癖を取ります。

※巻き癖を取りやすくする為にできるだけ10℃以上の場所で仮敷してください。

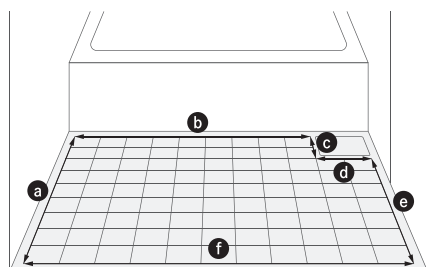
③ 下地の清掃

下地のゴミ、ホコリ、皮脂汚れ、水アカ、石鹸カス等を除去します。除去が不完全な場合は接着不良の原因となりますのでご注意ください。

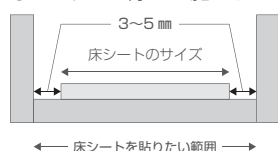
④ 割付け・シートのカット

①床シートを貼る範囲を決め、メジャー等で採寸します。

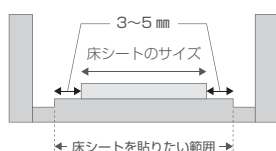
※床シートの端部は最後にバスナシールSSでシール処理を行うため、下図のように各辺、貼りたい範囲よりも3～5mm程度小さくなるように採寸してください。



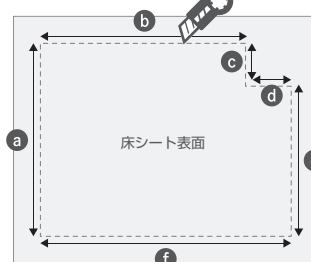
●シートを壁際まで施工する場合



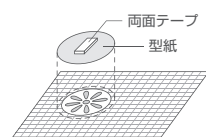
●壁際に排水溝がある場合



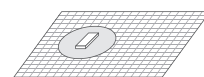
②寸法通りに床シートをカットします。



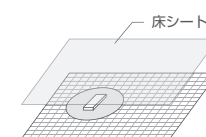
排水溝などが床面の中心にある場合



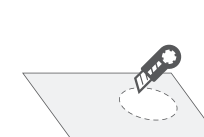
排水溝より半径が3～5mm大きい型紙をつくり、上面に両面テープを貼ります。



両面テープの剥離紙を剥がし、型紙を排水溝の位置に置きます。

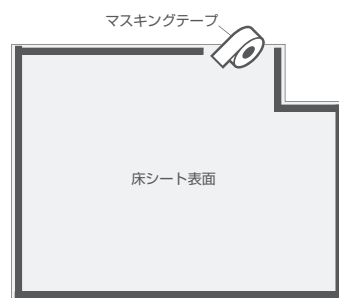


床シートを貼付け位置に仮置きし、型紙を床シートに貼付けます。



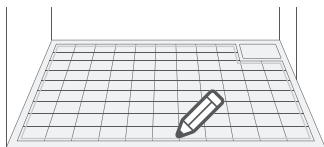
床シートを裏返し、型紙に沿ってカットします。

③カットしたシートの周囲にマスキングテープを貼付けます。

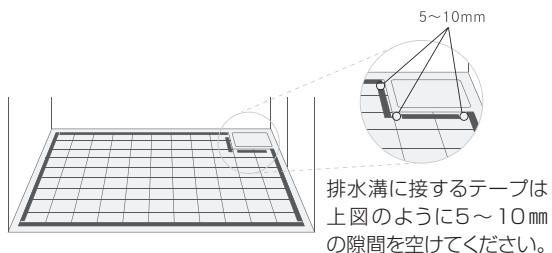


5 シートの貼付け、圧着

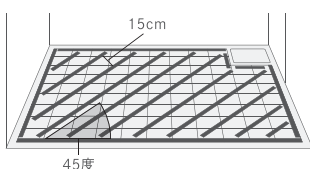
- ①下地のゴミ、ホコリを取除きます。
- ②カットした床シートを下地の上に仮置きし、貼付ける場所に鉛筆等でしるしを入れます。



- ③下地に描いたしるしに沿ってバスナテープを貼ります。



- ④周囲に貼ったバスナテープの内側に斜め(45度程度)に15cm間隔でバスナテープを貼ります。

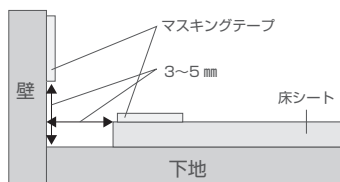


- ⑤床面に貼付けたバスナテープの剥離紙を剥がし、床シートを貼付けて「圧着」します。

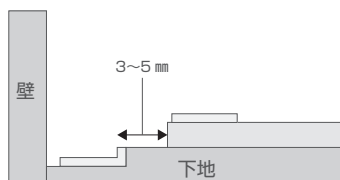
6 端部処理

- ①貼付けた床シートの周囲に3~5mm程度の間隙を空けてマスキングテープを貼ります。

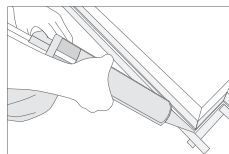
- シートを壁際まで施工する場合



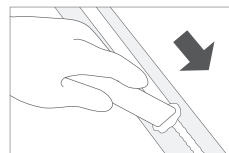
- 壁際に排水溝がある場合



- ②コーキングガンを用いてバスナシールSSを充填します。

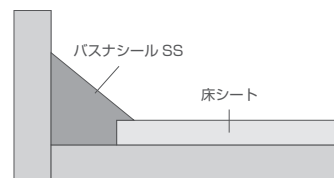


- ③バスナシールSS用ヘラを使いシールを掻き取った後、マスキングテープをすべて剥がします。

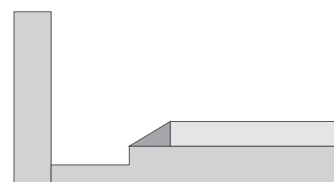


仕上がりイメージ

- シートを壁際まで施工する場合

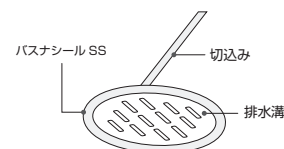


- 壁際に排水溝がある場合

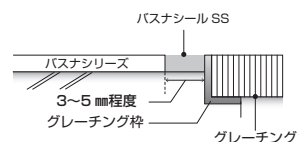


排水溝とグレーチングまわりの納まりについて

水勾配の大きな排水溝まわりは、切込みを入れるなどして処理してください。切込み部分は、継ぎ目または端部と同じ処理を行ってください。



グレーチングでは、金属部分の3~5mm手前で切込み、その隙間にシール剤を充填してください。



導電性ビニル床シート『アースリウム』の施工(アース工法)

施工上の特性

導電性能を確実に発揮させるためには、アース工法により、部屋の端部に設置したアース板まで、床材がとらえた静電気を確実に流す必要があります。必ず継ぎ目を接着剤「導電エポグレー」でジョイントさせ、アース板を壁面付近の床に設置し、このアース板に「導電エポグレー」を使用して床材を短絡させます。継目処理は専用溶接棒による熱風溶接を行います。

約100㎡につき1ヶ所アース板を設けてください。

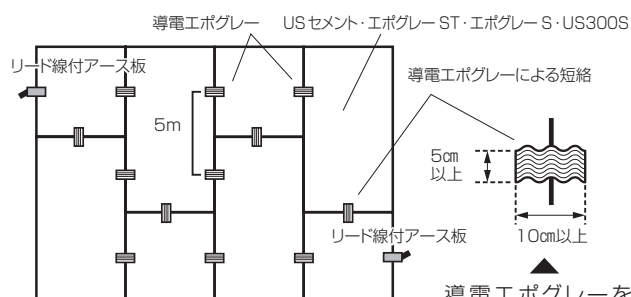
アース板とシートとの接着、シートとシートの短絡には必ず「導電エポグレー」を使用してください。

広い場所で2ヶ所アースをとる場合は対角の位置でとるようにしてください。



施工手順

- 1 下地が固定されており、平滑なことを確認し、ワックスや汚れは除去します。隙間や段差等は補修します。
- 2 貼り方向、取り合わせを検討し割付けます。
- 3 シートを指定接着剤で接着します。
- 4 シートのジョイント5mおきに1ヶ所導電エポグレーを10cm以上×5cm以上で入れます。



導電エポグレーは隣接するシートのいずれかに接合するように塗布してください。(長さ方向は5mおきに1ヶ所、幅方向は中央に1ヶ所)

導電エポグレーを塗布したくし目の方向は、シートとシートが導電エポグレーで短絡するように(シートの継目部に直行するように)塗布します。

- 5 シートのジョイントは専用溶接棒で熱風溶接します。

※溶接棒に導電性能はありません。

- 6 アースターミナルに短絡させたアース板とシートを導電エポグレーで接着します。

アース工法(導電工法)用副資材

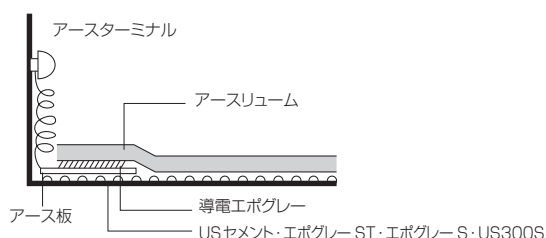
導電性シート(アースリウム)とアースターミナルを連結させる際に使用。

0.3mm×20mm幅×150mm(アース板)

2m(リード線)



リード線付アース板



※アース板とシートの接着には必ず「導電エポグレー」を使用してください。

※リード線のアースターミナルへの接続は電気工事となりますので資格が必要です。

※アースの種類はD種接地工事です。

- 7 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで48時間以上養生します。必要に応じて養生シートを使用してください。

舞台用ビニル床シート『TMフロア』の施工

施工上の特性

バレエ舞台・レッスン場をはじめ、文化会館ホールやエアロビクス教室・幼稚園・福祉施設などで臨時に使用する場合はテープ留めの置き敷き工法と、バレエ教室、専用レッスン場など常設で使用する場合は接着剤を使用した工法があります。

舞台用下地の上に施工されることを標準としています。舞台用の木造床の上や、合板下地（根太組構造）に施工してください。

モルタルやコンクリート下地、ビニル床タイルの上などにTMフロアを施工すると硬く仕上がります。東リアンダーレイシートと組み合わせると弾力性が増しますが、やわらかさの適正については事前に充分にご確認ください。

施工手順

① 接着剤を使用した工法

ビニル床シートと同様に施工してください。

② テープ工法

TMフロアのテープ工法では専用のTMテープ（布製粘着テープ）を使用します。

TMテープ

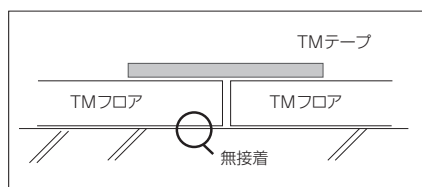
品番コード：TM-TAPE

規格：幅50mm×25m巻（10巻/ケース）



一重テープ貼り

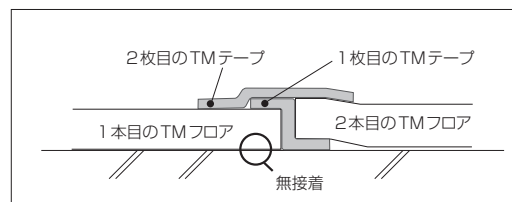
1日か2日程度の公演に耐える程度。



シートのジョイント部にTMテープをまたぐように左右等分に貼付けます。

二重テープ貼り

同一の舞台が数週間におよぶ長期公演、またはTMフロアそのものが巻き癖などによって波打ち、納まりが悪いとき。



- ① 1枚目のTMフロアの位置決めをします。
- ② シート端部の表面にテープの半分を貼り、残り半分の床に貼付けます。
- ③ 2枚目のTMフロアを先のテープに沿わせて、押しつけます。
- ④ 2本目のテープ半分は2枚目のシート表面に、他の半分は、先のテープ（1枚目のシート表面に貼付けたテープ）に重ねて貼付けます。

※2本目のテープは両方のシート上に均等に貼付けられるようにします。テープの段差は使用上支障となりません。

3. タイルカーペットの施工

施工上の特性

◎ピールアップ形接着剤「エコGAセメント」による全面接着工法を標準とします。

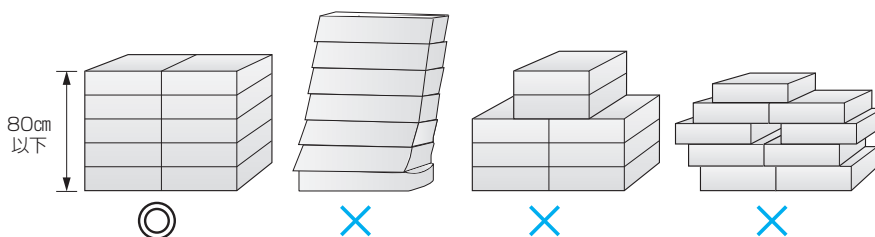
◎プラスチック系床材に比べて、反り、突上げ、不陸が目立ちません。

◎塩ビバック品の目地部はきつくなりすぎないように注意して施工してください。

目安：500mm角のタイルカーペットの場合、10枚で5003mm～5005mm程度。

運搬・保管上のご注意

- 製品は梱包をとらずに、平坦な場所にすらすら積載して保管し、積載は80cm以下を限度とします。積み過ぎや雨水などによる水濡れは避けてください。変形・変退色・変質・汚染・パイルの損傷の原因となります。



タイルカーペットの変形やパイル潰れのおそれ

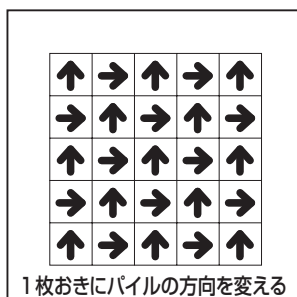
施工手順

- ① 貼り方向・取り合わせを検討の上割付けし、基準線を設けます。(P.2 参照)

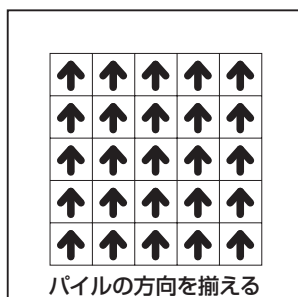
- ② ピールアップ形接着剤「エコGAセメント」を塗布します。

- ③ 接着剤「エコGAセメント」が半透明になってから、基準線に沿ってタイルカーペットを敷込みます。

市松貼り



流し貼り

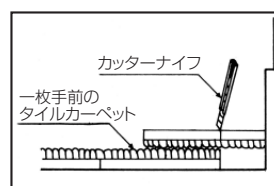


- 裏面の矢印等を確認しながら、指定された貼り方で敷込みます。
- 階段部分は流し貼りを標準とします。

- ④ 壁ぎわなど、切込みが必要な部分を表カットまたは裏カットで切込みます。
複雑な切込みには表カットが適しています。

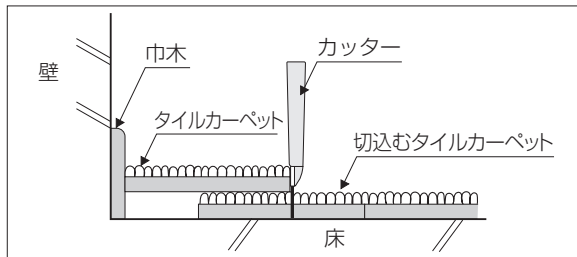
裏カット

切込みを行うタイルカーペットを一枚手前のタイルカーペットの上に正確にのせて合せ切りします。厚さの半分までカッターをいれた後に、折り曲げて再度カッターで切落とします。



表カット

カッターを深く入れ、一度にバック層まで完全にカットします。残った場合はカッターを使って切り離します。



注意

表カットすると切込み寸法が長めになりがちなので注意してください。

- 5 ハンドローラーで目地部を押さえておくと目地部の浮きなどが解消され、きれいに仕上がります。また、パイルの巻き込みも目地部に隙間が空いたように見えるため、補修しておきます。



注意

タイルカーペットはきつめ施工にならないようご注意ください。
きつめ施工をした場合でも、目地部を無理やり押し込むと一旦はきれいに納まりますが、ピールアップ形接着剤は完全に硬化しないため、後日突上げのおそれがあります。充分ご注意ください。

- 6 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、必要に応じて養生シートで養生します。



チェックポイント

◎目地部に毛羽立ちがある場合

毛羽立っている部分の隣のタイルカーペットを少し持ち上げ、起き上がったパイルを、接しているカーペットの側面で少し押さえながら元に戻すと、ある程度目立ちにくくなります。小さなマイナスドライバーの先で目地をしごいて直す場合もあります。

◎汚れた際の取り替え、ローテーションしたい場合

入口など汚れやすい位置には、真物がくるように割付けます。

二重床上的タイルカーペットの施工方法

施工上の特性

◎タイルカーペットの施工はルースレイタイルと同じです。詳細はP.14をご参照ください。

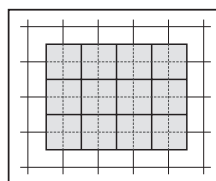
- 開口率の高いパネルや凹凸のはげしいパネルは、タイルカーペットの破損、突上げが発生するおそれがあるため施工できません。

施工手順

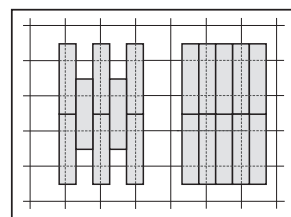
- 1 パネル目地とタイルカーペット目地を半分程度ずらして割付けます。(1/2スライド工法・1/3スライド工法)

パネルとタイルカーペットの目地を合わせると目地スキ、段差などが発生することがあります。

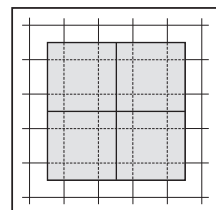
正方形タイプ
(500mm×500mm)



プランクタイプ(VARY)
(250mm×1000mm)



(1000mm×1000mm)



- 2 フリーアクセスフロアに施工する際は、スポンジローラーで接着剤(エコGAセメント)を全面塗布してください。

- OAフロアの凹部に接着剤が溜まらないよう注意してください。
- パネルの目地・支持脚の固定ネジなどへ接着剤が流れないよう注意してください。

※エコGAセメントの標準使用量

非吸水性下地 (スチール・プラスチック・ビニル 床タイル等)	40～60g/㎡
吸水性下地 (乾燥したモルタル・合板等)	60～100g/㎡

- 3 室温15℃以下ではタイル間に名刺1枚分(0.2mm程度)の隙間を空けてゆるめに施工してください。

- 詰めすぎて施工すると、後日、突上げが発生することがあります。

タイルカーペット用アンダーレイシートの施工

(アンダーレイシート・NS アンダーレイシートの施工方法は P.30 をご参照ください。)

施工上の特性

- ◎タイルカーペット用アンダーレイシートは歩行感を向上させるタイルカーペット専用の下地材です。
- ◎ビニル床タイル・ビニル床シート・ファブテックタイル 耐湿クッションバックিং・プライムクラス・ソフトバックプラス・テキスタイルフロア7000 涼織は上材として使用できません。
- ◎タイルカーペット用アンダーレイシートは階下への音の伝わりを低減します。
- ◎タイルカーペット用アンダーレイシートはクッション性がありますので、タイルカーペットの目地に負荷がかかると、タイルカーペットの突上げが生じる場合があります。施工環境・使用条件を考慮した上でご使用してください。

タイルカーペット用アンダーレイシート

■規格

全厚 4mm・6mm

寸法 950mm×20m

梱包 20m／巻（出荷は巻単位となります。）

工法

工法名	下地	接着剤
一般工法	乾燥したモルタル・コンクリート下地	エコAR600
耐湿工法	湿気のおそれのある モルタル・コンクリート下地	USセメント・ US300S

施工手順

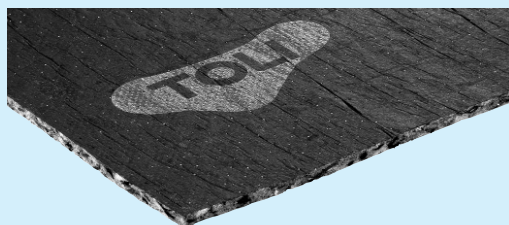
タイルカーペット用アンダーレイシートの施工

施工の基本的な流れはアンダーレイシート・NS アンダーレイシートと同じです。P.30 をご参照ください。

- 1) シートを割付けに基づいて若干長め（約10cm）に粗切りします。タイルカーペットの目地とタイルカーペット用アンダーレイシートの目地が重ならないよう割付けてください。

タイルカーペット用アンダーレイシート

- 東リマークの印刷されている面が表面（仕上げ材側）として施工してください。



- 2) 指定接着剤を塗布し、適正な待ち時間を取ってからタイルカーペット用アンダーレイシートを突付けて貼ります。壁際等の周囲はパーキリ等で切込みます。
- 3) ローラー掛けを行い、充分にエア抜きしてください。

タイルカーペット（仕上げ材）の施工

- 1) タイルカーペット用アンダーレイシートの施工後、24時間以上養生してからタイルカーペットを施工します。
- 2) タイルカーペットは指定接着剤「エコGAセメント」を用い、通常の施工方法で施工します。

FF 用アンダーレイシートの施工

※東リファブリックフロア専用アンダーレイシートです。（テキスタイルフロア7000 涼織を除く）

■規格

全厚 6mm

寸法 950mm×10m

梱包 10m／巻（出荷は巻単位となります。）

FF 用アンダーレイシートの施工方法および工法はタイルカーペット用アンダーレイシートと同様です。タイルカーペット用アンダーレイシートの記載内容をご参照ください。

FF 用アンダーレイシートの施工後、24時間以上養生してから東リファブリックフロアを施工してください。

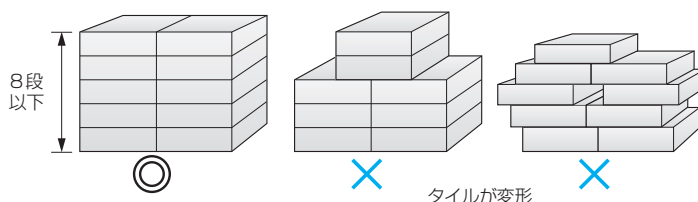
ファブテックタイルの施工

施工上の特性

- ◎表面材を構成している塩ビ材には芯材が使用されています。目地部で芯材が出ている場合には、引っ張らずにはさみ等で除去してください。
- ◎ファブテックタイルの目地に負荷がかかると、目地部の芯材が出たり、突上げが生じる場合があります。施工環境・使用条件を考慮した上でご使用ください。
※タイルカーペット用アンダーレイシートの上にファブテックタイルを施工すると、より上記の現象が発現しやすくなるため、施工できません。
- ◎ファブテックタイルよりも全厚の薄い製品を貼り合わせる際は、必ず段差調整材などを使用してください。
- ◎製品の特性上、端部が硬くなっているため、軍手を着用するなど取扱いには充分注意してください。
- ◎重量物を落下させたり、引きずった場合、表面が傷付く場合があります。
- ◎施工後、台車の往来や家具の移動によって過度の応力がかかると、タイルが剥がれることがあります。重量物を往来させる際には合板などで保護してください。
- ◎床暖房には対応しておりません。ご注意ください。
- ◎ワックスは使用しないでください。

運搬・保管上のご注意

- 製品は梱包をとかずに、平坦な場所にすらすら積載して保管し、積載は8段までを限度とします。積み過ぎや雨水などによる水濡れは避けてください。変形・変退色・変質・汚染・損傷の原因となります。
- 段ボールからの取出し時に製品が滑り出ることがあるため、充分ご注意願います。



ピールアップ工法の場合

ファブテックタイルのピールアップ工法はタイルカーペットとほぼ同様です。
P.50 を合わせてご参照ください。

- 1) ピールアップ形接着剤「エコGAセメント」を塗布します。
- 2) 接着剤「エコGAセメント」が半透明になってから、基準線に沿ってファブテックタイルを敷込みます。
 - 裏面の矢印等を確認しながら、指定された貼り方で敷込みます。
 - 階段部分は流し貼りを標準とします。
 - 壁ざわなど、切込みが必要な部分を切込みます。
- 3) 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、必要に応じて養生シートで養生します。

一般工法、耐湿工法の場合

ファブテックタイルの一般工法、耐湿工法はビニル床タイルとほぼ同様です。
P.4 を合わせてご参照ください。

- 1) 基準線で仕切られた1/4面に、接着剤を塗布していきます。
※一般工法時は「エコAR600」、耐湿工法時は「USセメント」「東リ低臭USセメント」「US200」「エポグレー ST」で施工してください。
- 2) 所定の待ち時間を取り、目地ズレのないように、圧着しながら中心より壁に向けて貼り広げていきます。
- 3) 貼付け後30分以内にTローラー（タイルローラー）や3本ローラー（45kgローラー）などで十分に圧着します。
- 4) 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで養生期間をとります。（溶剤形および反応形接着剤：48時間、ラテックス形・エマルジョン形：7日以上）

ロールカーペット / フェルトグリッパー工法

フェルトグリッパー工法はロールカーペットの施工で最も一般的な工法です。アンダーレイにフェルトを用い、敷込む場所の周囲や壁ぎわにグリッパーを打ちつけ、グリッパーのピンに引き伸ばされたロールカーペットを引っ掛け固定させる方法です。

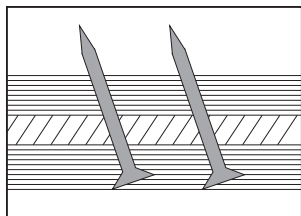
施工上の特性

ウルトンカーペットやタフトドカーペットは、施工後に地組織や基布などの繊維が使用中に伸びる（0.5%～1.5%）ことがあります。十分に伸ばしてからグリッパーのピンに引っ掛けてください。

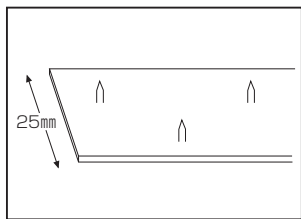
◎グリッパー（ロールカーペットを固定させる部材）

標準的なグリッパーは、幅 23mm、長さ 1,200mm、厚み 7mm にカットした合板にロールカーペットを固定させるピンが下から貫いているものを言います。

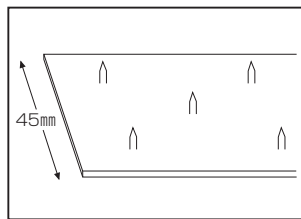
●グリッパー断面図



●面積が大きい場所には幅の広いグリッパーを使用します。

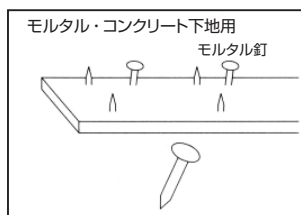


グリッパー (25mm幅)



グリッパー (45mm幅)

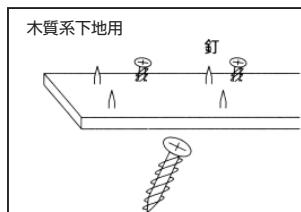
●釘は、施工する床下地によって下記のいずれかを選びます。



モルタル・コンクリート下地用
モルタル釘

モルタル・コンクリート下地用

●モルタル・コンクリート用釘が打ちつけてあるもの。



木質系下地用
釘

木質系下地用

●普通釘が打ちつけてあるもの。

◎グリッパーとカーペットの関係

厚みのあるカーペットには、ピンの長いグリッパーを使用します。

◎グリッパーと下地の関係

1) 木質系下地の場合

●木質系下地用を使用します。

2) モルタル・コンクリート下地の場合

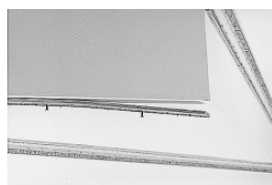
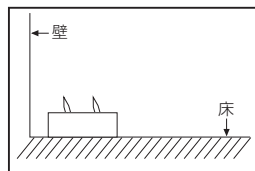
●古い建物でモルタルが割れてグリッパーが取付けできない場合は接着剤を併用して施工します。接着剤は反応形接着剤を使用します。

3) 鋼板下地の場合

- 釘なしグリッパーを使用するか、釘を抜いて使用します。
- 溶剤形または反応形接着剤をグリッパーの裏面・下地との両面に塗布します。所定の待ち時間の経過後、グリッパーを所定の位置に置き、十分に圧着してください。
- グリッパーのなじみが悪い場合は、20cm程度に切って接着してください。
- 乾燥固化するまで48時間以上放置し、固定していることを確認してから伸ばし作業を行います。

！ 注意

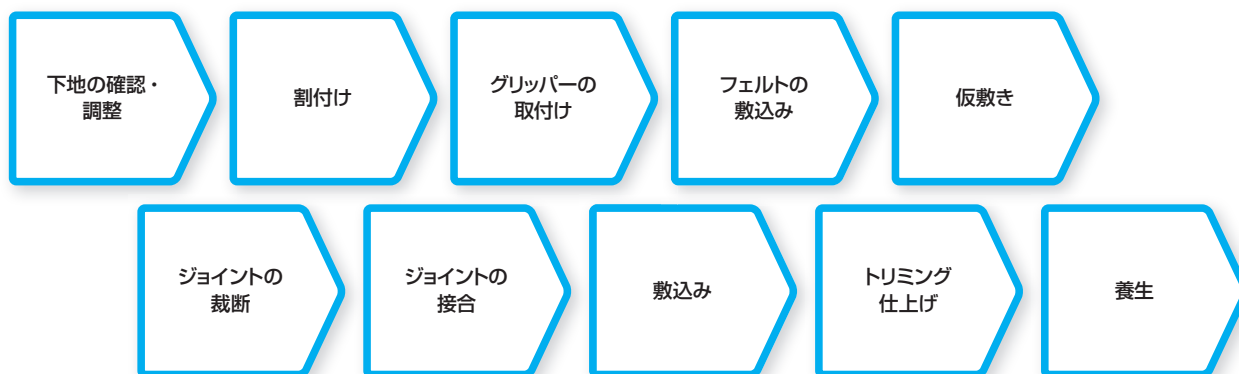
- グリッパーのピン先は必ず壁の方向に向けてください。
- グリッパーのピンをつぶさないように注意して、釘が木部に沈むまで十分に打ちこみます。
- グリッパーのサイズが小さい場合も補助釘で2ヶ所以上仮止めしてください。
- 床暖房や床下配管など、釘の打つ位置に気をつけてください。
- グリッパーが反っている場合は短い釘を補助釘として使用し、固定してください。



運搬・保管上のご注意

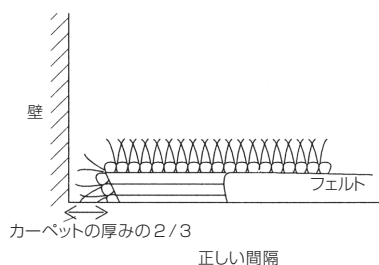
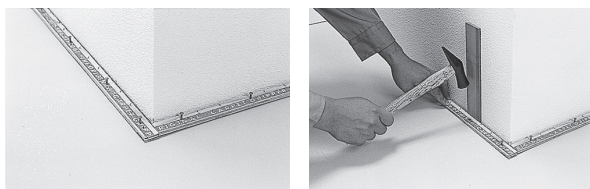
- 運搬途上で製品を折らないように注意してください。折れじわが残ったり、施工後の伸びの原因となります。
- 製品は梱包をとらずに、平坦な場所に寝かせて保管し、上にものを載せないでください。また、依頼みや、雨水などによる水濡れは避けてください。変形・変質・変退色・汚染・ゆるみやパイルのへたりの原因となります。

施工手順



- ① 貼り方向・取り合わせを検討し割付けします。
(P.2 参照)

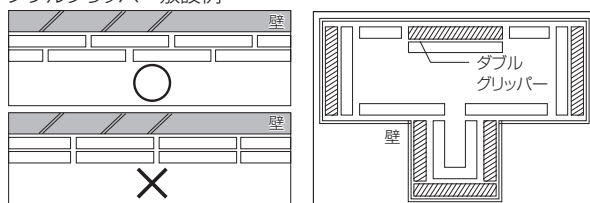
- ② グリッパーを取付けます。



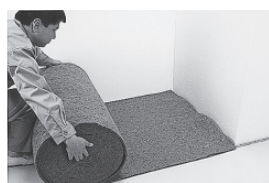
グリッパーのピンが壁に向く(グリッパーの文字が読める)状態で部屋の周囲に打ちます。グリッパーと壁面との間隔は使用するカーペットの厚みの $\frac{2}{3}$ 程度あけます。

歩行量が多いところやたるみが発生しやすいところにはグリッパーを2重に敷設するダブルグリッパーとします(または、広幅(45mm幅)のグリッパーを使用します)。

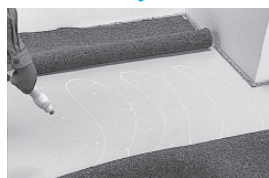
ダブルグリッパー敷設例



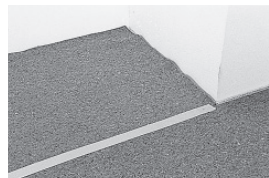
- ③ フェルトを敷込みます。フェルトはグリッパーに密着させて敷込み、必要に応じて接着剤、ステープルハンマーなどで下地に固定します。フェルトは切込まず、真物でついでいきます。カーペットのジョイントとフェルトのジョイントは重ならないようにしてください。



フェルトの敷込み。



基本はカーペットの流し方向と平行にフェルトを敷込みます。フェルトが動かないように天然ゴムラテックス接着剤で下地と固定します。



大面積の場合は、フェルトがずれないようにクラフトテープで継ぎ目部分を貼ると施工しやすくなります。



壁際のグリッパーに突付けて、きっちりとフェルトを納めます。

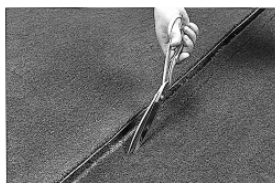


4 ロールカーペットを仮敷きします。



- パイルの方向を確認して、流れ方向を合わせます。
- 柄物の場合、柄リピートを確認し、誤差が生じていた場合には、柄合わせしやすいように並べかえます。

5 パイルに沿って目通しを行い、ループパイルカッターやはさみなどで裁断します。



上の刃を上げずに下の刃でカットします。
脱線させないように注意深く切ります。

！ 注意

裁断面のパイルがほつれないように、裁断後に天然ゴムラテックス接着剤などでほつれ留めを行います。

6 壁回りの余剰分を除いてカットします。



7 ジョイントをシーミングテープで接合します。



引き伸ばし作業後、ジョイントの真下にテープの中央がくるようにシーミングテープをいれます。



ハンマーの柄などでならしながら、表面が均一になるようにシームします。
アイロンは1m/分程度のスピードで進めます。カーペットのジョイントに乗らないように注意してください。
細かい調整には千枚通しを使用すると便利です。

！ 注意

- 幅継ぎは、あらかじめジョイントの両端をきつめに引っ張って壁際のグリッパーのピンに引っ掛けます。ニーキッカーでしわ伸ばし程度に丈方向に軽く引っ張ってグリッパーに掛けてから接合作業にかかります。
- カーペットは裏巻きで、広げた時に端（耳）部分がはね上がっています。あらかじめ反りぐせのあるところは平滑になるよう手で曲げておきます。特に冬期の施工は癖がきついので注意してください。
- ジュートバックと合繊二次基布とではアイロンの温度が異なります。合繊二次基布は高温に弱いため注意してください。

8 ニーキッカーやストレッチャーで、カーペットを十分に伸ばしながら敷込みます。

- カーペットはコシがなく伸びやすいため、十分に伸ばしてください。特に多人数が歩行するコントラクト現場では注意が必要です。



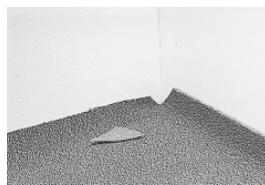
※以下の工具でカーペットを伸ばします。
施工環境に合わせて選択してください。

- ・ニーキッカー
- ・パワーストレッチャー（大面積に使用）
- ・ツインストレッチャー（超大面積：ホテルのロビーや宴会場など）

- 台車の移動があるなど、膨れが発生しやすいと予測される場所にはパワーストレッチャーで十分に引っ張ってください。

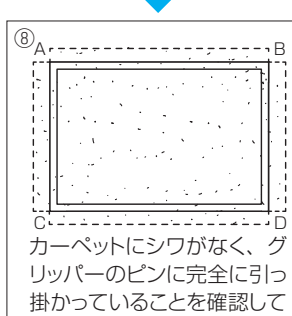
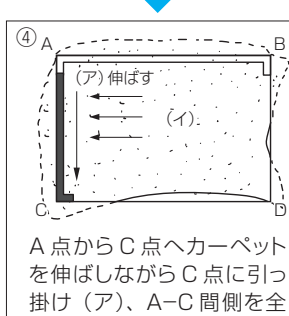
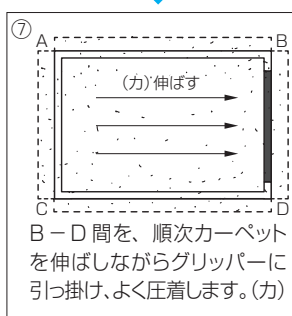
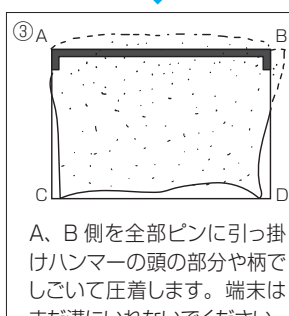
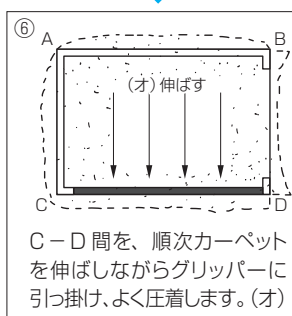
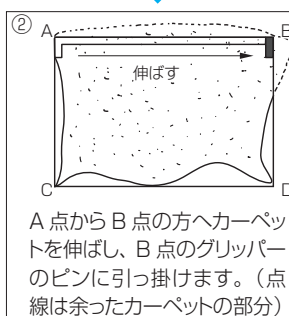
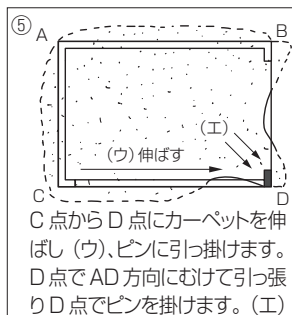
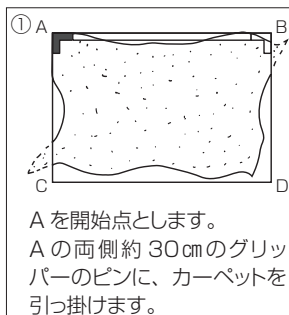
！ 注意

- 出隅、入隅部分はカットした上で伸ばします。



部屋の敷込み方法

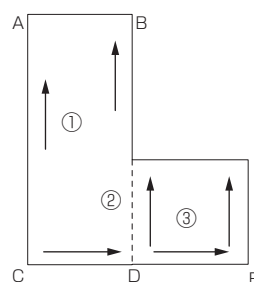
【四角の部屋の場合】



！ 注意

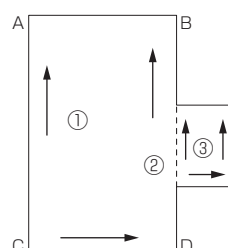
- 余ったカーペットを切取る前に、以下を確認してください。
- 接合部分の継ぎ目はまっすぐか。
 - 柄物の場合は柄と柄が合っているか。
 - 柄の通りは、まっすぐ通っているか。
 - カーペットは十分に伸びきってグリッパのピンに完全に引っ掛かっているか。

【L字型の部屋の場合】



- ① L字型の大きい長方形の部分、前述の四角の部屋と同様の方法で敷込みます。
- ②最後の B-D 間の部分の継ぎ目をシームで接合します。
- ③接合部分を基準として、もう片方の長方形の部分、四角の部屋の場合と同様に敷込みます。

【T字型の部屋の場合】



- ① T字型の大きい方の長方形の部分、前述の四角の部屋と同様の方法で敷込んでいきます。
- ②最後の B-D 間の部分の継ぎ目をシームで接合します。
- ③接合部分を基準として、もう片方の長方形の部分、四角の部屋の場合と同様に敷込みます。

9 壁際と四隅のカーペットを裁断して仕上げます。

壁際はカーペットトリマーで裁断します。トリマーの使えない四隅はカッターで仕上げます。



グリッパと壁際の隙間がない時は、ステアツールを使って打ち込みます。写真のようにカーペットの端部をトリマーの爪ガイドで納めます。

！ 注意

- 下地がコンクリートの場合、力まかせにステアツールを使うとグリッパがゆるむことがあるのでご注意ください。
- 掃出し窓や出入口など歩行するところは、グリッパの頭をハンマーでつぶしておきます。
- グリッパからカーペットをははずす時は、パイル抜けを防ぐためニーキッカーでゆるめてからはずします。
- シーム作業後は完全に冷えてから次の作業にかかります。熱が残っているとシームがはずれるのでご注意ください。

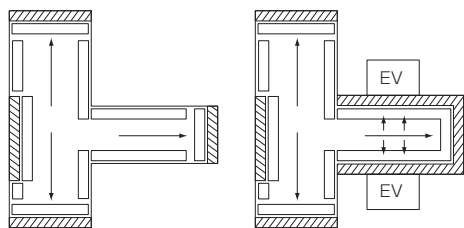
10 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、養生します。必要に応じて養生シートで養生します。

ロールカーペット / フェルトグリッパー工法 / 廊下

施工手順

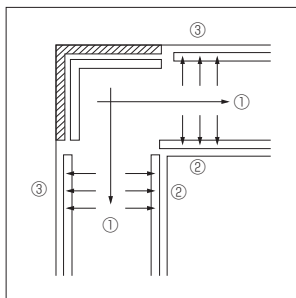
- 1 貼り方向・取り合わせを検討し、割付けます。
(P.2 参照)
- 2 歩行量が多い場所、張力がかかりたるみの発生しやすい場所には、グリッパーを2重に敷設し、ダブルグリッパーとします(または、広幅(45mm幅)のグリッパーを使用します)。

ダブルグリッパー敷設例

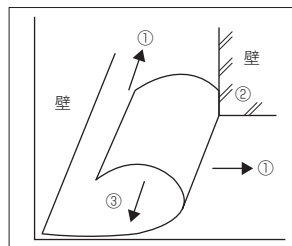


- 3 フェルトを敷込みます。
- 4 L字廊下、T字廊下では曲がり部分を接合してから敷込む方法と、片方を敷込んでから接合する方法があります。

[L字型廊下の場合]



- 入隅部分(左上)はダブルグリッパーとします。
- カーペットを入隅部分(左上)のグリッパーに完全に引っ掛け固定し、まず①の方向に伸ばします。
- 次に出隅部分②をグリッパーに引っ掛けます。その後、③の部分をグリッパーに引っ掛けます。

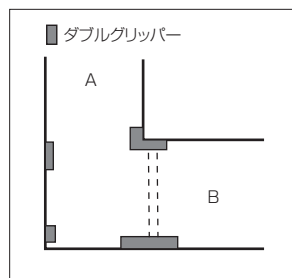


- 廊下の曲り角部分は、歩行、台車の往来などによりねじれが加わるため、特に①、②、③の方向に強く伸ばしてください。ただし、②を伸ばしすぎると、出隅部分にしわ、膨れが発生するのでご注意ください。
- ②→③の順に伸ばします。逆にすると出隅でしわや膨れが発生するおそれがあります。③の外側方向に強く伸ばしてください。

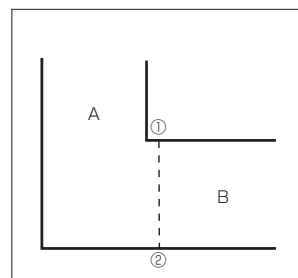
! 注意

- L字の曲がり部分は③の外側に強く伸びます。粗切りの際、角を余分に取っておきます。

[片方を敷込み接合する場合]



Aの部分をトリミング仕上げる手前まで敷込みます。ダブルグリッパーを図のように入れます。



①-②の接合部分を軽く引っ張って接合し、B部分を敷込みます。

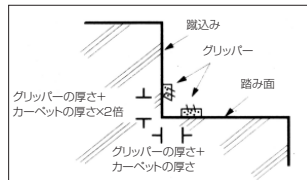
ロールカーペット / フェルトグリッパー工法 / 階段

施工手順

- ① グリッパーを踏み面と蹴込みの2ヶ所に取付けます。
上階から一段下りたところから要尺を計算します。

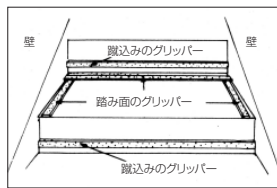
踏み面：

蹴込みから、グリッパーの厚さ+カーペットの厚さ程度離れた位置に取付けます。



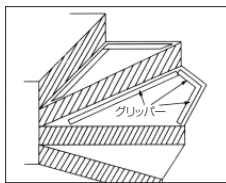
蹴込み：

グリッパーの厚さ+カーペットの厚さ×2倍程度上がった位置に取付けます。

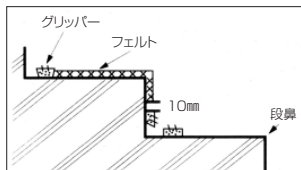


ピンの方は、踏み面と蹴込みの角に互いに向き合っている状態にします。階段の幅が広い(1m以上)場合や踏み面の広い階段、また使用頻度の高い階段では踏み面の左右にもグリッパーを取付けます。また、このグリッパーは、踏み面の角より20mm程度短くします。蹴込みの左右の立上りは必要ありません。

住居用の直進階段では、階段幅が狭いので踏み面の左右の取付けは不要です。織物カーペットは両端のほつれ止めをします。折れ階段の踏み面には、図のようにグリッパーを取付けます。



- ② 上段から敷込みます。蹴込み部のフェルトはグリッパーより少し(5mm~10mm)控えます。



- 清掃してグリッパーの切断くずを除去します。
- 標準的な階段では、踏み面の奥の部分に取付けたグリッパーから下に向かって、下段の蹴込みより立ち上がり(次の段の蹴込み)部分に取付けたグリッパーの上部まで敷込みます。
- フェルトは動かないように、踏み面に接着剤や釘などで固定します。また必要に応じて立ち上がり部分も接着剤や釘などで仮止めします。変形階段には有効です。

- ③ パイルの方向が階段の幅に対して平行になるように、カーペットを敷込みます。



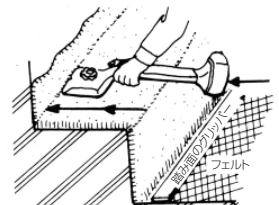
！ 注意

- 1つの階段では、パイル(毛並)の方向は、同じ方向に統一してください。

施工のポイント

- ① 階段の幅、長さに合わせてカーペットがゆがまないように裁断します。

- ② 階段上部の蹴込みと踏み面の奥(入隅部分)にグリッパーを取付け、カーペットを引っ掛けます。



- ③ カーペットを下方にゆがまないように伸ばしながら、次の段の蹴込みと踏み面の奥(入隅部分)をステアツールやハンマーの柄などを使って、中心部分より左右に順々に階段になじませます。幅に対してのしわを作らないように注意して、グリッパーのピンに引っ掛け、順次この作業を繰り返してください。

- 住居用の階段では、この作業終了後すぐに、ステアツールとハンマーを使ってグリッパー溝に押込んで、充分に引き伸ばされてグリッパーのピンにカーペットの基布は突き刺さりします。

- ④ ステアツールを使って、蹴込みと踏み面の入隅部分のグリッパー溝にカーペットをきっちり押込みます。この時、踏み面、蹴込みの中間(45度位)の角度で押しこむときれいに納まります。



- ⑤ 左右にグリッパーがある場合は、ニーキッカーを使って、幅方向に引き伸ばして納めます。

- ⑥ この要領で③-④を繰り返して、順次上から下に向かってカーペットを引き伸ばしながら作業を進めます。

！ 注意

- グリッパーのピンは、充分にカーペットに突き刺し、溝幅は正確にとってください。

ロールカーペット / 全面接着工法

全面接着工法は、床下地とカーペットの間にフェルトを使用せず、床全面に接着剤を塗布して貼付ける方法で、大面積や通行量の多い場所にはこの方法が適しています。

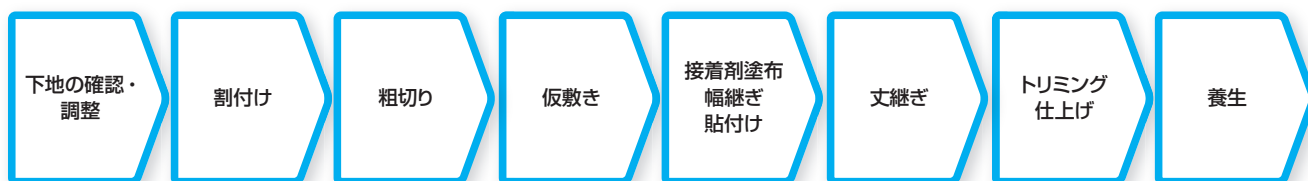
施工上の特性

- ◎ロールカーペットの全面接着工法では、エコAR600を使用します。
- ◎全面接着なのでたるみが出にくく、後伸びがないため、カーペットを伸ばす必要がありません。
- ◎移動観覧席など重量物が通る場所の施工は、負荷が大きく基布との間で層間剥離することがあります。東り営業所までご相談ください。

運搬・保管上のご注意

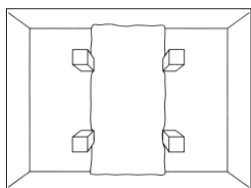
- 運搬途中で製品を折らないように注意してください。施工後折れじわが残り、施工後の伸びの原因となります。
- 製品は梱包をとらずに、平坦な場所に寝かせて保管し、上にものを載せないでください。
依積みや、雨水などによる水濡れは避けてください。変形・変質・変退色・汚染・ゆるみや、パイルのへたりの原因となります。

施工手順



- ① 貼り方向・取り合わせを検討し、割付けます。
割付け寸法より少し大きめにカーペットを粗切りします。

！ 注意



- 列柱などがある場合には、柱に継ぎ目をもってきます。
- 場合によっては、墨打ちが必要です。

- ② 一度に全部のカーペットを広げると汚れが付きやすいので、2～3枚ずつ広げて仮敷きします。

- ③ 接合部分の処理。

両方のカーペットの耳を2～3cm目通し裁断します。両方のカーペットがぴったり合わない場合には、隙間のないようにし、余っている部分は重ね気味にします。重なった部分は、ジョイントから遠ざけるようにニールキッカーを使用します。



！ 注意

床暖房の埋め込み、その他の事情によって床に釘で仮止めできない場合には、接着剤の缶や道具箱を仮釘の代わりに置き、カーペットがずれないようにしてから裏返しにします。

- ④ 仮止め

接合部（継ぎ目部）を少し強めに突き合わせ、カーペットが動かないように、カーペットの長さ方向のほぼ中央部分に、80～100cm間隔で一列に釘で下地に仮止めします。

5 接着剤を塗布し、貼付けます。

●幅折り返し（観音開き）

接合部分を中心にしてカーペットを左右に仮止めしたところまで裏返し、半分ずつ接着剤を塗布します。



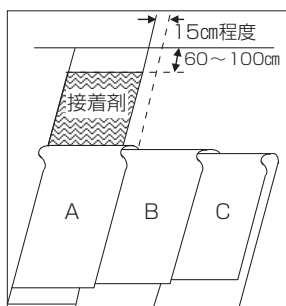
指触乾燥確認方法。

塗布した接着剤に軽く指で触れて、多少ねばつく程度になってから貼付けます。



●長手折り返し

別法として、長手方向折り返し方法があります。カーペットを長手方向に折り返し、カーペットの両端が納まる壁際から60～100cm及び次のカーペットと重なる耳部も15cm程あけて接着剤を塗布します。左右に裏返ししない長手方向折り返し方法は、ニードルパンチカーペットに適しています。



6 丈継ぎをする場合は、片目通しが基本です。

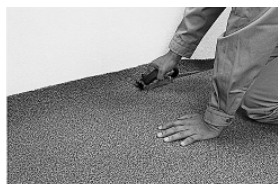
丈継ぎは、ほつれが出やすいなど強度に劣りますので、丈継ぎが出ないように割付けます。やむなく丈継ぎをする場合は片目通しを行います。

7 ニーキッカーでならしながら接合部（継ぎ目部）を合わせます。

ニーキッカーによって生じたしわは、カーペットの紙管などで継ぎ目から遠ざけるように下地に圧着して伸ばします。



8 壁、柱回りのトリミングは、トリマーやパーキリなどでカットして納めます。



9 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで48時間以上養生期間をとります。必要に応じて養生シートで養生します。

✓ チェックポイント

◎織カーペットの場合

継目部分に接着剤を塗布し、ほつれ止めを行います。

①先に貼ったカーペットの上に次のカーペットを重ね、重なり部分をニーキッカーで継ぎ目から遠ざけるように押しやり、カーペットの戻る力によって突付けとします。

②継ぎ目からパイルがほつれないように、必ず接着剤を継ぎ目の基布に塗布し、基布が重ならないように突き合わせます。

◎ニードルパンチカーペットの場合

糊入れ後カッターで重ね切り。

もしくはクッションバックカッターで合わせ切りします。

ロールカーペット / 置敷き工法

施工上の特性

◎ロールカーペットを床に置くだけで、床とカーペットを固定しない方法。下地を傷付けたくない場合に用います。カーペットの端末の周囲を3～5cm折り込み、部屋の形に合わせて敷詰めます。

◎アキスミンスターカーペットや、目付けの多いカーペットには適しません。

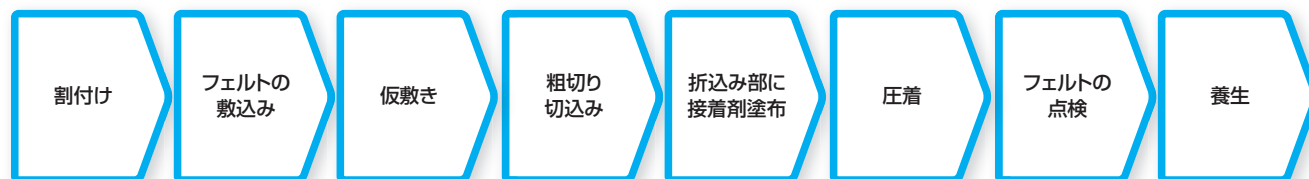
◎端部加工のご注意

- 端部加工を施し、置敷きした場合、フレア（波打ち）が発生することがあります。ご了承下さい。
- 端部加工を施し、置敷きした場合、伸縮することがあります。敷詰めをご検討の際には、壁際きっちりには納まらないことをご了承下さい。
- 無地のカーペット以外は、端部加工した場合に、特に横方向の辺と柄のラインが平行にならないことや辺の途中でラインが途切れたりすることがあります。ご了承下さい。

運搬・保管上のご注意

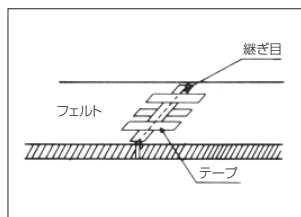
- 運搬上で製品を折らないように注意します。折れじわが残ったり、施工後の伸びの原因となります。
- 製品は梱包をとかずに、平坦な場所に寝かせて保管し、上にものを載せないでください。依積みや、雨水などによる水濡れは避けてください。変形・変質・変退色・汚染・ゆるみやパイルのへたりの原因となります。

施工手順

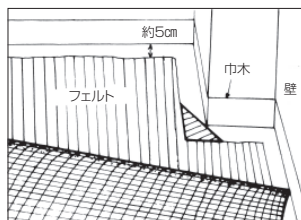


① 貼り方向・取り合わせを検討し、割付けます。
(P.2参照)

② フェルトを周囲から5cm離して敷込みます。

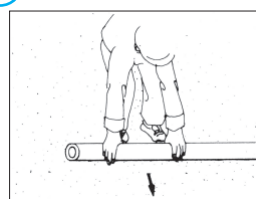


- フェルトの継ぎ目を縫糸で仕上げ止めるか、クラフトテープで上から貼付けます。
- フェルトの丈方向の継ぎ目は、隙間がでやすいので、仕つけ止めとテープの併用、またはテープの十字掛け貼りをします。周囲の折込みしろは、約5cm壁から離してください。



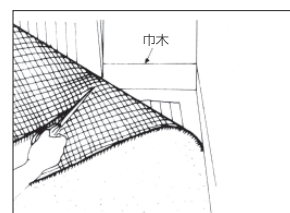
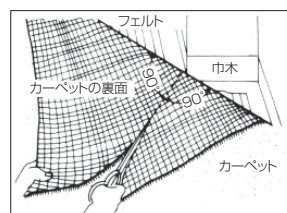
③ 仮敷きで巻きぐせを取ります。

！ 注意

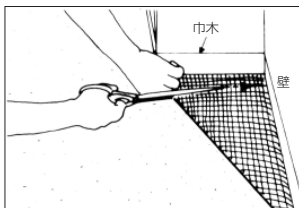


カーペットはニーキッカーで伸ばします。図のようにカーペットの巻芯を1m程度に切って伸ばす方法もあります。

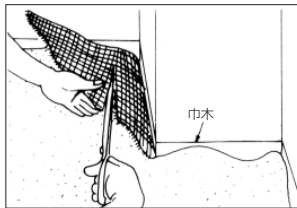
④ 粗切りし、出隅・入隅部分を切込みます。



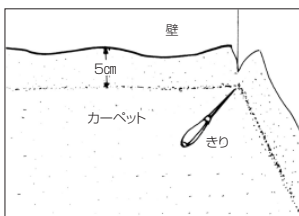
- ①カーペットを裏返して出隅 ②裁断は出隅の底面の角までの角に向かってはさみで粗 正しく切込みます。
切りします。カッターを使用 正しく切込みます。
する場合は、出隅の角から 正しく切込みます。
手前に向かって裁断します。



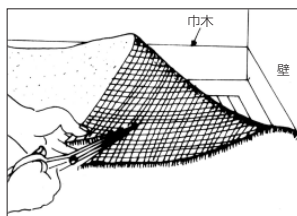
③折込みしろ（約5cm）を余分につけて、三角形の部分を切取ります。



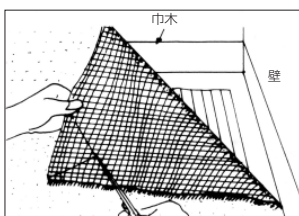
④同じく、入隅も折込みしろ（約5cm）を余分につけて、三角形を切取ります。



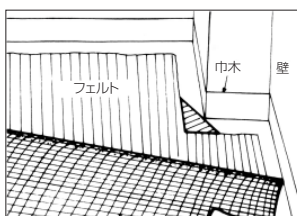
⑤入隅から先に裁断する場合は、入隅の角の位置を千枚通しか、きりでしるしを付けます。



⑥入隅部分のカーペットを裏返して、はさみで切込みます。

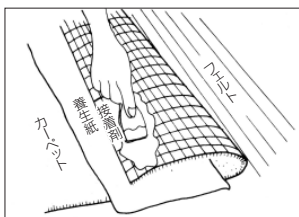


⑦入隅の角は、折込みしろが重ならないように、切取ります。



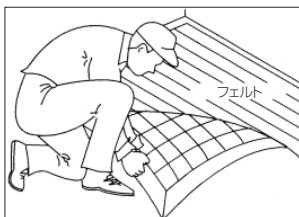
⑧出隅の角にフェルトを三角形に切って、補充します。

⑤ 折込みしろ（3～5cm）の2倍（6～10cm）の幅に天然ゴムラテックス接着剤を塗布します。

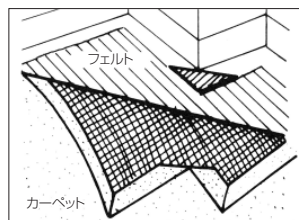


●へらまたはカーペットの小片（5cm×10cm位）で接着剤を塗布します。
裏返したカーペットの下に養生用の紙・シートなどを入れて、カーペットの表面を保護してください。

⑥ 接着剤が半透明になった後で、折込みしろを裏側に圧着します。



7 フェルトとの重なりを点検します。



チェックポイント

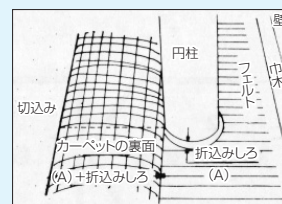
細部の施工

◎巾木回り

きりの先端で巾木を傷つけないように、注意しながらしごいて仕上げます。

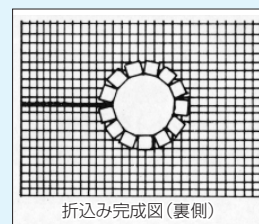
◎部屋または廊下に柱がある時

●柱回りのフェルトは折込みしろだけあけます。



●カーペットは柱の手前で壁面と平行に裏返します。
●円柱の芯に合わせて刃物でカーペットに切込みを入れます。

●カーペットを柱を抱くように広げて柱回りを刃物で、図のように鋸歯の形に切込み柱回りに沿わせします。鋸歯形の切込み間隔が広いと、次の折込み工程で柱に沿いにくく隙間ができます。



折込み完成図（裏側）

●柱回りを折込み仕立てます。

ロールカーペット / ボーダー回し (島)

施工手順

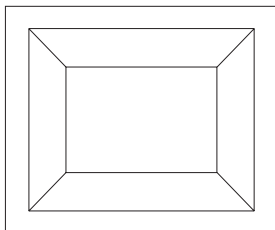
- 1 貼り方向・取り合わせを検討し、割付けます。
(P.2 参照)
- 2 グリッパーを取付け、フェルトを敷込みます。
- 3 ジョイント部分をシーミングテープまたは縫込みを行います。
 - 特にウイルトン、アキスミンスターカーペットでは、歩行量の多い場所では縫込みをするのが望ましいです。

! 注意

- ウイルトン、アキスミンスター、タフテッドなど種類の異なるロールカーペットの貼合わせは避けてください。
(同じ規格、製法で製造されたロールカーペット以外は貼り合わせるできません。)

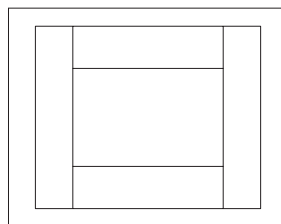
- 4 フィールド部分の周囲を囲むようにボーダー部分を納めます。

[ウイルトン、アキスミンスターカーペット]



45度の角度で「とめ」で施工します。

[タフテッドカーペット]



強度をもたせるため、縦か横の直線ジョイントで施工します。

! 注意

- 柄物のカーペットの場合、フィールド部とボーダー部の柄リピートは合いません。

半屋外対応カーペット『ハノーク カーペット』の施工

施工上の特性

- ◎水捌け用のV字溝、および段差等は、事前に下地補修材等で補修し、出来るだけ表面を平滑にします。
- ◎クラック防止の誘発目地やブロック状のコンクリートの目地に柔らかい目地材が詰められていることがありますが、セメント系の下地補修材での補修はできないので、同質の材料かウレタン系のコーキング材でレベル調整してください。ただし、後日その部分に凹みや膨れが発生する可能性があります、現行の技術では凹みや膨れを解消する方法はありません。
- ◎ハノーク カーペットに防水性能はありません。下地防水の必要な部位は事前に防水処理をしてください。
- ◎下地より湿気が継続的に上がってくるような構造の下地には施工できません。また、シンダーコンクリートや軽量コンクリートなど多量の湿気を含んでいる場合があるので、下地湿気のないことを十分に確認して施工を行ってください。
- ◎塗膜防水の場合は、目立たない場所で事前に試験貼りを行った上で接着剤を選択してください。

施工手順

施工の流れは「ロールカーペット / 全面接着工法 (P.60)」をご参照ください。

- 1 貼り方向・取り合わせを検討し、割付けます。
※ジョイントの少ない長手方向に敷込むことを基本とします。

- 2 カーペットの仮敷き。
※巻き癖やしわを十分に伸ばしてください。

- 3 接着剤の塗布・カーペットの貼付け
ウレタン系接着剤またはエポキシ系接着剤を塗布します。
※塗布量は500g/m²程度となります。

！ 注意

- カーペット貼付けの際は、ジョイント部は特に隙間の生じないようにしてください。
接合部に隙間ができたときはニーキッカーなどで柄合わせを行いながら貼付けます。

- 4 圧着
ローラー等により圧着を行います。
特に接合部は十分に圧着します。

5 端部処理

壁際の納めは跳ね上がり、膨れ、隙間がないように注意します。跳ね上がりや膨れが見られた場合は、無理に押さえ込まずカットし直します。

6 養生

接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで48時間以上養生期間をとります。
必要に応じて養生シートで養生します。

【ドレイン材（排水処理材）の使用】

室外機の排水は「NSパス蓋付」を使用しておさめます。
「NSパス蓋付」はP.43をご参照ください。

- ・下地に接着剤を塗布し、貼付けます。
- ・カーペットと「NSパス蓋付」「NSパス用ホース固定材」は突付けで施工してください。

！ 注意

- 海岸付近で使用される場合は潮風、プールサイドは塩素による影響を受けてパイルの劣化が早まる場合があります。
- 雨、雪等で製品表面が濡れている場合や、ゴミ・塵等で表面が汚れている場合、冬季に製品表面が凍結している場合は、滑りやすくなりますので、歩行は特に注意してください。
- 紫外線、水分、温度等、外部要因によりパイルの劣化が早まる場合があります。
- 駐車場やガレージ、駐輪場等では製品への負荷が大きいため使用しないでください。

4. 巾木の施工

(ソフト巾木・ロング巾木・デザイン巾木・スタイル巾木・ササラ巾木・防汚抗菌ワイド巾木・ウェーブ巾木)

施工上の特性

- ◎通常、壁面・床面の施工完了後に施工します。立面施工のため、接着剤が垂れるおそれがありますのでご注意ください。垂れると施工の妨げや床材・壁面の汚れにつながります。(立ち上がり面での垂れが少ない巾木専用の接着剤をご使用ください。)
- ◎ビニル素材のため、温度差で伸び縮みしやすくなります。
- ◎細長い形で幅があるため、床の不陸に追従しにくくなります。
- ◎指定接着剤は「巾木糊」「エコLX巾木糊」、出隅部分には「CRセメント」を使用します。出隅以外にCRセメントを使用しないでください。
- ◎スタイル巾木の指定接着剤は「巾木糊」を瞬間接着剤と併用して使用します。
- ◎「巾木糊」「CRセメント」は火気厳禁です。トーチランプの使用は避けてください。

下地材	下地処理
石膏ボード、合板、珪酸カルシウム板	ビス頭は防サビ処理し、パテ（仕上用）処理後、サンダー掛けを行って平滑に仕上げます。パテ部にはシーラー処理を行います。
モルタル下地、コンクリート下地	未乾燥の場合には、十分に乾燥させてください。粉ふきが見られる場合はシーラー処理を行ってください。
壁紙	裏打紙まできれいに剥がしきり、パテ・サンダーで平滑に仕上げ、シーラー処理を行います。
塗料下地	塗料にはアクリル・ウレタン・エポキシなど、多品種あり、接着剤との組み合わせで接着強度が出ないことがあります。基本的には施工前に塗料を除去してください。
その他	下地の種類に合わせて、適切な下地処理を行ってください。

- ※下地の不陸（凹凸）、ひび割れ等の不具合があるとその部分が製品表面に影響を及ぼすことがあります。必ず下地は平滑に仕上げてください。
- ※粉ふき下地でシーラー処理が不十分な場合、接着剤の接着強度が発現せずに巾木が浮く可能性があります。
- ※塗料下地を剥がすことが困難な場合、どこか適当な場所を選び、サンダーで軽く荒らして下地を整え、塗料と同じ樹脂系接着剤で試験的に貼付け、接着に問題がないか確認してください。問題なければ、塗料が下地から浮いている箇所を剥がして、パテ・サンダーで平滑に仕上げ、浮きが発生していない箇所の表面もサンダーで軽く粗らして処理を行い、施工してください。

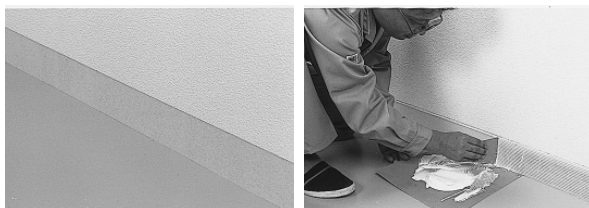
ソフト巾木・ロング巾木・デザイン巾木の施工

施工手順

- ① 下地が平滑、堅牢で、乾燥していること、床面と壁面が直角に交わり、不陸、不揃いがなく、蛇行や突起のないことを確認します。

水・油脂類および不適当な接着剤が塗布、含有されていないことを確認します。

- ② 巾木の天端位置から約5mm下げて、墨出し線を設定します。この墨出し線より下の壁紙をカットして剥がします。くしばけで巾木専用の接着剤を均一に塗布してください。



壁紙が多く残っていると、巾木の接着不良や上部に隙間が生じるおそれがあります。

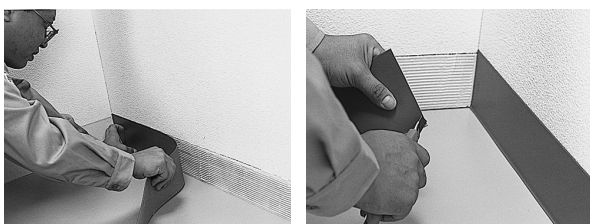


メモ

くしばけについて

くしばけは巾木の幅より5mm小さいものを用いると塗布しやすくなります。接着剤による床面と壁面の汚れに注意しながら、くし目を立てて塗布してください。

- ③ 巾木の貼り出しは入隅部分からが基本です。床の不陸になじませながら貼付けていきます。



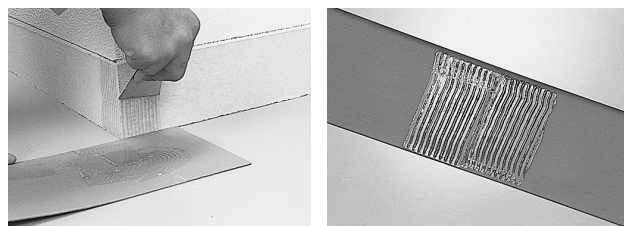
切込みが必要な時は、あらかじめ必要な寸法にカットしておき、入隅から貼り始めます。

入隅の「袴」部分はコーナーの角度に応じて重なる部分をカットして取除きます。



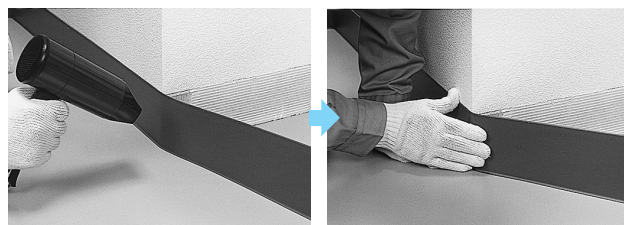
入隅部の貼付け後、次の巾木を順々に突付けて、床の不陸になじませながら、充分圧着して貼付けます。ケース単位で順々にカット面を突き合わせるように貼ります。巾木と床面に隙間ができるようなら、ドライヤーなどで巾木を温めてなじませてください。

- ④ 出隅の施工は、温めながらゴム系溶剤形接着剤（CRセメント）を使用します。

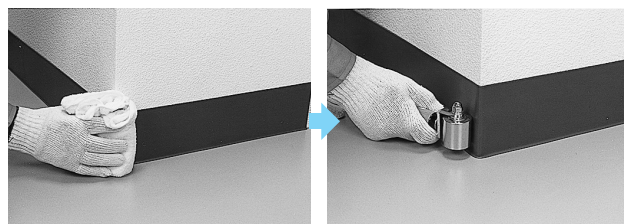


① 出隅部および出隅部にくる巾木の両面に5cm程ゴム系溶剤形接着剤（CRセメント）を塗布します。

※巾木が角に当たる部分の裏面に深さ1mm程度の溝を削り取っておくと折り曲げやすくなります。



② 巾木をドライヤーなどで温めながら貼付けます。



③ 貼付け後はすぐに濡れタオル（雑巾）で冷やします。

④ ハンドローラーで圧着してください。



注意

- ゴム系溶剤形接着剤（CRセメント）を全面に使用すると後日縮むおそれがあります。出隅部での使用はできるだけ小面積にしてください。

⑤ 仕上げ

巾木表面に付着した接着剤は硬化する前に取除いてください。



硬化した接着剤は鋭利な刃物で大方を削り取り、残りを水またはアルコールで軽くぬぐうようにして取除きます。

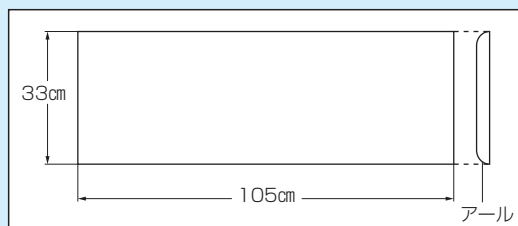
- ⑥ 接着剤などによる汚れや剥がれ、浮き、隙間がないかを確認します。

ササラ巾木の施工

施工手順

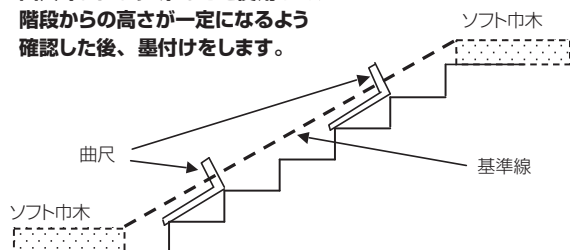
◎「ササラ巾木」の施工は、他の床材工事より先に行う必要があります。
(ノンスリップ金具の取付け、蹴込み・踏面の床材施工は、後で行うことが好ましい。)

◎ササラ巾木は105cm×33cmで上下の耳部にアール（丸味）がついています。このアールのあるふちを巾木の上端とします。

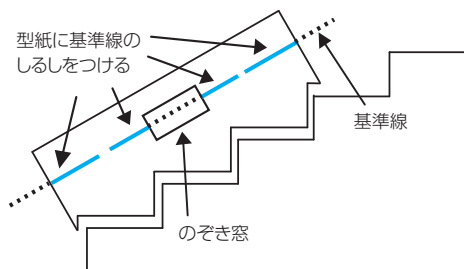


- 1 「ササラ巾木」の後で施工されるソフト巾木との取り合いを見ながら、ササラ巾木の貼り上がり上端線を基準線として墨付けします。

※曲尺（かねじゃく）などを使用して、階段からの高さが一定になるよう確認した後、墨付けをします。



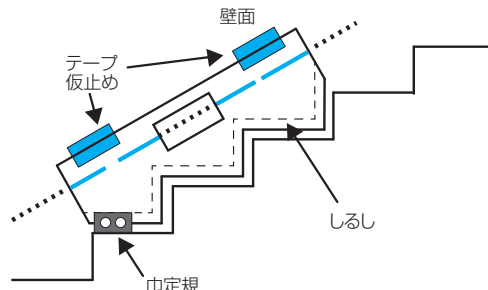
- 2 壁面に墨付けした基準線が隠れる大きさのベニヤ板またはダンボール紙で階段実寸より15mm程度小さい型板を作ります。



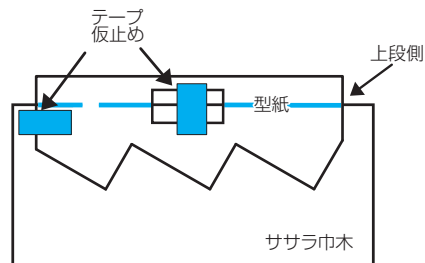
型板を階段に当て、壁面の書かれた基準線の通過位置を型板にしるします。型板の長さは1m程度。

- 3 階段線を型板にしるします。

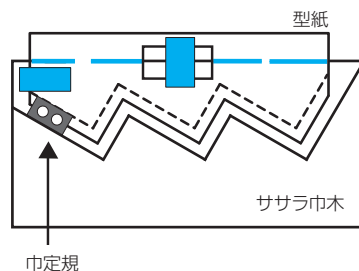
型板の基準線を下地の基準線に沿わせて、型板を壁面にテープで仮止めし小さな巾定規またははげき棒を使って型板に階段線のしるしを付けていきます。



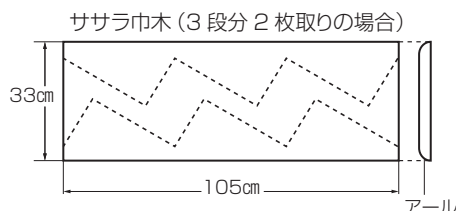
- 4 しるされた型板をササラ巾木の上段側、端のアール線に基準線を合わせてズレないように仮止めます。



- 5 次に、しるしを付けた時に使った巾定規またははげき棒を型板のしるしに沿わせて階段線を巾木側に書き、その線に沿って切込んでください。



- 6 以後の階段も同様の方法で行います。通常の階段なら1枚のササラ巾木から2枚(6段分)とれます。



メモ

- 型板をとる方法以外に、ササラ定規を用いることもできます。

防汚抗菌ワイド巾木の施工

施工手順

① 割付け（墨付け）

「仕上がり高さ（巾木の上端位置）」から5mm程度下に接着剤の基準線を入れます。

※Rナシタイプは床材を施工する前に施工します。（先付け施工）

※ 巻き癖や温度変化による伸縮を防ぐため、あらかじめ現場に仮敷きし、環境になじませてください。

② 接着剤の塗布・貼付け

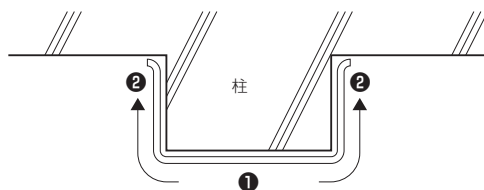
巾木糊・エコLX巾木糊を用い、入隅部分から貼っていきます。

③ 出入隅の施工

出隅の壁面および出隅部にくる防汚抗菌ワイド巾木に、5cm幅程度でCRセメントを塗布します。防汚抗菌ワイド巾木をドライヤーで温めながら貼付けます。

柱等の出隅部分は、下図のように貼り広げます。出隅の壁面、ならびに出隅部にくる防汚抗菌ワイド巾木に5cm幅程度でCRセメントを塗布します。

その後、防汚抗菌ワイド巾木をドライヤーで温めながら貼付けます。



！ 注意

- 出隅以外には CR セメントは使用しないでください。
- 巾木糊・CR セメントは火気厳禁。
トーチランプは使用しないでください。

④ 貼付け後、すぐに濡れタオル（雑巾）で冷やし、ハンドローラーでムラなく圧着します。

ウェーブ巾木の施工

施工上の特性

- ◎ウェーブ巾木は、特殊な形状のためクロスなどの貼り替えは、壁紙施工が困難となり綺麗に仕上がりにません。壁紙を貼り替える時は、ウェーブ巾木も合わせて貼り替えをお勧めします。
- ◎施工は一方から追うように貼付けることをおすすめします。壁面両端部から同時に貼り進めると波形状が合わなくなります。
- ◎丸柱の施工では、継ぎ目の波形状が繋がらないので丸柱へは施工が出来ません。
- ◎壁面に柱がある場合、壁面入隅から貼り進めると、出柱の入隅で波形状が繋がりにません。波形状が繋がるようにウェーブ巾木をカットして調整してください。
- ◎ウェーブ巾木の施工では、端に巾の狭いサイズ（100mm以下）の巾木が入らないように予め割付けをしてから施工を始めてください。
- ◎ウェーブ巾木は施工環境により裏面に貼られた両面テープの下端が表面に段差として見える場合があります。

施工手順

1 割付け（墨付け）

「床面から255mm」の位置に接着剤塗布の基準線を入れます。

※壁紙が床面近くまで貼られている場合、床面から255mmを目安に壁紙を剥がしてください。

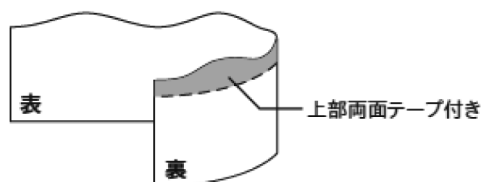
※ウェーブ巾木は上部が波状になっています。壁紙下地の場合、壁紙の剥がし過ぎに注意してください。

2 接着剤の塗布・貼付け

巾木糊・エコLX巾木糊を用い、入隅部分から貼っていきます。

貼り付けの際、ウェーブ巾木裏面の両面テープの離型紙を両端から2cm程度剥がし、上側へ折り曲げておきます。

巾木を貼付け仮圧着した後、両面テープの離型紙の残りを剥がしてください。その後、圧着道具を使い、十分に圧着してください。



3 出入隅の施工

出隅部には、CRセメントを50～100mmの巾で塗布してください。同様に、ウェーブ巾木の出隅に当たる部分にもCRセメントを塗布してください。

！ 注意

- 出隅以外にはCRセメントは使用しないでください。
- 巾木糊・CRセメントは火気厳禁。
トーチランプは使用しないでください。

4 貼付け後、すぐに濡れタオル（雑巾）で冷やし、ハンドローラーでムラなく圧着します。

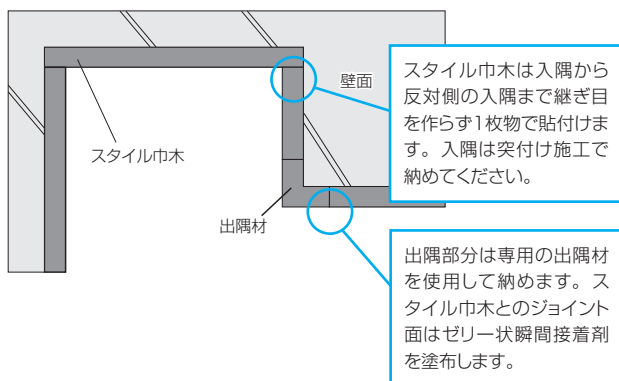
！ 注意

- ウェーブ巾木は、冬季の気温が低い時期は、少し硬くなります。出隅の施工で、トーチにて加温し施工する場合、表面が焦げないように注意して加温してください。ドライヤーでの加温をお勧めします。
- 巾木下部R部分は、軟質配合で下地不陸にもなじむ設計となっておりますが、下地不陸が大きい場合やカーペット施工後に貼り付ける場合には、継ぎ目上端部に段差が生じることがあります。少量の段差が生じた場合は、端部をカットして高さが合うように調整してください。
- ウェーブ巾木の波形状部は、専用両面テープになっています。一旦壁紙に接着すると剥がすことができません。無理に剥がすと壁紙が破損しますので、ご注意ください。

スタイル巾木の施工

施工手順

納まり図（上から見た図）

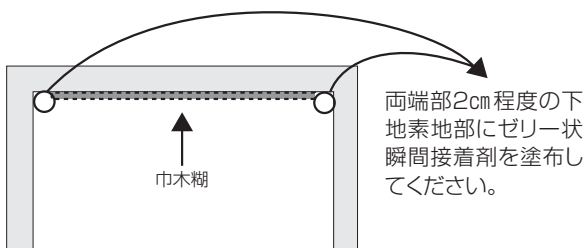


- 1 割付け（墨付け）
「仕上がり高さ（巾木の上端位置）」から3mm程度下に接着剤の塗布基準線を入れます。

！ 注意

巾木下部R部分は、軟質配合で下地不陸にもなじむ設計となっています。しかし、下地不陸が大きい場合やカーペット施工後の施工の場合には、貼出し墨をご考慮ください。R部分の仕上がりが直線にならず、見苦しくなる場合があります。

- 2 接着剤の塗布・貼付け
指定接着剤「巾木糊」を塗布し、スタイル巾木を貼付けます。



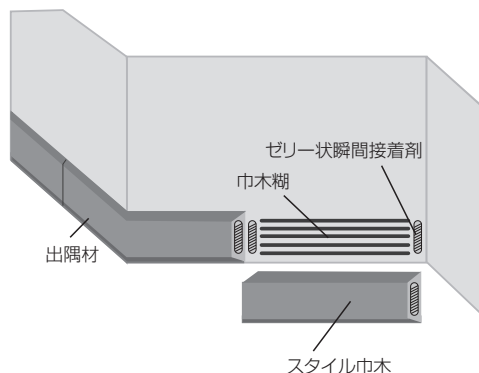
！ 注意

スタイル巾木は、厚手巻物となっていることから、冬の気温が低い時期は、強い巻き癖が出ます。施工に先立ち、逆巻きするなどした上、表面が焦げないように注意してヒーターなどで加温し、巻き癖を取りながら施工してください。

- 3 出入隅の施工

出隅材とスタイル巾木とのジョイント部の納めは、出隅材の断面および裏面にゼリー状瞬間接着剤を塗布し納めます。やむを得ずスタイル巾木を平場でジョイントする場合にも同様に施工します。

入隅部は45度カットが困難なため、突付けで納めます。



- ・入隅の2cm程度にゼリー状瞬間接着剤を塗布します。
- ・出隅の断面にゼリー状瞬間接着剤を塗布します。
- ・ゼリー状瞬間接着剤は東リアロンアルファⅢ等をお使いください。

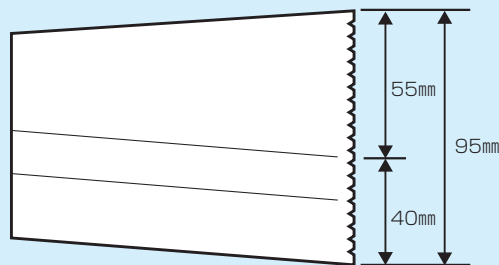
メモ

スタイル巾木をカットする場合にはモールカッターを使ってカットすると容易に直線が出ます（P.75参照）。

- 4 隙間および継ぎ目はオートンリペアカラーQ イック、またはシーリングで仕上げます。色の近いシーリング剤を使用してください。

メモ

- 巾木糊の塗布は巾木糊用のプラスチックハケを使うと便利です。



巾木糊用ハケの内側折り目でカットし、40mm巾の方を使用してください。

腰壁シートの施工

(東リ 防汚消臭腰壁シート・東リ 不燃腰壁シート・ファブテック腰壁)

施工上の特性

◎建築基準法に定められた内装制限がかかる場所への施工

東リ 防汚消臭腰壁シート・ファブテック腰壁：建築基準法に定められた内装制限を満たしていない場合（スプリンクラーが設置されていない通路など）は施工できません。必ず建物の確認を行ってください。

東リ 不燃腰壁シート：大臣不燃認定を取得しておりますが、各地域の条例や担当消防署の見解を必ず建物ごとにご確認ください。

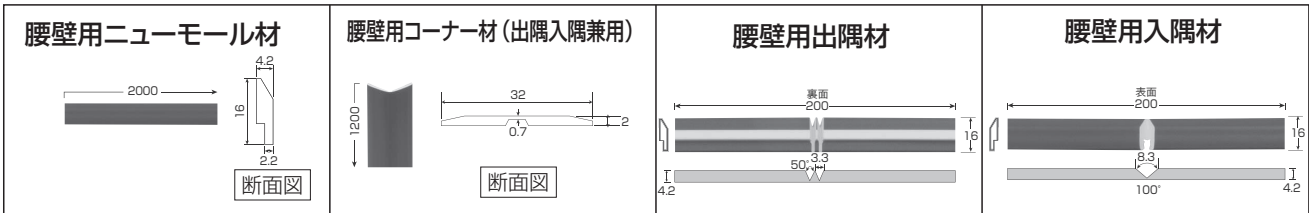
◎腰壁用ニューモール材施工の際は、水平線に合わせて正確に貼付けてください。また、仕上がりに直線性が要求されるため、充分にご注意ください。2人組みでの貼付作業をおすすめします。

◎東リ 不燃腰壁シートはコシが強くシワが発生しやすいため折り曲げないよう丁寧に扱ってください。

部材



(単位:mm)



品名	腰壁用ニューモール材	腰壁用コーナー材 (出隅入隅兼用)	腰壁用出隅材	腰壁用入隅材
厚み	4.2mm	2.0mm	4.2mm	4.2mm
寸法(幅×長さ)	16mm×2000mm	16mm×16mm ×1200mm	16mm×200mm	16mm×200mm

下地条件

下地材	下地処理
石膏ボード、合板、珪酸カルシウム板	ビス頭は防錆処理し、パテ（仕上用）処理後、サンダー掛けを行って平滑に仕上げる。パテ部にはシーラー処理を行う。
モルタル下地 コンクリート下地	未乾燥の場合には、十分に乾燥させる。 粉ふきが見られる場合はシーラー処理を行う。
壁紙	裏打紙まできれいに剥がしきり、パテ・サンダーで平滑に仕上げ、シーラー処理を行う。
ペンキ下地	下地から浮いている箇所は剥がしきり、パテ・サンダーで平滑に仕上げる。浮きの発生していない箇所も表面をサンダーで軽く荒らしてから、全面にシーラー処理を行う。
その他	下地の種類に合わせて、適切な下地処理を行う。

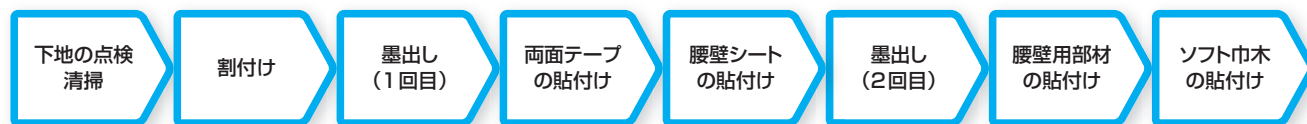
※東リ 防汚消臭腰壁シートの厚みは1.0mm、東リ 不燃腰壁シートは0.5mmと薄いため、下地の不陸（凹凸）、ひび割れ等の不具合があるとその部分が表面に出ます。必ず下地は平滑に仕上げてください。

※シーラー処理が不十分な場合、接着剤の接着強度が発現せず、腰壁シートが浮く可能性があります。部材の両面テープが貼付けられる箇所も同様です。

※油性ペン等が残っていると施工後しばらくして腰壁シート表面に浮き出てきます。必ず除去してから施工してください。

施工手順

施工の流れ



① 下地の点検、清掃

汚れやキズ、凹み等を修正してください。また、十分に乾燥していることを確認した上で、状況に合わせて適切な下地処理を行ってください。

(P.72「下地条件」欄を参照)。

② 割付け

「仕上り高さ(腰壁用ニューモール材の上端位置)」を設定し割付けます。

！ 注意

- ・ 出入口やドア周り、出隅・入隅等を考慮してください。
- ※ 腰壁シートのジョイントは平場に持ってこないよう割付けます。色の濃淡が目立つことがありますので、ジョイントはできるだけ避けてください。
- また、150mmピッチの板目柄が入っている製品もありますのでご注意ください。

- ・ 巻き癖を取るため、また、温度による収縮を防ぐために、必ず仮敷してください。

✓ チェックポイント

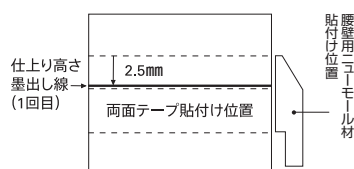
東リ 不燃腰壁シート：出隅・入隅の割付け

東リ 不燃腰壁シートは、特性上シワが発生しやすいため出隅・入隅ではシートの縁を切り、各部材で出隅・入隅部を覆い隠すように施工してください。大きなR角や鈍角コーナーでは事前にシワの具合を確認いただきシートを施工してください。

③ 墨出し(1回目)

仕上り高さより2.5mm低い位置に水平の墨出しをします。

墨出し



※ 壁紙が施工されている場合には墨出し線でカットし、裏打紙まで剥がしてください。

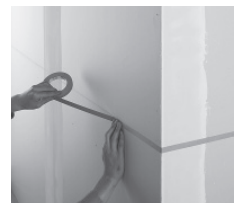
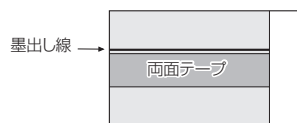
※ ファブテック腰壁の場合、巾木の貼付け高さにも水平の墨出しを行ってください。ファブテック腰壁の上にソフト巾木を貼ることはできません。

④ 捨て糊

下地と両面テープとの接着力を高めるため、両面テープを貼付ける箇所に必ず合成樹脂系接着剤(エチレン酢ビ系ボンド等)を1~2割の水で希釈したもの、またはアクリル系やウレタン系のプライマーを、ハケ等で均一に塗布します。

⑤ 両面テープ(WU-TAPE-8)の貼付け

墨出し線に沿って両面テープ(WU-TAPE-8)を貼付け、ローラーを用いて十分に圧着してください。



両面テープの貼付け

⑥ 腰壁シートの貼付け

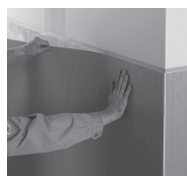
① エコAR600をくしばけでできる限り縦目に揃えながら均一に塗布します(塗布量: 約300g/m²)。塗布ムラがあると接着不良となり膨れの原因となります。なお、出隅部に貼回す場合はCRセメントを使用してください。(両面塗布)

※ ファブテック腰壁を貼付ける場合、下地にソフト巾木を貼るので、巾木の基準線に沿ってビニルマスキングを覆うことをおすすめします。

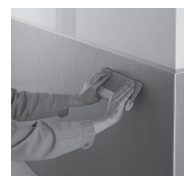
② オープンタイムを取ってください。なお、オープンタイムは気温や湿度条件により、タック発現時間が異なります。必ず指触による確認を行ってください。



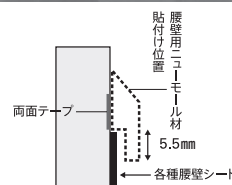
エコAR600の塗布



腰壁シートの貼付け



しごき棒で圧着(エア抜き)



③ 各種腰壁シートを両面テープ下側に突付けて貼付け(両面テープに重ならないよう注意してください)、スキージ、ローラー、しごき棒等でエア抜きと圧着を行ってください。なお、腰壁用ニューモール材の下側に5.5mmの「隠しシロ」を設けてあり、多少のラフ施工が可能です(上図参照)。入隅を地べら等で押さえ込み、パーキリ、カッターナイフ等でカットして納めてください。

④ 出隅部に腰壁シートを貼回す場合は、CRセメントを使用し(出隅から10cm程度)、ドライヤー等で加熱しながら納めてください。加熱しすぎると光沢ムラが生じますので注意してください。尚、貼回しについては、事前にシワの具合を確認するようにしてください。くし目のたったくしばけは使用しないでください。

※ 大きなR角や鈍角コーナーで東リ 不燃腰壁シートを貼回す場合は、CRセメントを使用し(出隅から10cm程度)、ドライヤー等で加熱しながら納めてください。

腰壁シートの施工（東リ 防汚消臭腰壁シート・東リ 不燃腰壁シート・ファブテック腰壁）

- ⑤やむを得ず平場でジョイントを行う場合には重ね切りします。下地を傷めないようにしてください。継目処理はスーパーシーム液を注入してください。



ジョイントの重ね切り

スーパーシーム液の注入

※接着剤やシーム液がはみ出した場合には、エタノール等を用いて素早く拭取ってください。東リ 不燃腰壁シートにつきましては、高濃度のアルコールを使用した場合、色落ちすることがありますので、事前に端材などで確認の上、ご使用ください。

※腰壁シートを表側からカットする場合、不織布層まで完全にカットせず無理に引っ張ると、不織布の毛羽立ちや剥がれが発生することがありますので、必ず裏面まで完全にカットしてください。

※東リ 不燃腰壁シートは、鋭利な刃物で表面をこすると表層の一部が削れる場合があります。また、製品表面に汚れが付着した場合も、硬い素材で強く擦らず、ウェットティッシュ等の湿った柔らかい素材で拭取ってください。

※ファブテック腰壁をカットする場合、塩ビ被覆系繊維層を完全にカットせず無理に引っ張ると、塩ビ被覆系のほつれや剥がれが発生させることがあります。また、やむを得ず平場でジョイント（重ね切り）を行う場合には、ステンレス製の下敷きをご使用いただき、カッター刃は常に切れ易い状態でご使用ください。

7 墨出し（2回目）

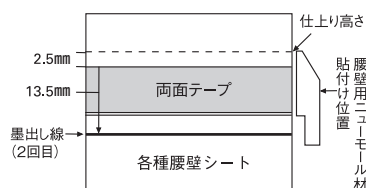
腰壁用ニューモール材を貼付けやすくするために、両面テープの最上部（1回目の墨出し線）より13.5mm低い位置に水平の墨出しを行ってください。

※腰壁シートの表面に墨出しを行います。そのため、施工後に拭取れるように必ずチョークリールを用いてください。インクの墨は使用しないでください。

※腰壁用ニューモール材の仕上り高さは、両面テープの上部より2.5mm高い位置になります。



墨出し（2回目）



8 腰壁用ニューモール材の貼付け

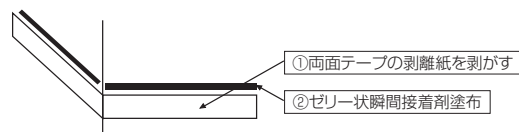
①腰壁用出隅材・入隅材の貼付け

腰壁用出隅材・腰壁用入隅材等を貼付けます。

両面テープの剥離紙を剥がしてから、両面テープの上部壁面にゼリー状瞬間接着剤を塗布し、2回目の墨出し線に各部材の下辺を沿わせて貼付けてください（右上図参照）。

※腰壁用出隅材は低温下で折り曲げると柄が白化するため、ドライヤーもしくはトーチで温め、予め90度に折り曲げておくことを推奨します。

※はみ出したゼリー状瞬間接着剤はすぐに拭取ってください。



腰壁用出隅材の貼付け

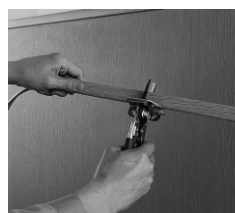


腰壁用入隅材の貼付け

②腰壁用ニューモール材の貼付け

腰壁用ニューモール材（2000mm長さ）を必要な寸法に正確にカットし、両面テープの剥離紙を剥がしてからゼリー状瞬間接着剤を塗布し、2回目の墨出し線に腰壁用ニューモール材の下辺を沿わせて貼付けてください。

ゼリー状瞬間接着剤は、40～50cm間隔に対し10cm長さを目安に塗布してください（短くカットした場合には全面塗布）。はみ出したゼリー状瞬間接着剤はすぐに拭取ってください。



腰壁用ニューモール材のカット

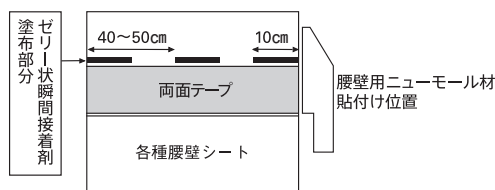


ゼリー状瞬間接着剤の塗布

モールカッターを用いると簡単かつ、きれいにカットできます。

※下地のRについては、R20までは施工が可能です。

※腰壁用ニューモール材は、低温下で曲げると柄が白化するため、ドライヤーもしくはトーチで温め、予め施工角度に曲げておくことを推奨します。



！ 注意

- 腰壁用ニューモール材の両端には必ずゼリー状瞬間接着剤を塗布することとし、さらに、腰壁用ニューモール材どうしの継ぎ目（断面部）にもゼリー状瞬間接着剤を塗布して接着してください。はみ出したゼリー状瞬間接着剤はすぐに拭取ってください。

チェックポイント

長手の腰壁用ニューモール材を貼付ける場合、各種腰壁シート表面に行った墨出し線（2回目）に沿って正確に貼付けてください。腰壁用ニューモール材下側に50cm以上で厚みのある直線定規をあてがいながら貼付けていくと直線性が得やすくなります。



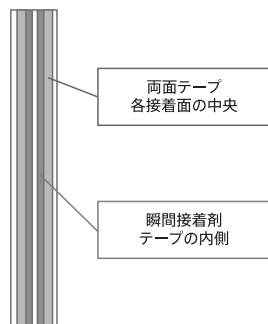
腰壁用ニューモール材の貼付け

- 2人ペアでの作業をおすすめします。



9 腰壁用コーナー材の貼付け

- ① 腰壁用出隅材もしくは入隅材の下部から床面までの長さを正確に測り、腰壁用コーナー材をカットしてください。
- ② 腰壁用コーナー材の裏面に2ヶ所、両面テープ（WU-TAPE-8）を貼付けてください。
※貼付け位置は下図「両面テープと瞬間接着剤の入れ方」を参照
- ③ コーナー材を出隅または入隅に収める場合、環境温度に関わらず、ドライヤーもしくはトーチで温め、予め任意の角度に折り曲げてください。
- ④ 両面テープの剥離紙をめくり、腰壁用ニューモール材のように、瞬間接着剤をテープ内側に40～50cm間隔に対し、10cm長さを目安に塗布してください。
※ファブテック腰壁の出隅・入隅部に腰壁用コーナー材を施工する場合、瞬間接着剤の硬化を促進する必要があります。「シアノンプライマースプレー400」、または市販の瞬間接着剤専用硬化促進剤を出隅・入隅部の瞬間接着剤が接する部位にご使用ください。瞬間接着剤が瞬時に硬化します。
- ⑤ 出隅の場合は、腰壁用コーナー材を上から出隅の角に調整して貼付けてください。入隅の場合は、腰壁用コーナー材の表面を内側に折込み、両面テープが壁面に極力接着しないようにしたまま、上から入隅の角に調整して貼付けてください。



両面テープと瞬間接着剤の入れ方

- ※腰壁用コーナー材上部を腰壁用ニューモール材下部の「隠しシロ」に飲み込ますことはできないのでご注意ください。



腰壁用コーナー材の貼付け

10 ソフト巾木の貼付け

東リ 防汚消臭腰壁シート・東リ 不燃腰壁シートの上にソフト巾木を重ね貼りする場合はUSセメントを使用してください。（※ファブテック腰壁の上に巾木は重ね貼りできません。）なお、腰壁シートの下端が少しソフト巾木に重なる程度で下地に直接貼付ける場合は巾木糊を使用します。

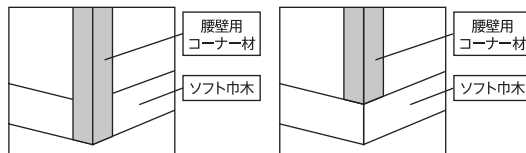


USセメント塗布
（巾木重ね貼り）



ソフト巾木の貼付け

コーナー部分ではソフト巾木を腰壁用コーナー材に突付けて貼付けても、角に巻付けたソフト巾木に腰壁用コーナー材を突付けて貼付けても構いません。



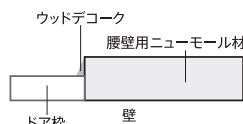
腰壁用コーナー材とソフト巾木の納まり

11 ウッドデコークの注入

腰壁シートの入隅や腰壁用ニューモール材の継ぎ目、端部処理等、スキマの発生した箇所にウッドデコークを注入してください。なお、腰壁用ニューモール材上部にスキマが発生した場合にも、ウッドデコークを使いスキマに注入してください。

※腰壁用ニューモール材が壁面の途中迄で終えなければならない場合やドア枠等でチリが合わず断面が露出する場合は、端部の小口にウッドデコークを使い小口隠しの処理をしてください。

※一部の副資材はウッドデコークの対応色がありません。その際はオートンリペアカラーQ イックをご使用ください。



端部処理（上側から見た図）

12 清掃

腰壁シートや腰壁用ニューモール材、ソフト巾木に付着した汚れをきれいに拭取ってください。接着剤が付着した場合は、エタノール等を用いて拭取ってください。

（注）ソフト巾木の表面は色落ちするためエタノール等のアルコール類は使用しないでください。

（注）東リ 不燃腰壁シートにつきましては、高濃度のアルコール類を使用した場合、色落ちすることがありますので、事前に端材などで確認の上、ご使用ください。

モールカッター



- 販売元：（株）マーベル
- 問合せ先：（TEL）06-6762-2372
- 品番：JMC-450

5. 床暖房システムの構造と床材施工

床暖房下地へ床材を施工することは、多くの問題点や注意点があり、最も困難な施工の1つです。

特に埋設型床暖房システムへの床材施工は、下地による要因が大きく、施工方法等に最大の注意が必要となります。

床暖房使用による温度変化が引き起こす下地の伸縮や床材の伸縮が繰り返されることや、下地の水分が一気に上昇すること、また、床暖房下地と非床暖房下地の温度差や下地表面に入るクラック、そのクラックに対する補修方法等の問題点が挙げられます。しかし、これらの問題点を解決する確実な方法はありません。

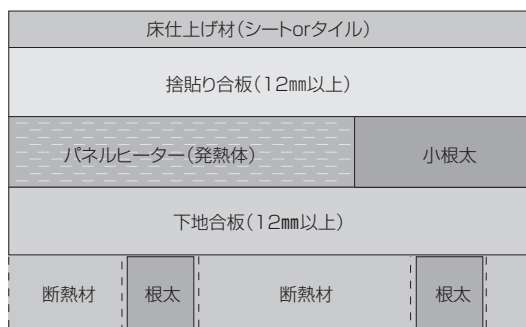
事前加熱や下地処理を行っても、多少の問題が発生することをご理解ください。

ここでは、当社が推奨する、トラブルを最小限に抑える為の施工方法について解説します。

床暖房システム構造図

◎パネル型床暖房

図1 パネル型



◎束り製品を施工する際は、厚み12mm以上の合板を捨貼りした下地が標準になります。

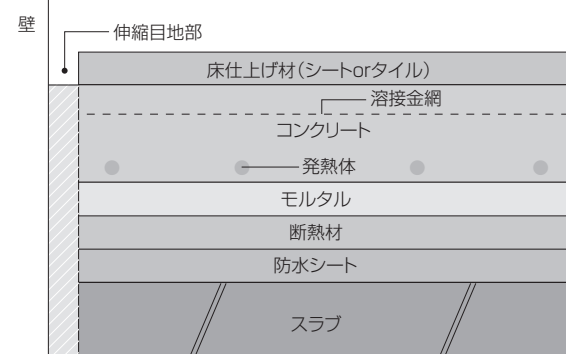
◎捨貼り合板を固定する受材（小根太）の間隔は300mm程度とし、捨貼り合板（厚さ12mm以上）を乱に継ぎ、小根太で突き付けとします。固定は38mm以上のスクリュー釘を推奨します。釘の間隔は、継手部150mm程度、中間部200mm程度です。また、反応形接着剤の併用をお奨めします。

◎捨貼り合板に、段差や目地スキがあった場合は、サンダーで段差を削り適切なパテを使い、平滑な面に補修してから施工してください。（詳細は施工技術書を参照してください。）

※パネルヒーター製造元の施工要領書がある場合は、それに従ってください。

◎コンクリート埋設型床暖房

図2 コンクリート埋設型



◎床材を施工する前に、HI-520-2型 D.MODEで440未満（=グレードI水分指標8%以下）を目安に、使用温度+5～7℃程度で事前加熱を行い、クラックを十分に発生させてください。

◎クラックの目安として0.3mm未満のクラックは補修せず、段差をサンディングした上で施工してください。

◎0.3～1mmのクラックは、低粘度タイプのクラック補修材、1mm以上のクラックについては中粘度タイプのクラック補修材で補修してください。補修の際は、クラック沿いに幅3mm×深さ5mm程度の溝切りを行い、クラック処理を施してください。この時のクラック処理は、加温状態で行ってください。

（クラック補修材については、施工技術書を参照してください。）

◎伸縮目地や誘発目地、カッター目地部には床仕上げ材を施工しないでください。

床材施工方法

床材を施工する際、総合的に判断し、以下の工法よりどの工法で施工するか決めなければなりません。

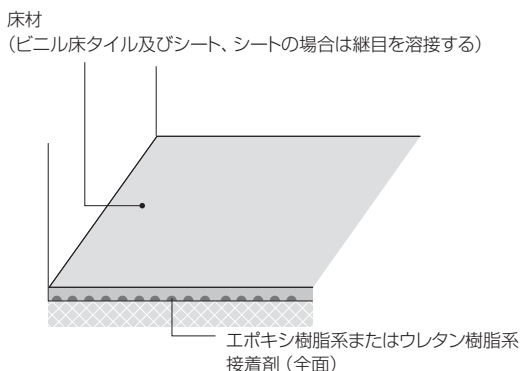
床材（ビニル床タイル及びシート）を施工する場合は全面強接着工法、タイルカーペットを施工する場合は全面ピールアップ工法を当社は推奨します。

ビニル床シート等で用いられることのある額縁貼り工法は、全面接着工法ができない時の次善の工法と考えています。

1) 全面強接着工法

エポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤による全面強接着で仕上げる方法。

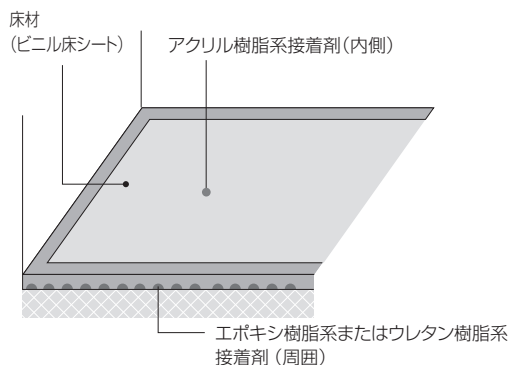
下地の伸縮による影響を受けやすく、みみず腫れや膨れ等のトラブルが起きやすいが、重歩行エリアやキャスターの動荷重がかかる場所に適しています。



2) 額縁貼り工法

周囲をエポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤による強接着で、内側をアクリル樹脂系接着剤による弱接着で仕上げる方法。

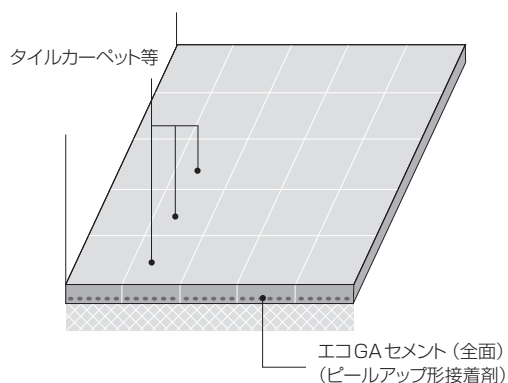
ビニル床シートを施工するにあたり、下地に発生したクラックが多い場合や補修困難な場合に採用します。しかし、耐久性に劣るため、ホール、廊下、通路等の重歩行エリア、キャスターによる動荷重が常時加わる場所、複数枚のビニル床シートを継ぎ合わせるような広い面積の場所での工法には適しません。



3) ピールアップ工法

エコGAセメント（ピールアップ形接着剤）を使用した全面接着工法。

タイルカーペット等の限られた製品に適します。



床仕上げ材別施工方法と注意点

ビニル床タイル・ビニル床シート



■パネル型床暖房の注意点

- ◎捨貼り合板のジョイント部に段差がある場合は、サンダーで削り段差をなくしてください。また、ジョイントに隙間がある場合は、適切なパテで補修してください。
- ◎タイルおよびシートは早めに開梱し、できるだけ重ね枚数を減らして仮敷きを行い、現場の温度と馴染ませてから施工してください。
- ◎合板のジョイントとタイルおよびシートの目地が重なり合わないよう施工してください。
- ◎下地が非吸水下地である為、充分なオープンタイム（待ち時間）を取り、貼付け後入念に圧着を行ってください。
- ◎タイルを貼る時、目地の突付けは強くせず、必ず緩め（名刺1枚程度）に施工してください。また、シートの目地は適切な継目処理を行ってください。
- ◎メンテナンスは、養生終了後、樹脂ワックスを塗布してください。

■コンクリート埋設型床暖房の注意点

- ◎充分な事前加熱ができており、下地水分がD.MODEで440未満（グレードI水分指標8%以下）であることを確認してください。
- ◎クラック等補修した箇所に異常がないか点検し、下地が平滑であることを確認してください。
- ◎部分的に床暖房が施工されており、床暖房下表面と床暖房の施工されていない下表面の温度差が15℃以上ある場合は、その差が15℃以下になるように環境設定してから、床材の施工を開始してください。
- ◎タイルおよびシートは早めに開梱し、できるだけ重ね枚数を減らして仮敷きを行い、現場の温度と馴染ませてから施工してください。
- ◎タイルを貼る時、目地の突付けは強くせず、必ず緩め（名刺1枚程度）に施工してください。また、シートの目地は適切な継目処理を行ってください。
- ◎メンテナンスは、養生終了後、樹脂ワックスを塗布してください。

施工温度条件	冬季施工	床表面温度20℃以下の場合には、床暖房を入れ、床表面温度20℃程度に加熱してから床材を施工する。
	夏季施工	床暖房を切った状態で施工する。
接着剤および工法		* 接着剤：エポグレー S、USセメント、US300S、US300T 工法：全面接着工法
養生条件		施工後2日間は、施工時の温度を保った状態で養生する。

*ヒトエグランザ、ヒトエファインを床暖房上に施工する場合はエポグレー SSまたはUSセメントをご使用ください。

*バスナリアルデザイン、バスナフローレ、バスナアルティ、ラバナを床暖房上に施工する場合バスナセメントEPOをご使用ください。

*US300S・US300Tを使用する場合、対応床材にはご注意ください。

タイルカーペット・東リファブリックフロア・LAYフローリング・LAYフローリング ビタフィー



■パネル型床暖房の注意点

- ◎捨貼り合板のジョイント部に段差がある場合は、サンダーで削り段差をなくしてください。また、ジョイントに隙間がある場合は、適切なパテで補修してください。
- ◎製品は早めに開梱し、できるだけ重ね枚数を減らして仮敷きを行い、現場の温度と馴染ませてから施工してください。
- ◎合板のジョイントとタイルの目地が重なり合わないよう施工してください。
- ◎下地が非吸水下地や捨貼り合板（非吸水下地）である為、充分なオープンタイム（待ち時間）を取り、エコGAセメントが半透明になってから貼付けを行い、その後入念に圧着を行ってください。
- ◎製品を貼る時、目地の突付けは強くせず、必ず緩め（名刺1枚程度）に施工してください。
- ◎タイルカーペット用アンダーレイシート、およびFF用アンダーレイシートを使用する際は、床面とアンダーレイシートの接着はエポグレー S、USセメントまたはUS300Sによる全面接着工法にて施工してください。（LAYフローリング、LAYフローリング ビタフィーには使用できません。）
- ◎アンダーレイシートを使用しますと、暖房効率が低下します。

■コンクリート埋設型床暖房の注意点

- ◎充分な事前加熱ができており、下地水分がD.MODEで440未満（グレードI水分指標8%以下）であることを確認してください。
- ◎クラック等補修した箇所に異常がないか点検し、下地が平滑であることを確認してください。
- ◎部分的に床暖房が施工されており、床暖房下表面と床暖房の施工されていない下表面の温度差が15℃以上ある場合は、その差が15℃以下になるように環境設定してから、床材の施工を開始してください。
- ◎製品は早めに開梱し、できるだけ重ね枚数を減らして仮敷きを行い、現場の温度と馴染ませてから施工してください。
- ◎製品を貼る時、目地の突付けは強くせず、必ず緩め（名刺1枚程度）に施工してください。
- ◎タイルカーペット用アンダーレイシート、およびFF用アンダーレイシートを使用する際は、床面とアンダーレイシートの接着はエポグレー S、USセメントまたはUS300Sによる全面接着工法にて施工してください。（LAYフローリング、LAYフローリング ビタフィーには使用できません。）
- ◎アンダーレイシートを使用しますと、暖房効率が低下します。

施工温度条件	冬季施工	床表面温度20℃以下の場合には、床暖房を入れ、床表面温度20℃程度に加熱してから床材を施工する。
	夏季施工	床暖房を切った状態で施工する。
接着剤および工法		* 接着剤：エコGAセメント 工法：全面接着工法
養生条件		粘着を利用したピールアップ工法であるため、施工後の養生は不要。

* LAYフローリングは床暖房上に施工する場合、LAYセメントをご使用ください。

ロールカーペット

注意

■パネル型床暖房の注意点

- ◎全面接着工法の場合、捨貼り合板のジョイント部に段差がある場合は、サンダーで削り段差をなくしてください。また、ジョイントに隙間がある場合は、適切なパテで補修してください。
- ◎カーベツトは早めに開梱し仮敷きを行い、現場の温度と馴染ませてから施工してください。
- ◎全面接着工法の場合、合板のジョイントとカーベツトの目地が重なり合わないよう施工してください。
- ◎全面接着工法の場合、下地が非吸水下地である為、充分なオープンタイム（待ち時間）を取り、貼付け後入念に圧着を行ってください。
- ◎グリッパ工法の場合、アンダーフェルトを使用しますと、暖房効率が低下します。

■コンクリート埋設型床暖房の注意点

- ◎全面接着工法の場合、充分な事前加熱ができており、下地水分がD.MODEで440未満（グレードI 水分指標8%以下）であることを確認してください。
- ◎全面接着工法の場合、クラック等補修した箇所に異常がないか点検し、下地が平滑であることを確認してください。
- ◎全面接着工法の場合、部分的に床暖房が施工されている場合や床暖房下地表面と床暖房の施工されていない下地表面の温度差が15℃以上ある場合は、その差が15℃以下になるように環境設定してから、床材の施工を開始してください。
- ◎カーベツトは早めに開梱し仮敷きを行い、現場の温度と馴染ませてから施工してください。
- ◎グリッパ工法の場合、アンダーフェルトを使用しますと、暖房効率が低下します。

施工温度条件	冬季施工	床表面温度20℃以下の場合には、床暖房を入れ、床表面温度20℃程度に加熱してから床材を施工する。
	夏季施工	床暖房を切った状態で施工する。
接着剤および工法	接着剤：エボグレー S、USセメント、US300S、US300T 工法：全面接着工法 / グリッパ工法	
養生条件 全面接着工法	施工後2日間は、施工時の温度を保った状態で養生する。	

◎東リ製品の床暖房システム対応表

東 リ 製 品		コンクリート埋設型 (条件：事前加熱・クラック処理)	パネルヒーター型 (条件：合板(JAS1類12mm以上)捨貼)
コンポジション ビニル床タイル	マチコV、コーデラ、フェイスールプラス、ストレーン、モクリン、リフライブ、ピエスタ、グラノーブル、リノテスタ、ヴィアーレ、スレートスクエア、ダイナミックストーン、フリータイル	○	
複層 ビニル床タイル	MSフレッシュ、MSプレーン、ロイヤルストーン、ロイヤルウッド、イークリンNW-EX、フリータイルS	○	
	タフテックタイル	×	
置敷き ビニル床タイル	LAYフローリング ※2・LAYフローリング ビタフィー ※2 ※3	○	
	ルースレイ 40NW-EX、ルースレイ 50NW-EX	×	
ラバータイル	ブラート、ブラートF	○	
ビニル床シート	フロアリュウム全品種、TMフロア、SFフロアNW、ホスピリュウムNW、マチュアNW、ノンワックスリュウムNW、ヒトエシリーズ、バスナアルティ、ラバナ、アリーナフィット、ビニル床シート+東リアンダーレイシート ※2	○	
クッションフロア	CFシート-SD、CFシート-P NW、ケアセーフNW ※2、バスナリアルデザイン、バスナフローレ	○	
	CFシート-H、アンパンマン クッションフロア	×	
防滑性シート	NSシート全品種、NSプレーンNW	○	
	NSシート+NSアンダーレイシート	×	
機能性 ビニル床シート ※1	アースリュウム、ファクトリュウム、オペリュウム、ニュースタンロード、帯電防止フロアリュウム、耐薬スパーKシートNW、耐薬スパーKシートエクセラNW	×	
タイルカーベツト	GAシリーズ (GA-100N、GA-400N除く)、GXシリーズ、エクスクロームシリーズ、MTEシリーズ、ゆいぞめ、ソフトバックプラス、プライムクラス、DC-1100、RC-1200、タイルカーベツト用アンダーレイシート+タイルカーベツト (GA-100N、GA-400N除く) ※2	○	
	GA-100N、GA-400N	×	
東リファブリックフロア	全品種 ※2 ※3、FF用アンダーレイシート+ファブリックフロア ※5	○	
ロールカーベツト	全品種 (ハノーク カーベツトを除く)	○	
	ハノーク カーベツト	×	
ニードルパンチカーベツト	O.I.C.	○	
ファブテック	ファブテックタイル 耐湿クッションバックキグ	×	
目地棒 ※4	東リ目地棒、東リプリント目地棒	○	

- ※1 機能性床材は機能が低下する可能性があります。 ※2 床暖房上に敷設した場合は、床暖房の昇温に時間を要します。
 ※3 ビニル床タイルやクッションフロア仕上げの床暖房下地に敷設すると、吸着材によって下地床材が変色する可能性があります。表面仕上げ材の種類をご確認の上施工してください。
 ※4 ビニル床タイルとの併用を前提としています。目地棒施工部は特に接着剤を充分塗布し、ローラー掛けによる圧着を行ってください。
 ※5 テキスタイルフロア7000涼織は、FF用アンダーレイシートの上材として使用できません。

注意

■床暖房に関するご注意

- ◎上記対応製品仕上げ材の上に、クッション、カーベツト、ソファや家具など放熱を妨げるものを長時間放置しないでください。設置された箇所が蓄熱し、変質・変色する原因となります。また低温やけどのおそれがあります。ご注意ください。
- ◎フローリング等の既存床仕上げ材の上に、当社の対応製品をお使いいただいても、製品自体に問題はございませんが、既存床に影響（変色・ひび割れ等）を与える可能性があります。既存床仕上げ材メーカーの使用上の注意をご確認ください。
- ◎フローリング等の既存床仕上げ材の上に、当社の対応製品を施工する場合は、床暖房の有無にかかわらず、施工が適さない場合や下地補修が必要になる場合があります。各製品の施工上のご注意をご確認ください。

視覚障がい者用床材の施工 — SG タイル・SG カーペット —

施工上の特性

◎視覚障がい者床材は視覚障がい者を誘導する役割をもつ床材です。以下は必ずご注意ください。

- 剥離、突上げ、反りなどが生じて、歩行時に危険を伴うものであってはなりません。
- 施工時間が多少長くなる場合がありますが、安全を第一に考慮して施工してください。
- 切込みなど変則的なカットをして使用すると、視覚障がい者に危険と不安を与えることがあります。絶対に行わないでください。

◎他の床材の上に貼り重ねず、周囲の床材と同レベルで施工します。

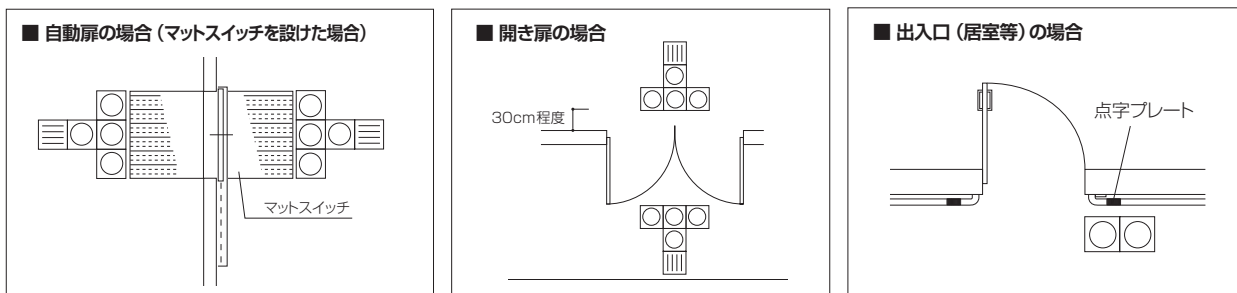
◎SGタイルには、「エポグレー S」「USセメント」または「US300T」を使用します。一般のゴム系糊は絶対に使用しないでください。SGカーペットは「エコGAセメント」を使用します。

◎SGタイルはビニルの配合率が高い（充填材が少ない）ため、寸法変化しやすく、温度の影響を受けやすいのでご注意ください。また、目地はすかし気味（0.5mm程度）で施工してください。

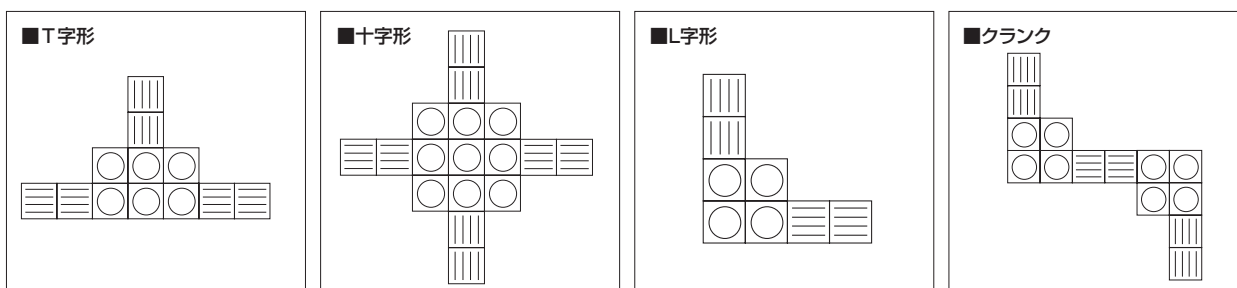
※床材の適切な敷設が、視覚障がい者の認識性と安全性を高めます。

※視覚障がい者が歩行する際の認知を確実にするために、誘導用ブロック・タイル等の突起形状と配列が JIS T 9251 により規定されています。

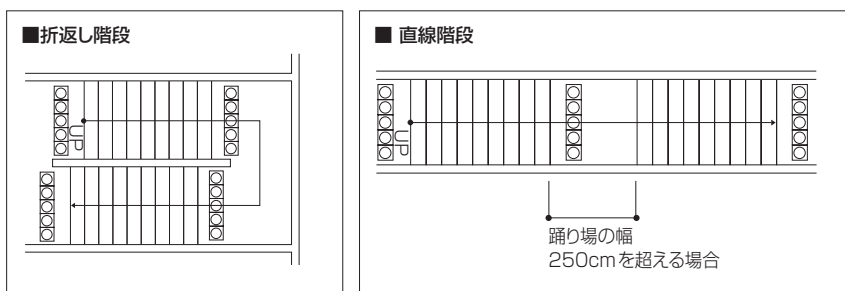
[1] 出入口付近での設置例



[2] 経路分岐点の標準的な設置例（30cm×30cm）

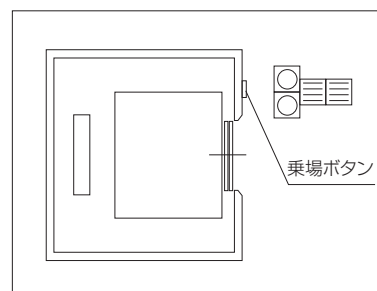


[3] 階段での設置例



- 視覚障がい者が手すり付近を歩く際にも踏み外さないよう、階段の幅いっぱいに敷設する。
- 直線階段の場合、踊り場の幅が250cmを超える場合は、点状ブロックを敷設する。

[4] エレベータホールでの設置例



- 点状ブロックは乗場ボタンの中心にくるように敷設する。

出典「東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル（2019年度版）」

※ □ は点状・■ は線状を表します。

施工手順

① 設計仕様書に指示がある場合はそれに従って割付けます。

※特に指示が定められていない場合、P.80の例を参考にしてください。

② SGタイルの場合、癖がある時は一旦保温し、癖を取除きます。

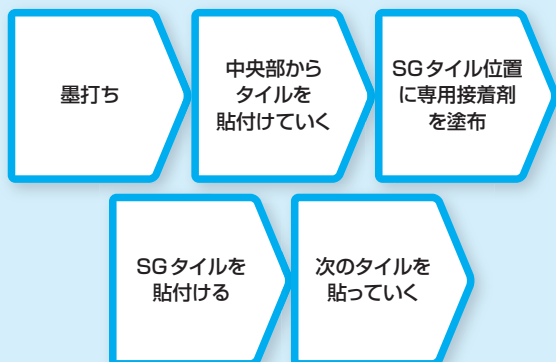
保温する際には局部的な加熱は避け、一枚ずつ暖かい所（30～40℃）に仮敷きすると効果があります。

③ 周囲の床材の種類に応じた工法で施工します。

[SGタイル/周囲がビニル床タイルの場合]

- ①割付けに従ってSGタイルの位置を墨打ちします。
- ②ビニル床タイルを部屋の中央部分から貼り始めます。接着剤は床材の指定接着剤を使用します。
- ③SGタイルを貼る位置に、エボグレー S、USセメントまたはUS300Tを塗布し、貼付けます。ハンドローラーで目地部を重点的に圧着してください。

◎基本的な流れ

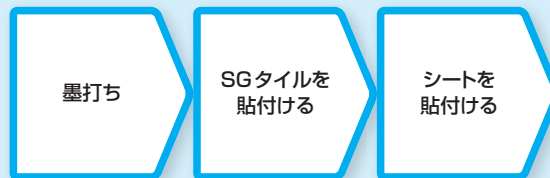


！ 注意

- 目地はすかし気味（0.5mm程度）で施工します。
- SGタイルの接着剤とビニル床タイルの接着剤は異なるので待ち時間に注意してください。
- SGタイルに癖がある時は、接着剤が硬化するまで重石などをします。

[SGタイル/周囲がビニル床シートの場合]

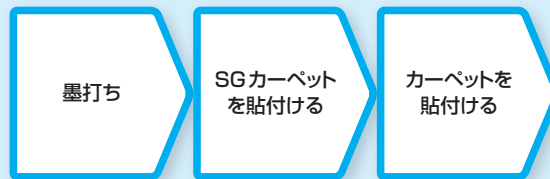
◎基本的な流れ



- ①割付けに従ってSGタイルの位置を墨打ちします。
- ②SGタイルを貼る位置に、エボグレー S、USセメントまたはUS300Tを塗布し、貼付けます。ハンドローラーで目地部を重点的に圧着してください。
（接着剤や注意事項は周囲がビニル床タイルの場合に準じます）
- ③ウレタン樹脂系接着剤（USセメント）を使用してビニル床シートを貼付けます。
- ④ビニル床シートとSGタイルの目地部にアロンアルファを充填してください。

[SGカーペット/周囲がタイルカーペットの場合]

◎基本的な流れ



基本的に [SGタイル/周囲がビニル床タイルの場合] と同様に施工します。

※ただし、接着剤はSGカーペット、周囲のタイルカーペットとも、エコGAセメントを使用します。

東リ 段差調整材の施工

施工上の特性

◎「東リ 段差調整材」は厚みのあるタイルカーペットと薄手のビニル床タイルやビニル床シートなど様々な高さの床材間の段差調整ができます。

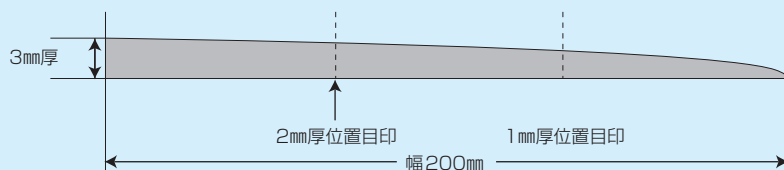
- 段差調整材の下地および段差調整材上への床材の施工は指定接着剤を使用してください。

上下面とも同じ接着剤をご使用ください。接着剤が変わると、突上げや目地スキの原因となる場合があります。

※指定接着剤：エポグレー ST、USセメント、東リ低臭USセメント、US200、US300S、US300T
(US300S、US300Tを使用する場合、対応床材にはご注意ください。)

- 施工の前に一度仮置きして、段差の状況をご確認ください。

断面図

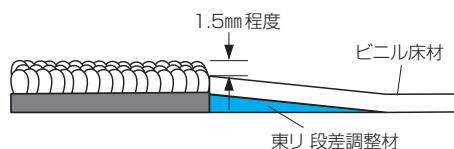


※ 1mm厚および2mm厚の位置に、裏面にカット用の目印線が入っています。

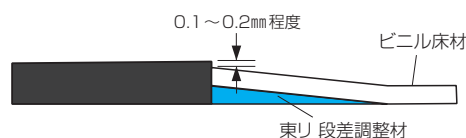
※ 施工現場で一度仮置きしてご確認ください。

- 段差調整部分は、薄い床材に塗布する接着剤の厚みを考慮し、薄い床材側が低くなるように割付けをおすすめします。またタイルカーペットの場合は、パイルの厚みを考慮してください。
石材やセラミックタイルなど厚みが厚く、明らかに段差調整材の高さが足りない場合は、タイルなどを捨貼りし高さ調整を行います。

タイルカーペット

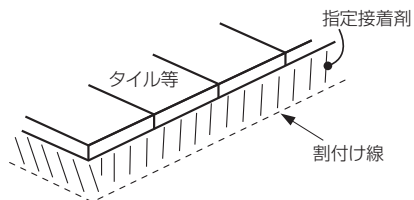


置敷きビニル床タイル



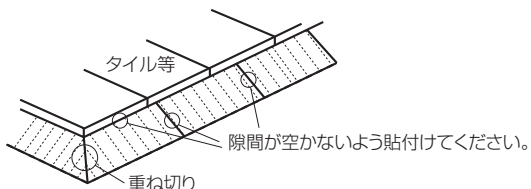
施工手順

1 割付け線の内部に指定接着剤を塗布します。



2 段差調整材を貼付けます。

出隅・入隅部分は重ね切りしてください。
貼付け後はしっかりと圧着してください。



3 段差調整材上への床材の施工

- 段差調整材上に施工する床材の目地と段差調整材の目地が重ならないように割付けてください。
- 段差調整材および床面に指定接着剤を塗布します。
※ 段差調整材の部分と周りの床仕上げ材部分との接着剤が異なる場合、待ち時間の差にご注意ください。
※ 段差調整材への接着剤塗布は通常より待ち時間が若干長くなります。
- 施工後、ローラーで充分圧着してください。

重ね貼り工法

重ね貼りは、モルタル・コンクリート下地に施工する場合と異なり、床材に剥がれ、膨れなど不具合が発生するリスクが高くなり推奨しておりません。ご採用の場合は注意して施工してください。

施工上の特性

既存床の状態・用途・施工後の使用条件などを事前にご確認ください。
下記のような場合、床材を重ね貼りすることができません。

- **既存床に浮き・剥がれ等がある場合。**
既存床の下地への接着が悪くなっているため、床材を貼付けても既存床ごと剥がれることがあります。
- **既存床が柔らかい場合（シート、コルク、ゴムなど）。**
静荷重、動荷重による影響を強く受け、床材に凹みや剥がれが発生することがあります。
- **静電気が問題となるような場合。**
床の漏洩抵抗が高くなり、静電気が逃げにくくなるので、放電によるトラブルが発生することがあります。
- **耐動荷重性能が必要とされる場合（使用条件によって既存床に不具合が出ている場合）。**
- **接着剤の溶剤により、既存床の溶解・膨潤・剥離が起こる場合。**
貼り床用の接着剤に含まれている溶剤で既存床に膨潤・溶解等が起こり、剥がれが発生することがあります。
- **既存床表面がフラットでない場合（エンボス加工がされている場合）。**
接着剤の塗布過多による床材の膨れが発生。また、経年変化で下地の凹凸が床材表面に浮き出てくる場合があります。
- **既存床が黒糊（アスファルト糊）、ラテックス形、エマルション形で施工されている場合。**
上材の動きを十分に止めることができず、床材の反り、剥がれ等が発生することがあります。
- **既存床にUV樹脂などの樹脂コーティングがされている場合。**
コーティング剤の剥がれによる床材の剥がれや接着不良などが発生します。

！ 注意

重ね貼り時の下地湿気について

◎既設床材に下地湿気の問題がなくても、重ね貼りすることで下地湿気の影響を受けやすくなります。
これは上から新しく床材を貼り重ねることによって、下地湿気の逃げ口をふさいでしまうためです。
土間コンクリートは下地湿気が生じやすいので、防水フィルムの有無を確認してください。

※タイルカーペット・ルースレイタイル・ファブテックタイル・LAYフローリングなど、ピールアップ形接着剤を使用した重ね貼りは通常の施工方法で問題ありません。

施工手順

① 既設床材の点検、補修を行います。

- あらかじめ床材を搬入し、施工環境になじませます。
（特に冬期施工では要注意：床材が施工環境になじむには3～4日は必要です）

！ 注意

下記の場合、下地補修および調整が必要です。

- 既存床の欠損が軽微で重ね貼りが可能な場合。
→ 既存床と同じ材質のもの、もしくは相性を確認の上、エポキシ樹脂系の下地補修材等で補修します。
- クラックが発生している場合。
→ クラック注入剤によりクラック内部から補修します。
- 下地にワックス等が塗布されている場合。
→ ワックスをリムーバー等により除去します。

② 反応形接着剤を少なめに塗布します。

- 既設床材は吸水性がないため、接着剤の塗布量を少なめにします。くしばけの山の高さを2/3～1/2に削り調整すると効果的ですが、貼付け可能時間が短くなり、接着強度が小さくなるので注意してください。

！ 注意

- 両面くしばけをご使用の場合は、くし目の細かい側で塗布してください。
- 待ち時間が短いと膨れや突上げなどのおそれがあります。

③ 床材を貼り、十分に圧着します。

- 接着剤の塗布量が少ないので、Tローラー（タイルローラー）などで十分に圧着し、くし目山をつぶします。

④ 重量物の往来、温度変化などを避け、十分に養生します。

- 改装工事では新築工事よりも養生期間が短くなりがちなので注意が必要です。

第2章 メンテナンス

P.84 高分子系床材のメンテナンス

P.88 カーペットのメンテナンス

P.86 NWシリーズ/NW-EXシリーズのメンテナンス

P.89 ファブテックタイルのメンテナンス

高分子系床材のメンテナンス

高分子系床材を美しく保つには、カーペット同様、日常の清掃・管理と、汚れを予防する配慮が必要です。まずはマットの設置など汚れを持込まないこと、次に汚れをすぐに拭取る管理体制、そして汚れを溜めないメンテナンス体制が重要です。ワックスによる予防効果は大きく、洗浄・剥離作業を含めた適切なローテーションシステムが求められます。特に高分子系床材は、蓄積した砂やメンテナンスの水によって転倒事故を発生させる可能性があります。単なる美観の問題だけでなく、快適な環境を作るためにも、これらは大切な要素となります。

初期メンテナンス

- ◎新しく高分子系床材が施工されたときは、床材表面に施工時の汚れ、初期汚れ防止のための製造時のワックス、可塑剤等が付着していることがあります。
- ◎最初のメンテナンスを行う前に必ず専用のクリーナーで洗浄し、これらを除去してください。
- ◎洗浄することにより、新しく塗布する樹脂ワックスの皮膜が床材によく密着するようになります。



メモ

複層ビニル床タイルの初期メンテナンス

- 一般的に複層ビニル床タイルは、アクリル樹脂系ワックスの密着性が弱いので、施工後、養生期間をおいてから青パッドと洗浄剤を用いてポリッシャー洗浄し、よくすすいだ後に樹脂ワックスを塗布してください。
- なお、ニューFBワックス、Uワックス、ツヤノンワックス(抗菌)は密着性に優れていますので、よりご安心いただけます。

日常管理

■ 汚れの予防

- 屋外、トイレ、厨房に通じる出入口や、飲食物の自動販売機など、床材を汚す原因が付近にある場合には、汚れの持込みや広がりを防ぐ対策が必要です。最も効果的な方法は、マットの設置です。
- マットは、最低限4歩程度の大きさがなければ効果は期待できません。
- 汚れたマットの放置は、マットが汚れの集積場になり、かえって周囲に汚れを持出すことになります。歩行量やメンテナンス回数に応じた大きさと、交換が大切です。

■ 日常の清掃

- ほうきや掃除機で床面のホコリや砂を取除いてから、固く絞った雑巾やモップで水拭きして汚れを落とします。
- 水拭き後、床面に水分が残ると、滑りによる転倒事故や、再汚染の可能性があるので注意が必要です。
- 歩行量が多い場所では一日の清掃回数を増やすなど、状況に応じたメンテナンスシステムが必要です。

ワックスによる定期メンテナンス

- ワックスは、床材表面に皮膜を張ることにより、床材そのものが直接汚れたり傷付くのを防ぎます。日常清掃では汚れが取れなくなってきたら、専用のクリーナーで表面の汚れを落としてからワックスを再塗布します。塗り過ぎや塗りムラは、床面がかえって汚く見えるので注意が必要です。
- ワックスを塗り重ねていくと、壁際や家具の周囲などでは、歩行によるワックスの摩耗がなく、かえって汚く見えることがあります。その場合は、リムーバーで古いワックスを完全に除去してから、新しいワックスを再塗布します。この作業によって、古いワックスごと、汚れや摩耗、傷つきを取除くことができます。

帯電防止性をお求めの場合

- 通常の樹脂ワックスを帯電防止性能を特長とした床材に使用すると、帯電防止性能が低下します。そのためにワックスにも帯電防止性能が求められます。
- ※帯電防止性能が必要な場合は、シーバイエス(株)の帯電防止ワックス「エレックス」[お問い合わせ先045-640-2280]を塗布してください。

NW シリーズ・NW-EX シリーズについて



NWシリーズ・NW-EXシリーズは、ノーワックスメンテナンスに適応した床材です。NWシリーズ・NW-EXシリーズのメンテナンスについては、P.86をご参照ください。

抗菌性のある床材

- 通常の樹脂ワックスを、抗菌性を特長とした床材に使用すると、抗菌性が失われます。そのためにワックスにも抗菌性が求められます。

※低光沢タイプの「ツヤノンワックス（抗菌）」を塗布してください。

低光沢をお求めの場合

- 低光沢仕上げをお求めの場合は、「ツヤノンワックス（抗菌）」をご使用ください。

メンテナンス時の注意事項

- 凹凸のある床材は、凹部にワックスが溜まらないように、均一に薄く塗りあげます。
- 素材の変質を防ぐため、ビニル系床材には製品専用の樹脂系ワックスを、ゴムタイルにはゴムタイル用ワックスを使用します。
- 水性ワックスは、滑りやすくなるので使用しないでください。
- 光沢のあるワックスほど、下地の状態など施工状態が床面表面に出やすいことに留意します。
- 半屋外で直射日光のよくあたる場所、水がよく溜まる場所、屋外での使用には、樹脂ワックスは塗布できません。
- クリーンルームなど塵埃を嫌う場所ではワックスは使用しないでください。歩行などによって剥離したワックスが塵埃となります。
- 帯電防止性能を有する床材は、帯電防止剤によりべたつきが生じることがあります。必ず定期的なメンテナンスを行ってください。
- ワックスの塗布後、乾燥不十分な状態で歩行や什器の配置は避けてください。ワックスの皮膜が荒れたり、什器が床面に接着され、とれなくなる場合があります。
- 新設の床材にワックスを塗布する際は、必ずポリッシャー洗浄を行った後にワックスを塗布してください。

防滑性床材のメンテナンス

- 多くの防滑性床材は、表面に凹凸を持たせることによって防滑性を得ています。そのため、凹部にワックスが溜まり、凸部にワックスが塗布されないといった状況が発生することがあります。凹部に溜まったワックスは塗り重なりと同じ状況を招き、かえって汚く見える結果をもたらします。

※解決方法としては、ジャブジャブとワックスを塗ることを避け、丹念に薄く塗布することです。

- 再塗布する際、凹部の古いワックスを除去できず、塗り重なりと同様の結果をもたらすことがあります。丹念にクリーナーやリムーバーをかけ、古いワックスが残らないようにします。また、塵埃が残った状態で再塗布すると汚れが密閉されます。特に凹部は塵埃が付着しやすく、再塗布前の点検を怠らないようにします。

メモ

ドライメンテナンス

初期に厚いワックス被膜を形成し、日常管理は超高速ポリッシャーにより汚れの除去と磨き直し（高速回転によりワックス面を磨き直し、光沢を上げる）を行うことで作業範囲を通行止めにする必要がなく、常に光沢の高いきれいな床を保持できる特長があります。

汚れや傷がある場合、ワックス層を薄く削り取るので、平滑な下地で標準作業通りのメンテナンスが行われれば床材を選びませんが、エンボスの深い床材や柔かい床材、目地棒を使用した場合には適しません。また下地に不陸がある場合、特に複層ビニル床タイルの場合は床材の表面を削ることがあるのでご注意ください。床材としては、3mm厚のコンポジションタイル（スルーチップタイル）をおすすめします。

！ 注意

アルコール（溶剤）によるワックスの白化

ワックスにアルコールなどの溶剤をこぼすと白くなる場合があります。リムーバーで白化したワックスを除去し、ワックスを再塗布すれば元に戻ります。病院など、特にアルコールを使用するところでは、耐アルコール性能のあるワックスや、ワックスメンテナンス不要の床材「NWシリーズ・NW-EXシリーズ」をおすすめします。

※耐アルコール性能のあるワックスは、
ユシロ化学工業(株)【お問合せ先03-3750-6761】
コニシ(株)【お問合せ先0120-28-1168】
シーバイエス(株)【お問合せ先045-640-2280】
で販売されています。

NW シリーズ / NW-EX シリーズのメンテナンス



東リ「NWシリーズ」「NW-EXシリーズ」の床材も他のビニル系床材と同じように日々のお手入れが必要です。私達が生活する環境の中では、必ず「汚れ」が発生してしまいます。外部からの土砂、粉塵の持込み、室内からも小さな繊維くず、花粉、フケ、髪の毛からゴミなど、床材に関係なくあらゆる汚れが発生します。

NWシリーズ

NW シリーズは定期的なワックスメンテナンスは必要ありませんが、日常の清掃は必要な床材です。

自動床面洗浄機やモップ、雑巾等による日常的な清掃だけで美観を維持できます。(P.87参照)

汚れや傷つきが目立つ場合には、ワックスによる定期メンテナンスも可能です。(ワックスメンテナンスを行っても NW シリーズの品質に問題はありません。)

引渡し前クリーニングについてのお願い

1) 施工時に発生したホコリやチリをきれいに取除いてください。

- 掃除機やモップ等を使用し、堆積したホコリやチリをしっかりと取除いてください。清掃の際はモップをこまめに洗浄し、モップに付着した汚れをきちんと取除いてください。
- モップが汚れていると、吸込んだ汚水が床面に塗り広げることがあります。最後に水を絞ったきれいなモップで拭き上げてください。

2) 汚れが残る場合は洗浄剤を使用し、ポリッシャーまたは、自動床面洗浄機で洗浄してください。

- ホコリやチリの量が多い場合、モップでの水拭き清掃だけでは汚れが除去しきれない場合があります。
- 汚れが除去できない場合は、洗浄剤を使用し、ポリッシャーや自動床面洗浄機で洗浄願います。
- 洗浄時に発生した汚水は床面に残さず、水を絞ったきれいなモップで拭き上げてください。
- 清掃後は養生をお願いします。

NW-EXシリーズ

※ NW-EX シリーズはワックス液をはじいてしまうため、ワックス塗布には指定の前処理が必要になります。詳細は各製品のユーザーズマニュアルをご参照ください。

- 日常清掃の際は、固く絞ったモップ、雑巾で汚れを取除いてください。
- 取れにくい汚れには中性洗剤を使用してください。

日常メンテナンスはどのような床材にも必要です。

◎清掃の種類は、4つに分けることができます。

予防清掃

外部からの土砂・粉塵をマットなどを使って侵入を防止する清掃。

日常清掃

日単位で人が利用することで発生する汚れ、ホコリなどをモップや自動洗浄機などを使用して除去する清掃。

定期清掃

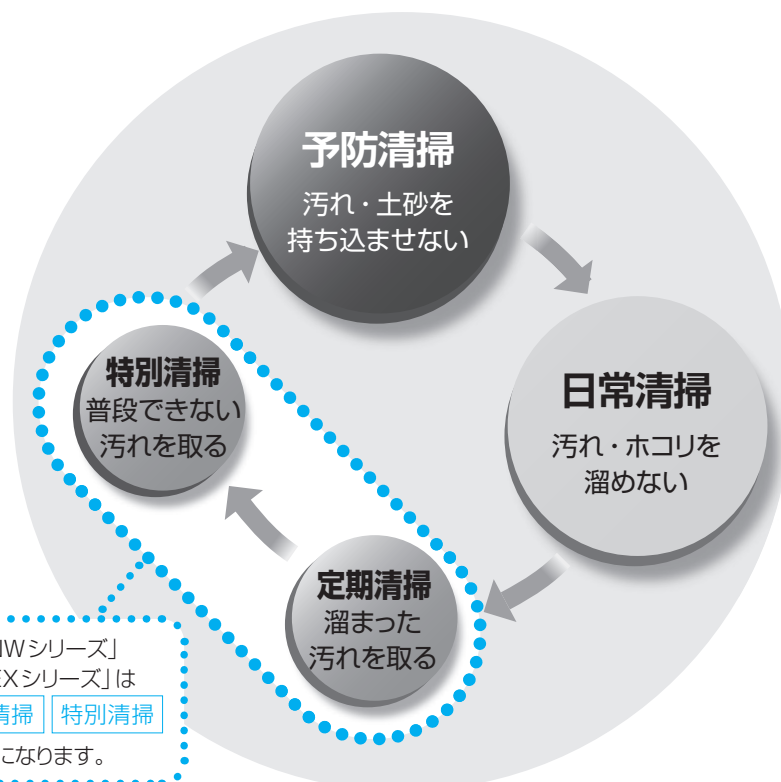
月単位で行うお掃除。
(ex. ワックス塗布を行う専門機材を使った清掃)

特別清掃

年単位で行うお掃除。
(ex. 大掃除、ワックスはく離)

東リ「NWシリーズ」「NW-EXシリーズ」の床材は、予防清掃と日常清掃を適切に行うことで、最大限の効果を発揮します。

床材の保護として行っていた、洗浄・ワックス塗布作業がなくなります。



ワックスメンテナンスを行っても「NWシリーズ」の品質に問題はありません。



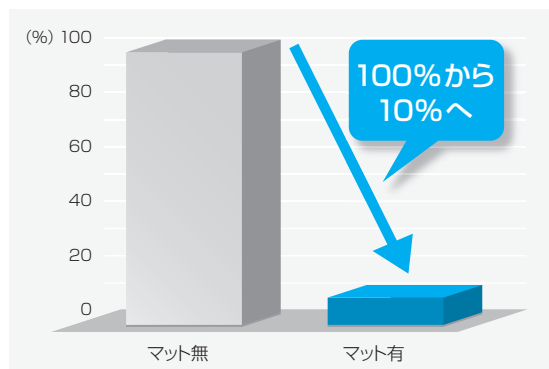
ワックス液をはじくため、ワックス塗布には指定の前処理が必要になります。詳細は各製品のユーザーズマニュアルをご参照ください。

メンテナンスの基本は「予防清掃」

◎予防清掃とは？

外部からの汚れ、特に靴裏に付着して持込みが多くなる土砂、粉塵、汚れなどの、室内への侵入を防止するメンテナンス方法です。具体的にはマットの設置を意味します。風除室におけるマットの設置は大型施設に限られるため基本的な予防清掃のツールは玄関マットです。

■6歩歩行可能なマットによる土砂の除去率



■マットの性能を最大限発揮させるために

マット表面の汚れ及びパイルにたまった土砂・ホコリをできるだけ除去し、キレイに保つことが大切です。

- 1回/日…掃除機などを使って土砂・ホコリなどを除塵します。
- 1回/週…マットを逆さまにしてマット奥に溜まった土砂をはたき落とします。
- 1回/月…デッキブラシと床用洗剤を使って水洗いでマットをリフレッシュさせます。

※尚、レンタルマットは4週に1回交換がありますので月1回のメンテナンスは必要ありません。

■マットの選び方

歩行人数と外部環境を参考に選んでください(下記CASBEE資料参照)。マットの性能は吸水タイプ、吸塵(土砂・ホコリ等)タイプ、吸水・吸塵タイプの大きく3つに分かれます。外から持込まれる汚れのタイプによって使い分けてください。



メモ

CASBEE 参考資料

●I 建築物衛生法における特定建築物の場合に評価する取組み

1) 汚染源対策

建物外部、内部を問わず、合計5m以上の充分な長さのエントランスマットとグレーチングの有無を設置写真の添付にて評価する。室内の汚れの85%以上が外部からの土砂の侵入によるものであり、マットは6歩の歩行で90%以上の土砂を除去できると報告されている。そこで、これに相当する以上(5m)の設備の設置を判断基準とした。これによって、建物内部への汚染の侵入を防げ、より快適な機能性を維持できる。

[参考：エントランスマットの適正な長さを求める指標]

全体のマットの長さ(メートル)：外部環境指数×通行環境指数

外部環境指数	超郊外の建築物	1.2
	郊外型の建築物	1.0
	都市部の建築物	0.9
	極多(10,000人以上)	13.0
通行環境指数	多(7,000人～10,000人)	10.0
	普通(4,000人～7,000人)	8.0
	少(2,000人～4,000人)	6.0
	極少(2,000人未満)	4.5

※左記人数は1日当たりの推定歩行量数

「日常清掃」が快適な環境を維持

◎日常清掃とは？

普段の生活で発生する汚れのクリーニングや予防清掃を補完する清掃のことを言います。床のお掃除では「掃く」「拭く」「吸う」といった清掃で、必要な道具は自在ほうき、モップや掃除機などを使います。15～20分程度を目安にお掃除に必要なスタッフと場所を決めて行います。毎日1回行うことが基本です。また、汚れを見つけたらすぐ道具を使ってお掃除を行ってください。習慣にすることで、より快適な空間が維持できます。

■ホコリやゴミの除去



お掃除クロスや自在ほうき、掃除機でゴミやホコリ等を除去します。その際、奥のほうから入り口に向かって汚れを除去してください。

■汚れの除去



汚れはモップや固く絞った雑巾を用いて水拭きします。汚れがひどい場合は床用洗剤を使用してください。

※それでも落ちない場合はポリッシャーや固く絞った雑巾で部分的にこすり取ってください。



床面積の大きな部位では、洗浄力の優れた自動床面洗浄機を使用していただくことにより効果的です。

カーペットのメンテナンス

カーペットを美しく保つには、清掃頻度や歩行量に合わせた日常の管理・清掃と、汚れを予防する配慮が最も大切です。日常的な清掃は、バキューム（掃除機）作業、シミ取り、パイルのホツレの補修が中心で、これらはメンテナンス上、必要最低限の作業。汚れの予防にはマットの設置が効果的です。クリーニングは、年に1～2回ほど、カーペットの汚れや施工方法、施工場所などを考慮したメンテナンス計画が求められます。クリーニングで水を使用する場合は、縮みやシミが発生することがあるので十分に注意が必要です。

日常管理

- ◎カーペットのメンテナンスは、バキューム作業が大きなウエイトを占めています。一般には、ブラシ付きのアップライト掃除機が適していますが、アクリルやウールなどの紡績糸使いのカーペットにはブラシのない業務用真空掃除機を用います。
- ◎バキューム作業時に気付いた小さなシミは、その場（オンロケーション）で、パウダー洗剤またはシミトリキットを用いてシミ取りを行います。また、小さなパイルのホツレ、目地部の毛羽立ちも反りばさみでカッティング処理します。汚れやシミは、時間が経つほど落ちにくくなるので、できるだけ作業頻度を上げることが求められます（1回以上／1日）。

クリーニング方法

- ◎カーペットのクリーニング方法には、パウダークリーニング、ボンネットクリーニング、エクストラクションクリーニング、スチームクリーニング、ツーステップクリーニングの5種類があります。汚れ方や施工方法に応じ、適したクリーニング方法を選びます。
- ◎最も清掃効果が高いのは、ツーステップクリーニングです。
- ◎エクストラクションクリーニングやスチームクリーニング、ツーステップクリーニングなど水を使用する方法は、グリップ工法で施工したカーペットのシーミングのある場所やタイルカーペット、織カーペットでは注意が必要です。

	クリーニング		床材の種類					
	汚れの 落ち具合	通行止めに する期間	タフテッドカーペット		織カーペット		タイルカーペット	
			全面接着工法	グリップ工法	全面接着工法	グリップ工法	モルタル下地	フリーアクセス フロア下地
①パウダークリーニング	○～△	特に不要	○	○	○	○	○	○
②ボンネットクリーニング	○～△	1時間	○	○	○	○	○	○
③エクストラクションクリーニング	○	6時間	○	△	△	△～×	○	△
④スチームクリーニング	◎	6時間	○	△	△	△～×	◎	△
⑤ツーステップクリーニング	◎	8時間	○	△～×	△	×	◎	△～×

※この分類は一般的なものであり、実際の使用環境によって評価が異なる場合があります。

①パウダークリーニング

洗剤の入ったパウダーを汚染部に散布し、専用マシンでパイルの汚れをパウダーに吸着させ、乾燥後に掃除機でパウダーを回収する方法。乾きが早いので、作業中でも通行止めにする必要はありません。掃除機での回収不良による変色、乾燥したパウダーによる室内汚染の可能性があるため、パウダーの選択に注意してください。汚れが強い場所では、前処理剤との併用が効果的な場合があります。パウダークリーニングは単独で行う場合と、ボンネットクリーニングと併用する場合があります。

②ボンネットクリーニング

パッドまたはカーペット表面に洗剤液を少量スプレーし、拭き上げます。洗剤液の使用量が少なく早く乾きます。この方法はパイル表面だけの洗浄なので、6ヶ月から1年に1度は、エクストラクションクリーニングによってパイル根元から洗浄する必要があります。ただし、水を使用できない場所では、ボンネットクリーニングのサイクルの間にパウダークリーニングを採用してください。

③エクストラクションクリーニング

ボンネットクリーニングやパウダークリーニングで汚れが除去できなかった部分は、エクストラクションクリーニングによる一工程洗浄を行います。一工程洗浄とは、シャンプーと汚水回収を一工程で行うものです。目地からの洗浄水の浸入を少なくするために、縦横各1回ずつの2回かけを限度とします。床下配線のあるフリーアクセスフロア部分は、電源を切るなどの配慮が必要。ツーステップクリーニングに比べると、エクストラクションクリーニングでは洗浄後のパイルへの残留水が少ないですが、一定時間の通行止めが必要です。

④スチームクリーニング

高温・高圧のスチームを噴霧し、汚水をバキュームで回収する方法。汚れの除去に加えて、ダニの退治・カビの除去などの効果が得られるため、ホテル、病院、レストランなどで採用されています。残留洗剤や残存水分も少なく、比較的短時間で乾燥します。カーペット表面を擦ったりしないためパイルの毛羽立ちが起きにくくなります。

⑤ツーステップクリーニング

ツーステップクリーニングは、①除塵 ②シミ取り ③クリーニング ④すすぎ ⑤シミ取り ⑥乾燥 ⑦仕上げの工程で行います。まず、高速回転のブラシでパイルの中まで入り込んだホコリや土砂を取除いてから、シミ取りを行います。その後、ポリッシャータイプあるいはロータリータイプの洗浄機で、カーペット専用の洗剤を用いてクリーニングし、洗剤液やごみ、ホコリをすすぎによって取除いてください。すすぎは、カーペットを美しく保つために非常に重要な工程なので必ず行うこと。すすぎが終われば再びシミ取りし、乾燥させます。カーペットの色落ちを抑えるため、エアコンや扇風機を使用して速やかに乾燥させます。水溶性や油性の粘着物を媒体として付着したホコリや土砂などは、バキューム作業だけでは除去できないので、この方法を年に1～2回実施します。これにより、ほとんどの汚れは除去できます。

**注意**

- 近年、ダニ対策用掃除機を使用される家庭が増えています。吸引力が強いのでパイルが抜けるのではないかとの間合わせがありますが、掃除機でパイルが抜けることはありません。
- ウールやアクリルなど紡績糸使いのカーペットは、使い始めに多量の遊び毛が出ます。遊び毛が出なくなるまでこまめに掃除機をかけてください。

ファブテックタイルのメンテナンス

メンテナンスは、ファブテックタイルを美しく保ち、より長く使用していただくために必要不可欠なものです。

特に床は、汚れや磨耗・傷付き等を受けやすい場所であり、適切な清掃で汚れ防止と保護を行うことが必要です。

このために行われるのがメンテナンスであり、日常管理、定期管理等によって美観の維持が行われます。

ピールアップ形接着剤は水やクリーナーの浸み込みにより接着強度の低下を招きます。ピールアップ工法の本製品には多量の水を使用することはできません。また、下地がOAフロアの場合は、水の使用が可能かどうか事前にOAフロアメーカー等にご確認ください。

また、ワックスは使用しないでください。

日常清掃（毎日）

1) ほうきや掃除機でホコリや塵の除去を行います。

※ブラシ付のアップライト掃除機を使用される場合は、高速回転で使用されると表面を傷める場合もありますので低速回転での使用をおすすめします。

2) 表面の織り目に付着物が残っている場合はブラシ類を使用して、雑巾等で軽く拭いてください。

3) 固く絞ったモップでモップがけを行います。

シミ等が気になる部分は雑巾などで集中的に拭いてください。

※きれいな温水をご使用ください。

※温水のみでの清掃をおすすめします。洗剤を使用される場合は中性洗剤を使用し、十分に水洗いを行ってください。洗剤が残りますと汚れを呼び込みやすくなります。

4) 土砂の侵入防止効果を維持するため、DC-1100、RC-1200やダスコンマットに堆積した土砂をアップライト掃除機などで除去してください。

目地部で芯材が出ている場合には、引っ張らずにはさみ等で除去してください。

定期メンテナンス（週～月単位）

◎定期的にエクストラクターやポリッシャー（白、赤パッドまたはカーペット用マイクロファイバーパッド）で清掃をします。

◎ピールアップ形接着剤は水やクリーナーの浸み込みにより接着強度の低下を招くため、スプレー等を使用して極力水の使用量を減らし、水の使用には充分ご注意ください。

1) ほうきや掃除機でホコリや塵の除去を行います。

※ブラシ付のアップライト掃除機を使用される場合は、高速回転で使用されると表面を傷める場合もありますので低速回転での使用をおすすめします。

2) 表面の織り目に付着物が残っている場合はブラシ類を使用して掻き出し、雑巾等で軽く拭いてください。

3) エクストラクターやポリッシャーで清掃をします。 水の使用には充分ご注意ください。

※ポリッシャーを使用される際は、白、赤パッドまたは柔らかめのブラシをご使用ください。

※温水のみでの清掃をおすすめします。洗剤を使用される場合は中性洗剤を使用し、十分に水洗いを行ってください。洗剤が残りますと汚れを呼び込みやすくなります。

※汚水、残水は完全に取除いてください。

※濡れているときは、滑りやすいためご注意ください。

その他の注意事項

！ 注意

- ワックスは使用しないでください。
- ゴムとの直接の接触は変色の原因となる場合があるのでお避けください。
- 表面材を構成している塩ビ系には芯材が使用されています。目地部でその芯材が出ている場合には、引っ張らずにはさみ等で除去してください。
- フラットな表面形状の製品と比べると、表面に織物特有の凹凸がありますので、汚れが残りやすくなります。ご注意ください。
- 汚れが付着した際には、すぐに汚れが広がらないように注意して拭取ってください。時間の経過とともに汚れが除去しにくくなります。なお、汚染物質によっては除去不可能なものもあります。

東リ株式会社

www.toli.co.jp

東日本営業開発部 TEL 03(5403)2067
東日本営業開発部 商業施設 TEL 03(5403)2066
東京第1営業所 TEL 03(5403)2050
東京第2営業所 TEL 03(5403)2055
八王子営業所 TEL 042(648)0588
横浜営業所 TEL 045(664)5810
大宮営業所 TEL 048(651)1031
千葉営業所 TEL 043(208)1381
水戸営業所 TEL 029(231)7695
新潟営業所 TEL 025(228)5133
長野営業所 TEL 026(231)3320
札幌営業所 TEL 011(833)0040
仙台営業所 TEL 022(287)0950
盛岡営業所 TEL 019(632)6211
郡山営業所 TEL 024(925)5536
名古屋営業開発課 TEL 052(733)3532
名古屋第1営業所 TEL 052(733)3471
名古屋第2営業所 TEL 052(733)3472
静岡営業所 TEL 054(280)5272
金沢営業所 TEL 076(246)7001
西日本営業開発部 TEL 06(6943)1645
西日本営業開発部 商業施設 TEL 06(6943)1647
大阪第1営業所 TEL 06(6943)1671
大阪第2営業所 TEL 06(6943)1672
京都営業所 TEL 075(693)7755
神戸営業所 TEL 078(291)8444
広島営業所 TEL 082(239)2858
岡山営業所 TEL 086(244)3366
高松営業所 TEL 087(815)1150
松山営業所 TEL 089(925)6366
福岡営業開発課 TEL 092(411)9076
福岡営業所 TEL 092(411)9076
北九州営業所 TEL 093(522)0235
鹿児島営業所 TEL 099(263)7477
沖縄営業所 TEL 098(884)5652
ハウジング営業部 東京 TEL 03(6400)5294
ハウジング営業部 大阪 TEL 06(4707)7510
特販営業部 量販営業 TEL 03(5403)2073
特販営業部 特販事業 TEL 06(6494)6626
建装営業部 東京 TEL 03(5403)2063
建装営業部 大阪 TEL 06(6494)1540
グローバル戦略推進部 TEL 03(5403)2078

札幌ショールーム TEL 011(833)1730
〒062-0911
札幌市豊平区旭町3-1-7

東京ショールーム TEL 03(5421)3711
〒141-0022
東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター 4F

名古屋ショールーム TEL 052(745)1691
〒466-0006
名古屋市長和区北山町3-20-1 東リ名古屋ビル 2F

大阪ショールーム TEL 06(6943)1649
〒540-0008
大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル 7F

福岡ショールーム TEL 092(433)1002
〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2-15-19 KS-T駅東ビル 1F

2023年4月発行

業務用販促資料